秋 田 市

地ノ内遺跡

― 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書

同和住研工業株式会社 1997-3 太平不動産株式会社 秋田市教育委員会 本書は、秋田市添川地内に所在する地ノ内遺跡の発掘調査 報告書です。

当社では秋田市添川字地ノ内に宅地造成計画をしました。 しかし、予定地内には地ノ内遺跡が存在することから秋田市 教育委員会と協議を重ね、工事着工前に発掘調査を実施する こととし、平成8年5月下旬から11月上旬に分布調査と発掘 調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代前期及び中期の竪穴住居跡、土壙等 が確認され、集落の一部であることが判明いたしました。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保 護のために広く活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、発掘調査にご尽力をいただきました秋田市 教育委員会をはじめ、関係各位の皆様に深く感謝を申しあげ ます。

平成9年3月

同和住研工業株式会社 代表取締役 二 田 悟 郎

太平不動産株式会社 代表取締役 加 藤 忠 武

例 言

- 1 本報告書は、宅地造成に伴り地ノ内遺跡(秋田市添川字地ノ内)の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本報告書の執筆は、菅原俊行、石郷岡誠一の助言を得て西谷 隆、安田忠市が行った。
- 3 発掘調査、整理作業の過程で、下記の各氏より指導、助言を賜った。(敬称略)
 冨樫泰時、武藤祐浩(秋田県教育庁文化課)、庄内昭男、高橋忠彦(秋田県埋蔵文化財センター)
- 4 遺跡の地形・地質は、「土地分類基本調査 地形・表層地質・土じょう 秋田 経済企画庁総合開発局国土調査課 1966年3月」を参照した。
- 5 遺構の平面図及び土層断面図中のPは土器(片)、Sは石(礫)を示す。また、土器実測図で断面を黒塗した ものは須恵器及び中世陶器である。
- 6 発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他の記録は秋田市教育委員会が保管する。

目 次

序网章

査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査に至るまでの経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査期間と体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
来跡者	2
遺跡の位置と地形・地質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
遺跡の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
周辺の遺跡	2
査の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
遺構外出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
土製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
遺構外出土石器·····	98
まとめ	118



遺跡全景 (南→)



5 号住居跡(東→)

調査の概要

調査に至るまでの経過

同和住研工業株式会社と太平不動産株式会社は秋田市添川字地ノ内地区に大規模宅地開発を計画した。開発区域 は周知の遺跡にはなっていないが、旭川左岸の標高約20mの段丘周辺は遺跡が存在する可能性があることから、同 和住研工業株式会社と太平不動産株式会社は秋田市教育委員会と遺跡の分布調査について事前協議を行った。そし て、平成8年3月14日に遺跡分布調査及び遺跡範囲確認調査を秋田市教育委員会に依頼された。

秋田市教育委員会は、調査の依頼を受けて平成8年5月20日から24日まで遺跡分布調査及び遺跡範囲確認調査を 実施した。調査の結果、縄文時代の遺構と遺物が確認され、発掘調査面積を確定した。そして、開発計画の変更や 当該遺跡の保護について再び協議した結果、開発計画の変更は不可能であること、工事着工時期が迫っていること、 用地買収が済んでいることなどから発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することとした。

調査期間と体制

調査期間 平成8年6月17日~11月7日

調査面積 約3,000m²

調查主体者 同和住研工業株式会社、太平不動産株式会社

調查担当者 秋田市教育委員会

調 查 体 制 秋田市教育委員会文化課

課長菅原俊行

課長補佐 石郷岡 誠 一

主 査 西 谷 隆(調査担当)

主 査 安 田 忠 市(調査担当)

主 事 佐々木 清

調査作業員 船木 健、工藤小一、佐藤勇雄、佐藤耕蔵、高津公祥、工藤ミエ、金子ユキ子、石井ヤエ、鎌田克子、鎌田千代、小林アイ子、小柳絹子、熊沢トシ子、佐田孝子、佐藤イト子、佐藤キクノ、佐藤静子、佐藤スズ、佐藤テツ、佐藤トシ子、佐藤芳枝、徳山京子、山田綾子、若狭キミ子、若狭栄子、渡辺君子、渡辺リサ、三浦光子、鈴木博子、鈴木ルミ子、佐々木たき子、佐々木哉子

整理作業員 鈴木博子、鈴木ルミ子、佐々木たき子

事 務 員 荻原富貴子

調査の方法と経過

調査区に任意の点1ヶ所を選定し、この基準杭から南北基線とこれに直交する東西基線に4×4mのグリッドを 設定した。グリッドは東西方向(X軸)に東から2文字のアルファベット(LS、LT、LU・・・)を、南北方 向(Y軸)に南から2桁の数字(30、31、32・・・)を配し、その組合せをグリッド名とした。

発掘調査は6月17日から11月7日まで実施した。6月17日、調査を開始する。重機による表土除去作業(21日まで)。19日、機材を搬入する。6月20日、本日より作業員が入る。機材の点検及びベルトコンベアーを設定する。並行してグリッド設定及びレベルの移動を行う。6月21日、グリッド掘りを開始する(7月26日まで)。7月25日、遺構調査を開始する。10月19日、平面実測を開始する。10月22日、航空測量を実施する。10月23日、遺跡全景写真撮影を実施する。10月31日、機材を撤去する。11月7日、平面実測を終え調査を終了する。

来跡者

国樫泰時、佐藤文義、佐藤 淳、石郷岡千鶴子、武藤祐浩(秋田県教育庁文化課)、庄内昭男、高橋忠彦、藤澤 昌、高橋 学、伊藤 攻(秋田県埋蔵文化財センター)、工藤嘉左衛門(秋田県議会議員)、荻原 守(秋田市議会議員)、バウシ・イローナ(国學院大學大学院生)、張 正華(中国蘭州市)、五十嵐芳郎、天野荘平(秋田考古学協会)、小玉邦典(南秋田郡飯田川町文化財保護審議会委員)、鈴木 功

遺跡の位置と地形・地質

遺跡の位置

遺跡は秋田市の北東部にあたる秋田市添川字地ノ内に所在する。秋田市街からは主要地方道秋田・八郎潟線の添 川字添川にある添川橋の手前約250mの地点で、旭川左岸の標高約20mの段丘上に位置する。

北緯39°44′55″、東経140°8′23″で、JR東日本奥羽本線秋田駅から北へ約4.5km、日本海からは約7km内陸へ入った地点である。また、遺跡の北側約250mには旭川が流れている。

遺跡の地形・地質

遺跡周辺の地形は、地形区分によれば山地・丘陵及び低地に分けられる。遺跡の東部は出羽山地の一部である仁 別山地に、北部は仁別山地の西側に連なった上新城丘陵に、さらに南部は上新城丘陵と同様に仁別山地に連なった 羽黒山丘陵に画される。そして、この両丘陵に挟まれた旭川上流から秋田市街地北部にかけての比較的幅の狭い低 地が旭川低地である。

両丘陵の地質は、第三紀中新世の暗灰色泥岩(船川層)、鮮新世に属する青色砂質シルト岩(笹岡層)、青灰色 塊状泥岩(天徳寺層)、第三系の青灰色泥岩の互層(桂根層)と同時期の安山岩類(爼山安山岩類や羽黒山安山岩) などから構成されている。羽黒山丘陵の谷密度は30~50/kmで、起伏量は50~100m/kmとなっている。構成層は 最大径10cmの礫を含む砂礫層である。羽黒山丘陵の谷沿いには数段の段丘が分布しているが、遺跡はこの羽黒山丘 陵の西端部と旭川低地の境界部の段丘上に立地している。遺跡の所在する段丘の標高は19~20mであり、旭川の現 河川面(標高12m)との比高差は7~8 mである。

遺跡の概観

遺跡は羽黒山丘陵の西端部に張り出した舌状台地に立地し、遺跡の範囲は南北120m、東西150mと推定される。 調査区の南西から中央部にかけては平坦で、北西から北東部にかけては緩斜面である。標高は約20mで、現水田 面である沖積低地との比高差は約5mである。

調査の結果、縄文時代前・中期の竪穴住居跡、竪穴遺構、土壤及び弥生時代前期の土壤等が確認された。隣接する遺跡は南西側約400mに縄文時代の「地ノ内 I 遺跡」、北東側約600mに縄文時代晩期及び平安時代の「戸平川遺跡」、北側約300mに縄文時代の「飛鳥田遺跡」等の関連遺跡が所在する。

周辺の遺跡 (第2図)

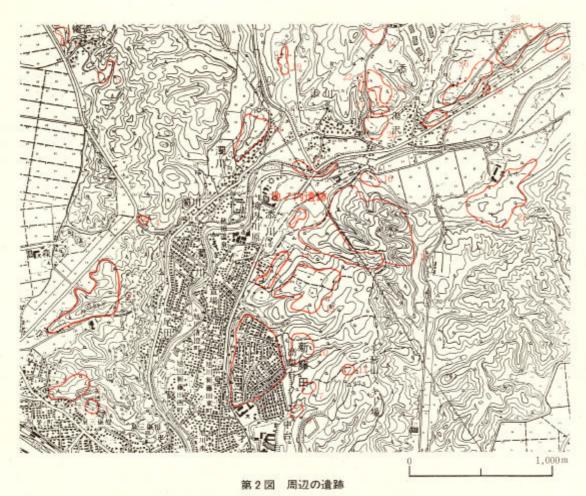
秋田市では昭和61年から63年にかけて遺跡詳細分布調査を行い、360カ所の遺跡が確認されている。この分布調査に基づいて旭川流域およびその周辺の遺跡について概観してみたい。

旧石器時代は1遺跡の確認で、「古城廻Ⅱ遺跡(23)」から石刃を1点採集している。

縄文時代については、「戸平川遺跡(16)」は平成7、8年に秋田県教育委員会により調査が行われ、晩期中葉の 墓域と摑立柱建物跡、さらに沢部分より多量の土器(壺形土器、皿形土器等)及び石器等が出土している。「蟹子







渡 袱 書号 遺跡名 所 在 地 株 91 BP 代 激 1 万国山天德寺 秋田市泉三嶽根10-出 4 近世 国指定重要文化财(建造物)、秋田系指定史餘 2 山 崎 館 > 外旭川山崎 城館 中世 邦・腰郭 縄文・中世 3 大 堤 館 縄文土器、郭・腰郭・空港・土塁 〃 外旭川大堤、山崎 遷物包含地・城館 4 堤 外旭川宇大場 遺物包含地 魔文 縄文土器 5 三 ノ 堰 ッ 外旭川三ノ堰 縄文・奈良・平安 縄文土器・赤褐色土器 遺物包含地 縄文・奈良・平安 縄文土器・須恵器 6 南 沢 " 外城川字南沢 遺物包含地 大松武工 # 手形字大松沢 高坡 縄文 土器埋設遺構、ビット、縄文土器 8 大松沢田 * 手形字大松沢 中世 中世陶器 遺物包含地 縄文土器・石鏃・石靴・スクレイバー 縄文 9 高 梨 台 // 新藤田宇高梨台 **撤物包含地** 10 中 山市 新藤田宇中山台 遺物包含地 奈良・平安 須密器 奈良・平安 半地下式登案2基、須恵醬 (杯・蓋・甕・鉢等) 11 手形山濱跡 * 手形字大松沢 海路 12 地 ノ 内 1 * 振川字地/内 退物包含地 绳文 縄文土器 激物包含地 縄文 衛文士器 13 地ノ内Ⅱ 14 地/内館 中世 郭・腰郭・帝郭・空期 ※ 器川字地ノ内 城 盤 科・腰郭・空相・整規 城 鄭 中世 15 天 館 * 透川字戸平川 基域・捨て場 縄文・平安 擬立柱建物跡、土壙墓、縄文土器・赤褐色土器 16 17 飛 島 田 縄文・平安 # 番川字景島田 縄文土器・赤褐色土器 遺物包含地 竪穴住居跡・土壙・土塁埋設遺構、縄文土器・赤褐色土器 18 蟹 子 叔 〃 澳川字蟹子积 象压器 縄文・平安 遺物包含地 奈良・平安 須恵器・赤褐色土器 19 太 m # 、番川字太田33 中世 20 悉 川 館 * 添川字古城圏 城館 瓦・須恵器 21 古装翅藻蘚 # 纸川字古城翘 寓 跡 泰良,平安 遺物包含地 平安 赤褐色土器 22 古族題 1 n 抵川字古城圏 遗物包含地 旧石醬・奈良・平安 石磐・須恵路・赤褐色土器・鉄棒 23 古城殖口 平安 24 古 族 幾 Ⅲ ※ 抵刑字古城層 遣物知合地 统十遺標 25 編末台目 遺物包含地 縄文・奈良・平安 縄文土器・須恵器・赤褐色土器 構文・奈良・平安 構文士器・石線・須恵器・赤褐色土器 26 海沢台1 * 番川字書訳台175 遣物包含地 縄文 縄文土器・石器 27 摄识台 11 ク 福川宇備択台 運動包含地 H * 添川字蓮田169-遺物包含地 奈良・平安 土鍋器・須恵器 28 🍱 29 傷 沢 台 N * 添川字葉沢台 縄文・奈良・平安 縄文土器・石器・領恵器 遺物包含地 奈良・平安 須恵器 # 添川字長田 30 長 HH 通物包含地

沢遺跡(18)」は平成6年に秋田市教育委員会(宅地造成に伴う緊急発掘調査)と秋田県教育委員会(東北横断自動車道秋田線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査)により調査が行われ、縄文時代前期後葉から中期前葉にかけての集落跡が検出されている。「湯沢台Ⅱ遺跡(27)」は中期の遺跡で、土器及び石器を採集している。

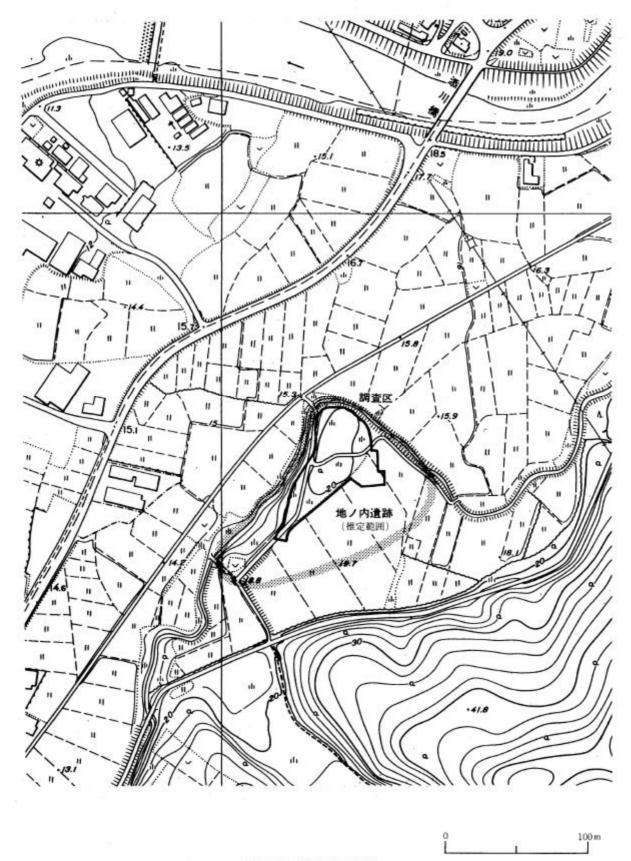
弥生時代については、この地域ではいまのところ確認されていない。

古代については、「手形山窯跡(11)」は昭和49年に秋田考古学協会により調査が行われ、8世紀末から9世紀中半にかけて須恵器を焼成した登窯が2基確認されている。「古城廻窯跡(21)」は平成5年に秋田市教育委員会が秋田市史編さん事業の一環として調査が行われ、平安時代前半の登窯が1基確認され、瓦・須恵器等が出土している。いずれも西方約5.5kmに位置する秋田城跡と密接な関係が伺われる遺跡である。「蓬田遺跡(28)」からは土師器甕・土師器鉢・須恵器・土製品の破片を採集している。

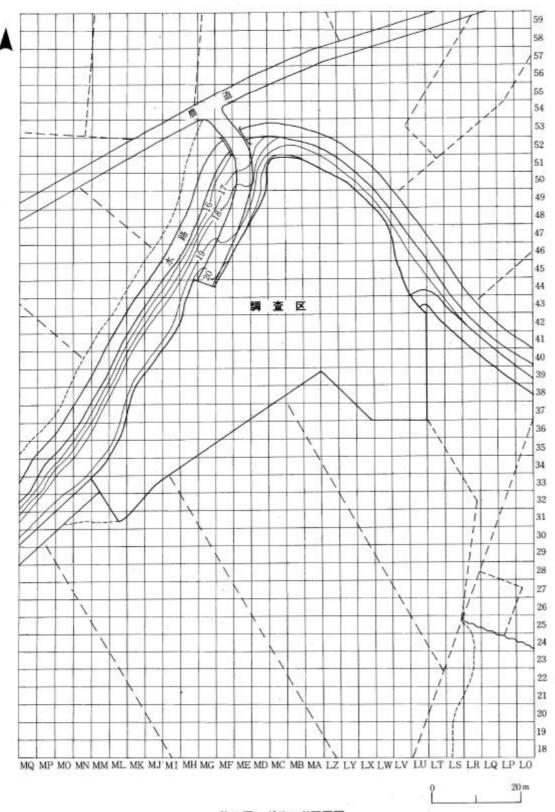
中世については、「山崎館(2)」は旭川右岸の標高約30mに位置する。館は単郭で、南・東・北側に腰郭が認められる。「大堤館(3)」は旭川右岸の標高約45mの丘陵を利用した館で、郭・腰郭・空堀・土塁が認められる。「添川館(20)」は旭川右岸の標高約40mにあった旧添川小学校跡地と考えられるが、校舎建設の際に破壊されている。「地ノ内館(14)」は旭川左岸の標高約90mに位置する。館は単郭で、西側に2段の腰郭と、北・南側に帯郭、北側に空堀が認められる。「天館(15)」は旭川左岸の標高約100mに位置し、「地ノ内館」とは峰続きである。館は頂部と、ここから派生する6ケ所の尾根を利用した連郭からなり、郭・腰郭・空郭・竪堀が認められる。本館は旭川流域では最も規模の大きい館跡である。

近世については、「万固山天徳寺(1)」の総門・山門・本堂・書院・霊屋が国指定重要文化財、境内全域が県指定史跡となっている。

- 註1 「秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書」 秋田市教育委員会 1989年3月
- 註2 「秋田市湯沢字湯沢台」 五十嵐芳郎 遺跡とその資料Ⅲ 1965年 秋田市とその周辺 1965年 「環状 第4号」 秋田県埋蔵文化財保護サークル「環状」 1982年3月
- 註3 「秋田県埋蔵文化財センター年報14 平成7年度」 | 秋田県埋蔵文化財センター 1996年3月 「秋田県埋蔵文化財センター年報15 平成8年度」 | 秋田県埋蔵文化財センター 1997年3月
- 註4 「秋田市蟹子沢遺跡-宅地造成に伴り緊急発掘調査報告書-」 秋田市教育委員会 1995年3月
- 註 5 「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 XX.一蟹子沢遺跡一」 秋田県文化財調査報告書第261号 秋田県教育 委員会 1996年 3 月
- 註 6 「秋田市添川字添川」 五十嵐芳郎 遺跡とその資料Ⅲ 1965年 秋田市とその周辺 1965年 「秋田市周辺の縄文晩期末及後続期の遺跡概要」 奥山潤 秋田考古学22号 秋田考古学協会 1963年9月
- 註7 「手形山窯跡」 秋田考古学協会 1975年2月
- 註8 「秋田市史叢書1 古城遡窯跡発掘調査報告」 秋田市史編さん室 1997年3月
- 註9 「秋田市湯沢字蓬田」 五十嵐芳郎 遺跡とその資料Ⅲ 1965年 秋田市とその周辺 1965年
- 註10 「秋田県の中世城館」 秋田県文化財調査報告書第86集 秋田県教育委員会 1981年3月
- 註11 註10に同じ
- 註12 註10に同じ
- 註13 註10に同じ
- 註14 註10に同じ
- 註15 「秋田県遺跡地図(中央版)」 秋田県教育委員会 1990年3月



第3図 遺跡周辺の地形



第4図 グリッド配置図

調査の記録

基本土層 (第5図)

基本土層は第1層 表土、第11層 黒色土(礫混入)、第111層 暗黄色土、第 17層 黄褐色土(礫混入)で、第11層が遺物包含層、第111層がローム漸移層、 第17層がローム層(地山)である。

遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡20軒、竪穴遺構9基、土壙241基で、全て地山面での確認 である。

	I	
	П	
-	Ш	
	·IV	

第5図 基本土層柱状図

竪穴住居跡

1号住居跡 (第6図)

調査区の北側で確認され、2号住居跡に切られている。

壁は北側のみの確認で、平面形は不明である。周溝が3条認められ、内側の溝は輻約15cm、深さ5~10cm、中間 の溝は幅15~20cm、深さ10~34cm、外側の溝は幅15cm、深さ5~10cmで、2回建て替えを行っており、床面の状況 から拡張と考えられる。確認面からの深さは40cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは約20個確認されたが、 主柱穴は不明である。炉は地床炉と考えられるが、床面に焼土が広く分布している。床面はほぼ平坦であるが、黄 褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第66図9~12)

全て覆土出土の深鉢形土器である。頸部に粘土紐を貼付するもの、地文のみのものである。9は粘土紐に斜方向から刺突を施している。地文は9、12が撚糸文、11がLR単節斜縄文(横位回転)で、10は組紐回転と考えられる。

石器 (第70図1~4)

全て覆土出土である。1、2は石匙である。いずれも縦型で、石質は硬質頁岩である。3はヘラ状石器である。 両面調整で、石質は硬質頁岩である。4は削器である。1側縁に二次加工を施して刃部を作り出すもので、石質は 硬質頁岩である。

2号住居跡(第6図)

調査区の北側で確認され、1号住居跡を切っている。

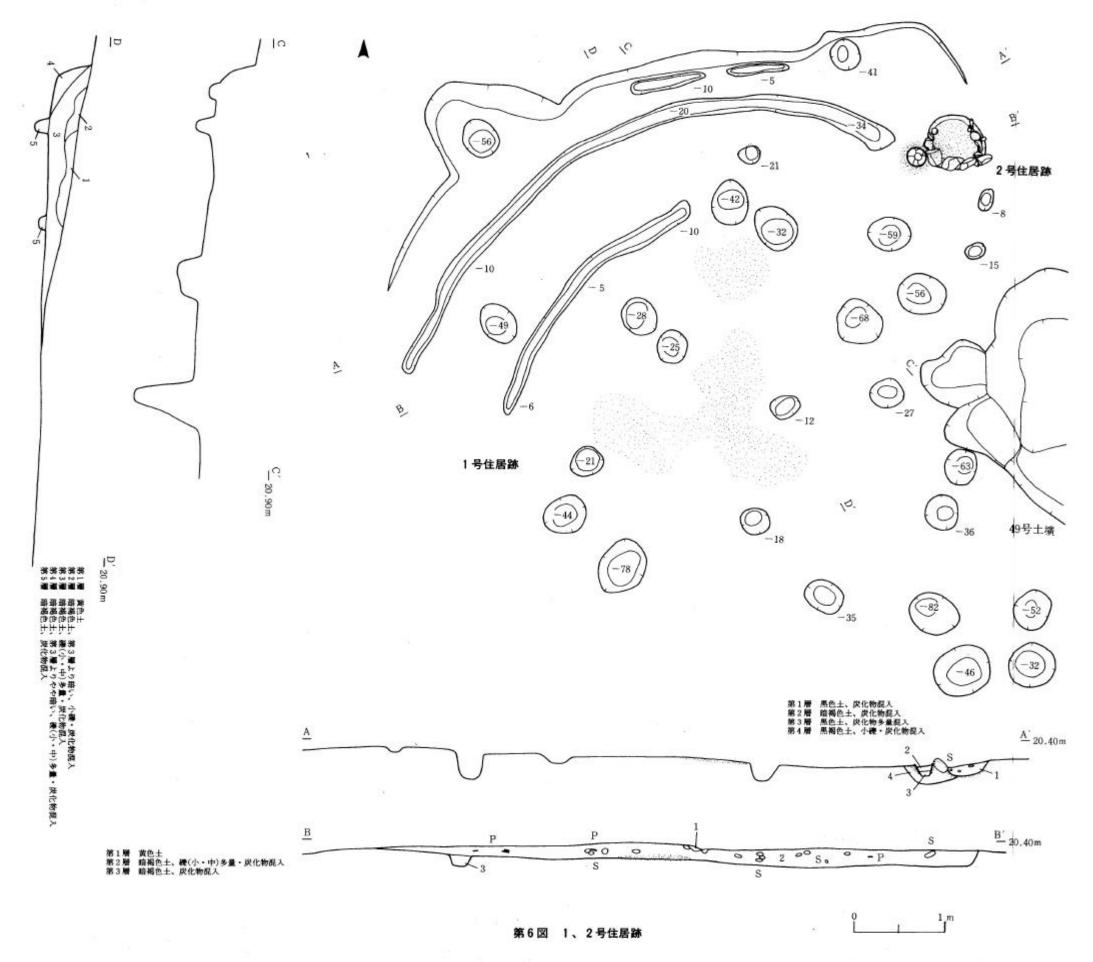
壁は北側の一部のみの確認であり、規模及び平面形は不明である。確認面からの深さは30cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。炉は土器埋設部、石組部からなる複式炉である。土器埋設部は深鉢形土器を埋設し、周辺は火熱を受けて赤変している。石組部は側面に石を組んでいるが、底面は黄褐色土(地山)に混入している礫が露出し、底・側面が火熱を受けている。床はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第24図1)

1は炉埋設土器である。深鉢形土器の胴部で、地文は撚糸文である。

土製品 (第88図1)



1は再利用土製品である。土器片を再利用したもので、楕円形を呈する。

石器 (第70図5)

1は覆土出土のヘラ状石器である。両面調整で、石質は硬質頁岩である。

3号住居跡(第7図)

調査区の北側で確認された。

壁は南西側のみの確認であるが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。また、西側に張出しが認められるが、 本住居よりは新しい掘り方と考えられる。確認面からの深さは50cmで、壁は緩く立ち上がる。ビットは住居内外に 5 個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は地床炉が2 基確認され、径40~60cmの円形を呈するものであるが、 いずれも新しい掘り込みによって切られている。床はほぼ平坦で堅いが、黄褐色土(地山)に混入している礫が認 められる。

出土遺物

石器 (第70図6、7)

いずれも覆土出土の石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。

他に縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

4号住居跡(第8図)

調査区の東側で確認され、5、7号住居跡と重複し、7号住居跡を切っているが5号住居跡については不明である。

プランは長軸5.1m、短軸4.3mの楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ビットは12個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は土器埋設部、石組部、掘り込み部からなる複式炉である。土器埋設部は深鉢形土器を斜位に埋設し、周辺が強く火熱を受けている。石組部は側面に石を組み、土器埋設部付近の底・側面が火熱を受けている。掘り込み部は末広がりとなって壁に接し、径約60cm、深さ15cmの掘り込みが認められる。床はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が所々に認められる。

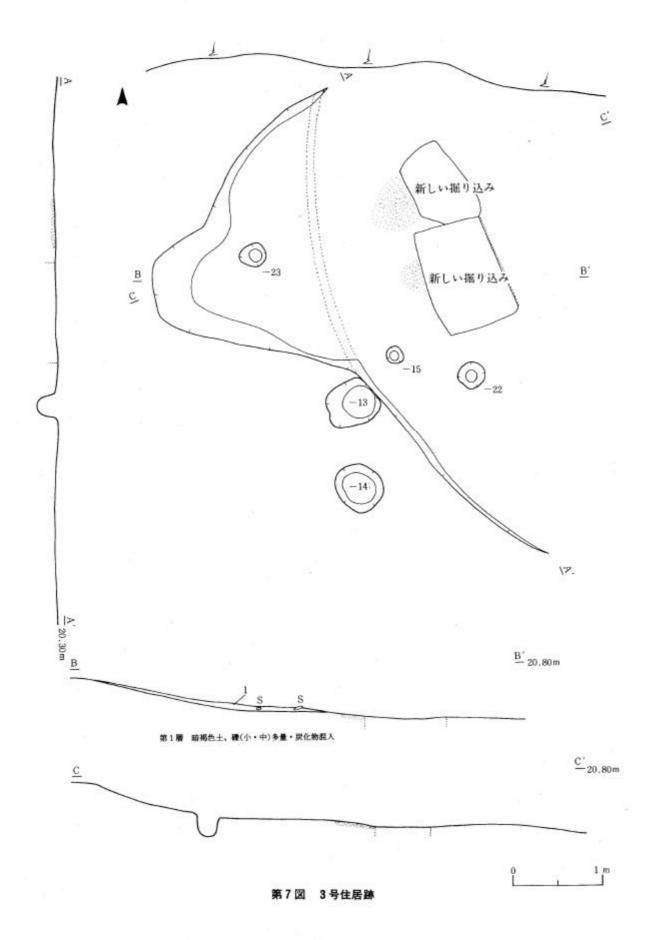
出土遺物

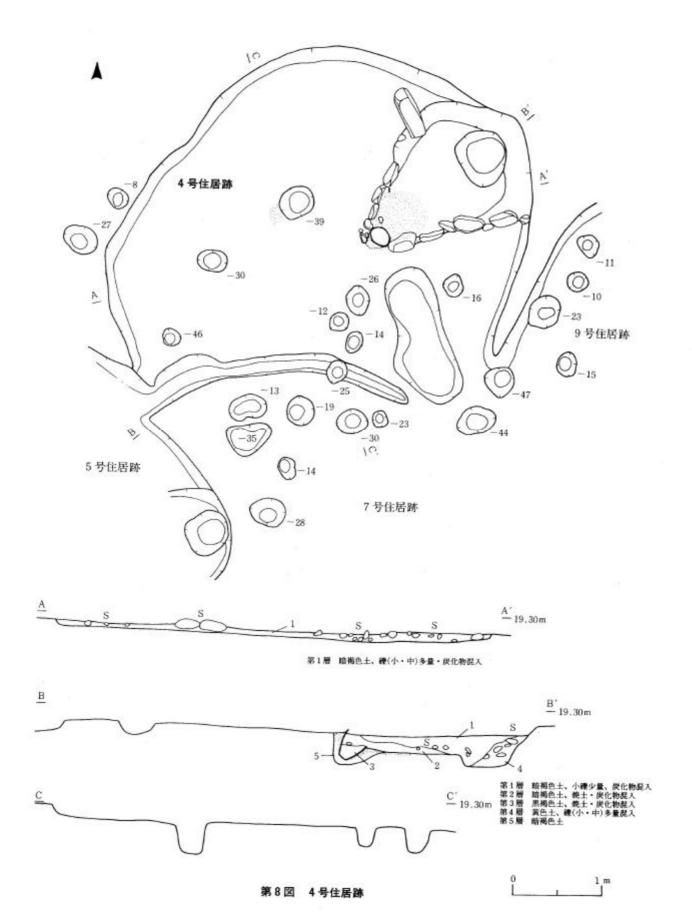
土器 (第24図 2~4、第66図18~22)

2 は炉埋設土器、3、4 は床面、18、22は炉覆土、他は住居覆土出土である。沈線区画の磨消帯を有するもの、 地文のみのものである。2 は口縁部がやや外反する深鉢形土器で、山形口縁である。細い沈線で縦位の楕円形文と 逆「U」字文との組合せで文様を作り出すものである。沈線間は幅の狭い磨消帯で、地文は撚糸文である。3 は口 縁部が緩く外反する深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯が縦位方向へ展開するもので、頚部に粘土紐貼付による 渦巻文を7個配置し、そこから沈線を垂下させている。渦巻文と渦巻文の間には縄文を充塡させた円形文を配して いるが、1 ケ所だけは円形文が認められない。地文はLR単節斜縄文(縦位方向)である。4 は口縁部が内誇しな がら立ち上がる深鉢形土器で、地文はLR単節斜縄文(縦位回転)である。18~21は沈線区画の磨消帯を有するも のであるが、18~20は幅の狭い磨消帯が縦位方向へ展開する。22の地文は撚糸文である。

石器 (第70図8、9、第74図53)

8、9は炉、53は覆土出土である。8は石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。9は削器である。 両側縁に二次加工を施して刃部を作り出すもので、石質は硬質頁岩である。53は磨石である。自然礫の全面が磨れ ているものである。





5号住居跡(第9図)

調査区の東側で確認され、4、6号住居跡と重複し、6号住居跡に切られているが4号住居跡については不明で ある。

プランは長軸5m(推定)、短軸4.4mの楕円形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ビットは9個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は石組部と掘り込み部からなる複式炉である。石組部は石を側面に組み、住居中央部寄りの底・側面が火熱を受けている。また、掘り込み部寄りの底面に細長い石を平行に組んでいる。掘り込み部は壁に接し、径50cm、深さ10cmの掘り込みが認められる。床はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第24図5、第66図23)

いずれも覆土出土の深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯を有するもの、地文のみのものである。5は口縁部が 内灣しながら立ち上がり、地文はLRL複節斜縄文(縦位方向)である。23は幅の狭い磨消帯を有する。

石器 (第70図10~13)

11は炉、他は覆土出土の石鏃である。基部は10が有茎、11~13は無茎で、石質は全て硬質頁岩である。

6号住居跡 (第10図)

調査区の東側で確認され、5号住居跡を切っている。

プランは長軸3.3m、短軸3.1mの楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ビットは5個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は石組部と掘り込み部からなる複式炉である。石組部は石を側面に組み、底・側面が火熱を受けている。掘り込み部は壁に接すると考えられ、長軸85cm、短軸50cm、深さ25cmの掘り込みが認められる。床はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が認められる。

出土遺物

石器 (第70図14、第74図54)

いずれも覆土出土である。14は石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。54はくぼみ石である。自然 礫の両面にくぼみ部が認められるものである。

他に縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

7号住居跡 (第11図)

調査区の東側で確認され、4号住居跡に切られている。

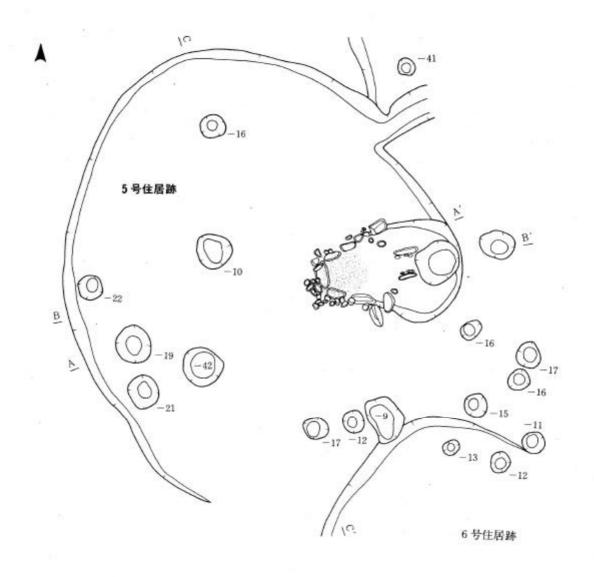
ビットと炉の確認で、規模及び平面形は不明である。ビットは10数個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は石組部、掘り込み部からなる複式炉である。石組部は住居中央部寄りに長さ45cmの川原石を据え、側面と掘り込み部側の底面に石を組み、底・側面が火熱を受けている。掘り込み部は一段浅く掘られているが、壁寄りに径70cm、深さ10cmの掘り込みが認められる。床はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が認められる。なお、炉の北側に溝跡が認められるが、本住居に関係するものかは不明である。

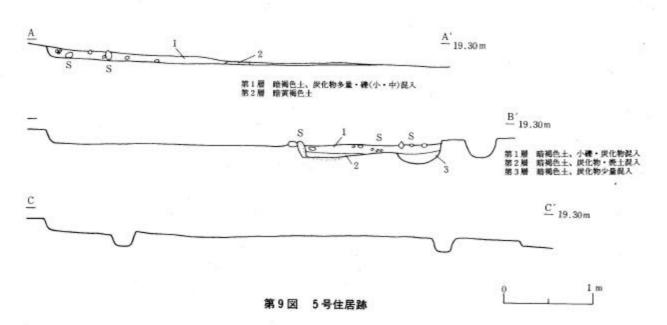
出土遺物

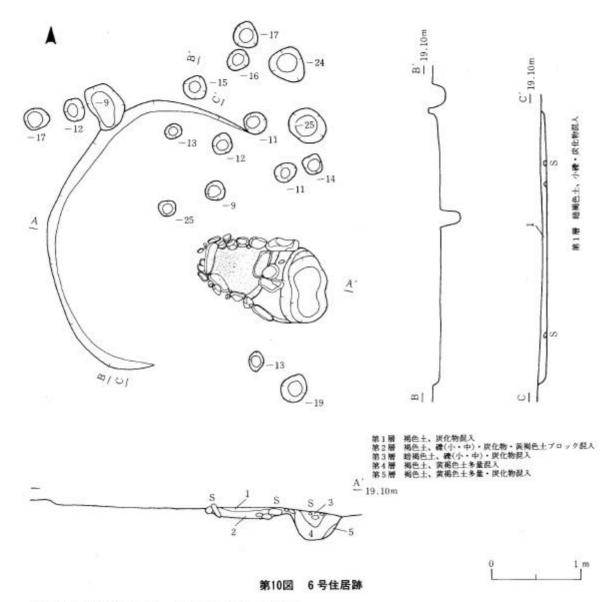
土器 (第66図24)

24は炉覆土出土である。深鉢形土器の胴部で、沈線区画の磨消帯を有するものである。

8号住居跡 (第12図)







調査区の東側で確認され、9号住居跡を切っている。

壁は西側の一部のみの確認で、規模及び平面形は不明である。ビットは9個確認されたが、主柱穴は不明である。 炉は土器埋設部、石組部からなる複式炉である。土器埋設部は埋設土器が2個認められ、石組部側の埋設土器が住 居中央寄りの埋設土器を切っている。いずれも深鉢形土器を埋設し、周辺が火熱を受けている。石組部は石を側面 に組んでいるが、底面は黄褐色土(地山)に混入している礫が露出し、底・側面が火熱を受けている。床は東側へ 若干傾斜し、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

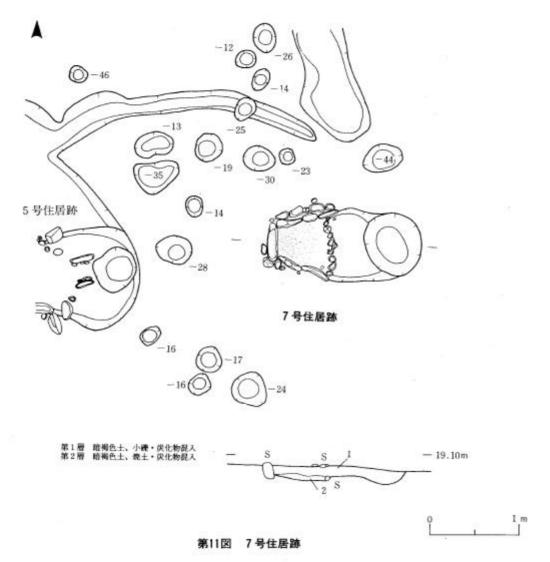
出土遺物

土器 (第25図6、7)

いずれも炉埋設土器で、6が石組部側、7が住居中央部側出土である。6は口縁部が緩く内湾しながら立ち上が る深鉢形土器で、器面全体に条痕文が施されている。7は深鉢形土器の胴下部で、地文はLR単節斜縄文(縦位方 向)である。

石器 (第70図15)

15は覆土出土の石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。



9号住居跡 (第12図)

調査区の東側で確認され、8号住居跡に切られている。

壁は北西側のみの確認で、規模及び平面形は不明である。確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ビットは数個確認されたが、主柱穴は不明である。床は東側へ若干傾斜し、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

石器 (第70図16、17)

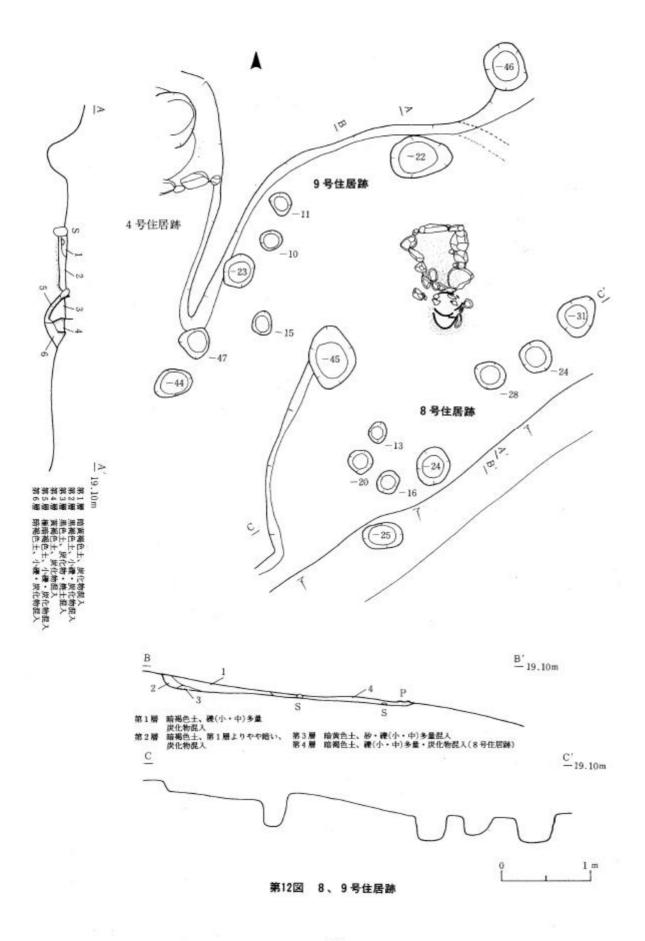
いずれも覆土である。16は石鏃である。基部は有茎で、石質は硬質頁岩である。17はヘラ状石器である。両面調整で、石質は硬質頁岩である。

他に縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

10号住居跡 (第13図)

調査区の東側で確認された。

ピットと炉の確認で、規模及び平面形は不明である。ピットは数個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は石



組部、掘り込み部からなる複式炉である。石組部は石を側面と掘り込み部側の底面に組み、底・側面が火熱を受けている。掘り込み部は石組部側に浅い掘り込みが認められる。床面はほぼ平坦である。

出土遺物

石器 (第71図18、19)

いずれも炉覆土出土である。18は石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。19はヘラ状石器である。 両面調整で、石質は硬質頁岩である。

他に縄文土器片少量出したが、小破片であり図示できなかった。

11号住居跡 (第14図)

調査区の東側で確認された。

壁は南側のみの確認で、規模及び平面形は不明である。確認面からの深さは15cmで、壁は緩く立ち上がる。ビットは数個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は地床炉と考えられるが、焼土が約2mの範囲で検出された。床はほぼ平坦で堅い。

出土遺物

土器 (第60図25~28)

全て覆土出土の深鉢形土器で、地文のみのものである。25は口縁部が外反し、口唇部に棒状工具で刻みを入れている。地文はLR単節斜縄文(縦位回転)であるが、一部同一原体で縦位方向へ回転している。26は撚糸文、27は不整燃糸文と考えられる。28はLR単節斜縄文(横位回転)で、綾絡文が認められる。

石器 (第71図20~24、第74図55、56)

23はビット、24は床面、他は覆土出土である。20は石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。21~23 は石匙である。全て縦型で、石質は硬質頁岩である。24は振器である。縁辺に二次加工を施すもので、石質は硬質 頁岩である。55は石錘である。偏平な自然礫の両端に抉りを入れているもので、両面から打ち欠いている。56は半 円状偏平打製石器である。ほぼ偏平な自然礫の一側縁に両面加工を施して刃部を作り出すものである。

12号住居跡 (第15図)

調査区の南側で確認された。

壁は風倒木によって壊されており、規模及び平面形は不明である。ピットは9個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は地床炉で、径90cmの円形を呈し、強く火熱を受けている。床は平坦で堅いが、黄褐色土(地山)に混入している礫が所々に認められる。

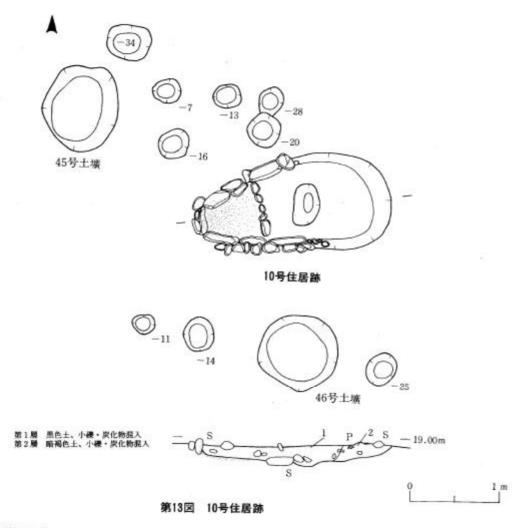
出土遺物

土器 (第66図29~31)

全て覆土出土の深鉢形土器で、地文のみのものである。29は口唇部に斜方向から刺突を施すもので、地文は縦位の羽状縄文である。31は器面の内外面に縄文を施すもので、外面が0段多条のLR単節斜縄文(斜位回転)、内面がLR単節斜縄文(縦位回転)である。また、口唇部には内面と同一の縄文原体による圧痕文が認められる。

石器 (第71図25~28、第74図57)

26はビット、他は覆土出土である。25、26は石鏃である。いずれも基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。27、 28は石匙である。いずれも縦型で、石質は硬質頁岩である。57は磨石である。自然礫の全面が磨れているものである。



13号住居跡 (第16図)

調査区の南側で確認され、37、52号土壙と重複するが新旧関係は不明である。

壁は西側のみの確認で、規模及び平面形は不明である。確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。 ビットは住居内外に7個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は認められない。床はほぼ平坦で堅いが、黄褐色 土(地山)に混入している礫が所々に認められる。

出土遺物

土器 (第66図32)

32は覆土出土である。深鉢形土器の胴部で、撚糸圧痕によって文様を作り出すものである。

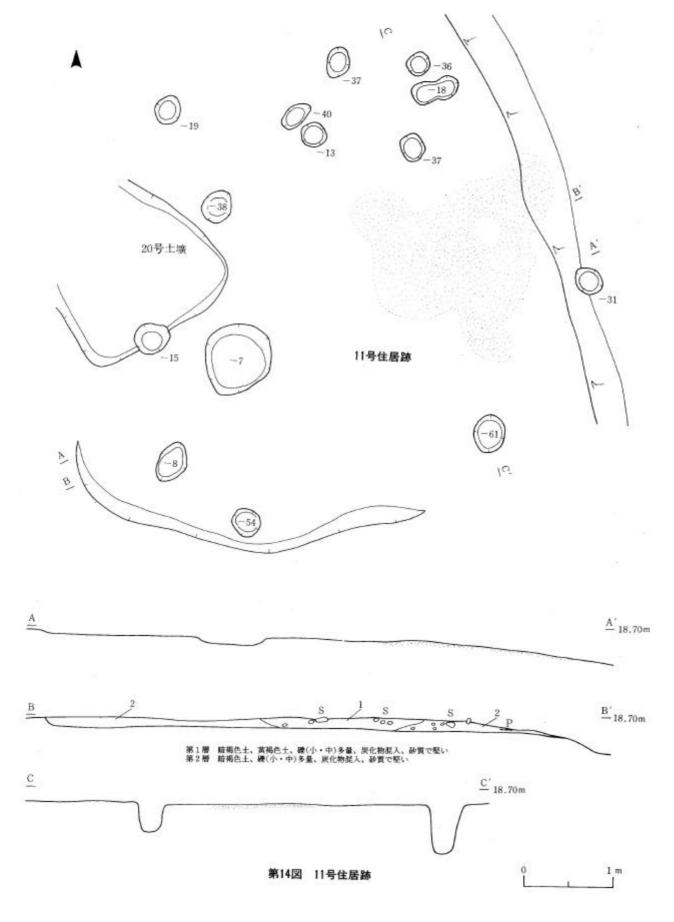
石器 (第71図29、30)

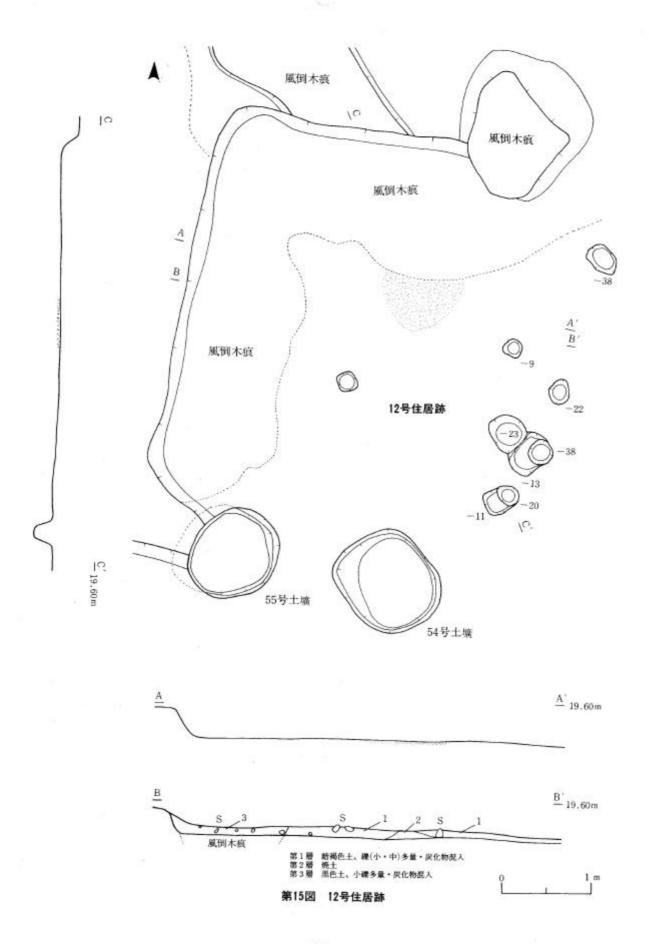
いずれも覆土出土の石鏃である。基部は29が有茎、30は無茎で、石質は硬質頁岩である。

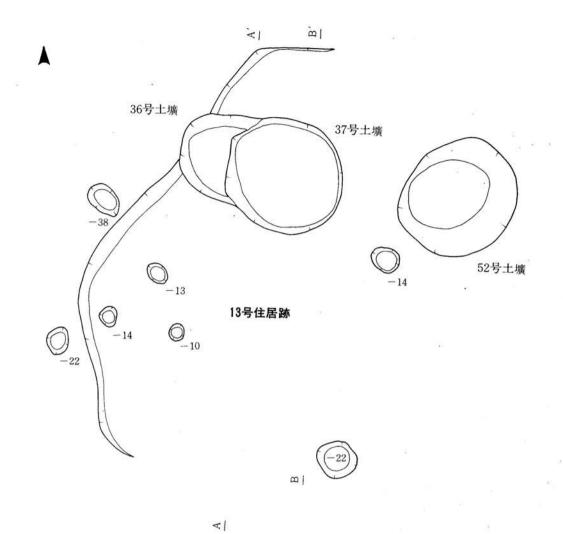
14号住居跡 (第17図)

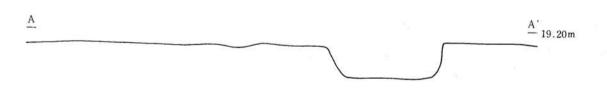
調査区の南側で確認され、38、39、40、41、58、61号土壙と重復し、38、39、58、61号土壙に切られいるが他は 不明である。

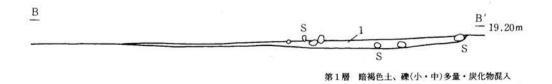
プランは長軸4.8m、短軸3.2mの楕円形を呈し、確認面からの深さは30cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ビッ













トは10個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は認められない。床は平坦で堅い。また、住居中央部に径25cm、 厚さ15cmで上面が平坦な石が置かれていた。

出土遺物

土器 (第67図33~35)

全て覆土出土の深鉢形土器で、地文のみのものである。33は綾絡文、35はLR・RL原体を用いた非結束羽状縄 文が施される。34はLR単節斜縄文(横位回転)で、胎土に繊維が混入している。

石器 (第72図31~33、第74図58)

全て覆土出土である。31は石匙である。縦型で、石質は硬質頁岩である。32はヘラ状石器である。両面調整で、石質は硬質頁岩である。33は石剣である。断面が板状をなすもので、破損している。石質は粘板岩である。58は石皿である。中央部が若干くぼみ、よく磨れている。

15号住居跡 (第18図)

調査区の中央部で確認され、78、79、86、90、91、94~98号土擴に切られ、16号住居跡を切っている。 壁は北西側のみの確認で、長軸は不明であるが短軸は5mと推測され、平面形は楕円形を呈すると考えられる。 確認面からの深さは15~25cmで、壁は緩く立ち上がる。ビットは4個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は認 められない。床はほぼ平坦である。

出土遺物

土器 (第67図36~38)

全て覆土出土の深鉢形土器で、地文のみのものである。36は不整撚糸文、37は撚糸文で、38には稜絡文が認められる。

16号住居跡 (第19図)

調査区の中央部で確認され、15号住居跡、70、71、76~86、90、91、94号土壙に切られ、92、93、103~109号土 壙を切っている。

壁は北側のみの確認で、規模は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは15cmで、壁は緩く立ち上がる。炉は地床炉で、径1mの円形を呈し、強く火熱を受けている。床はほぼ平坦である。

出土遺物

石器 (第75図59)

59は覆土出土の石錘である。偏平な自然礫の両端に抉りを入れているもので、両面から打ち欠いている。

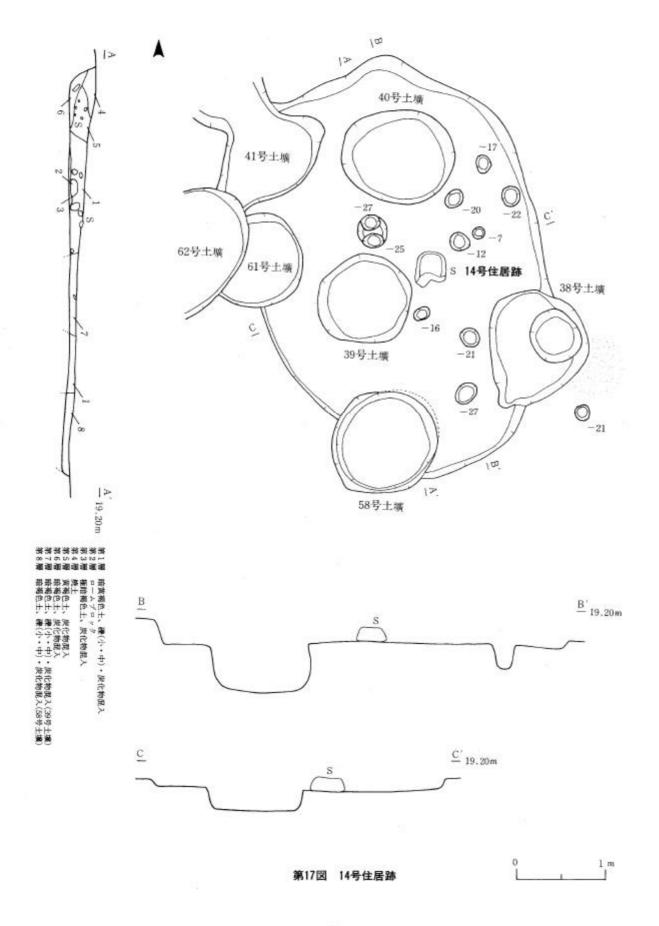
17号住居跡 (第20図)

調査区の南側で確認され、54、142、143、146~148号土壙と重複し、143号土壙に切られているが他は不明である。

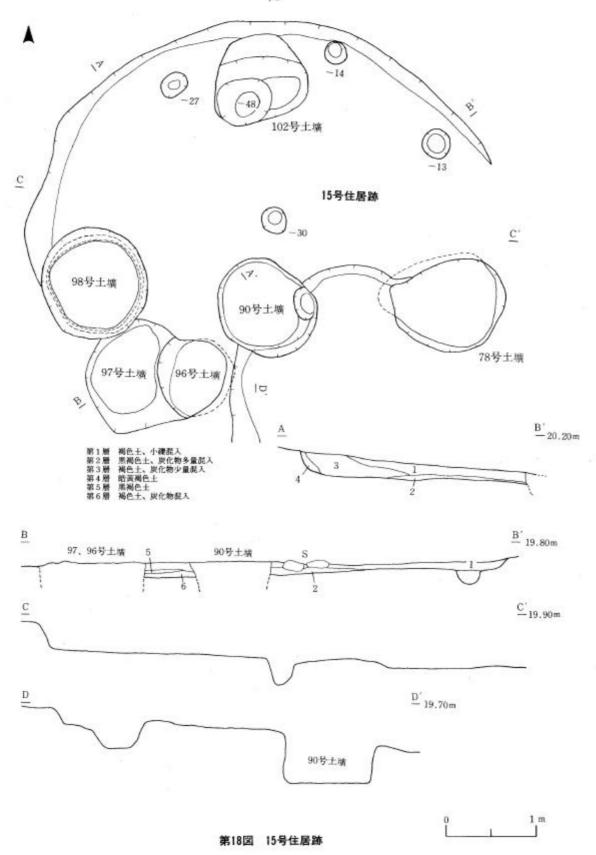
壁は西半分のみの確認で、長軸は不明であるが短軸は6.7mである。平面形は楕円形で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは多数確認されたが、主柱穴は不明である。床面に焼痕が数ケ所認められ炉を特定することができないが、住居長軸線上に地床炉が数基作られていたと推測される。床はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

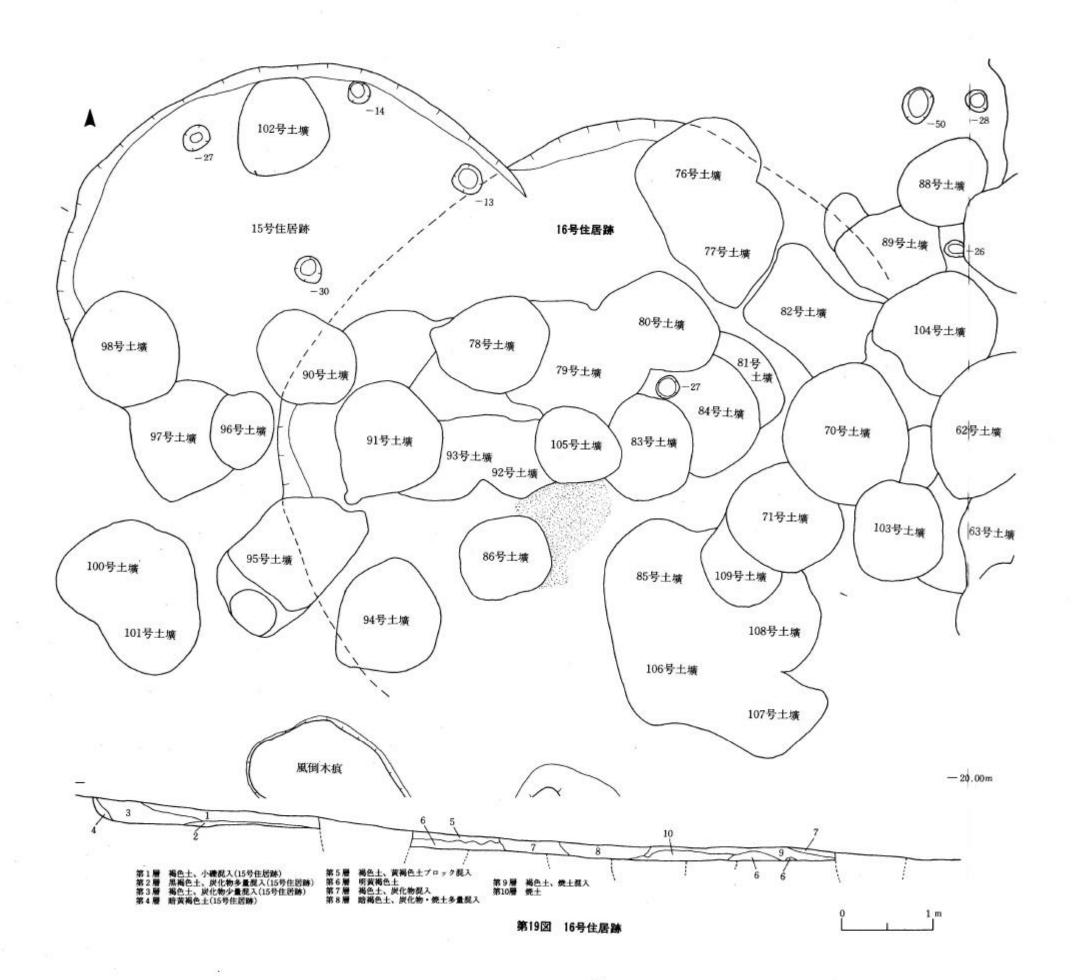
出土遺物

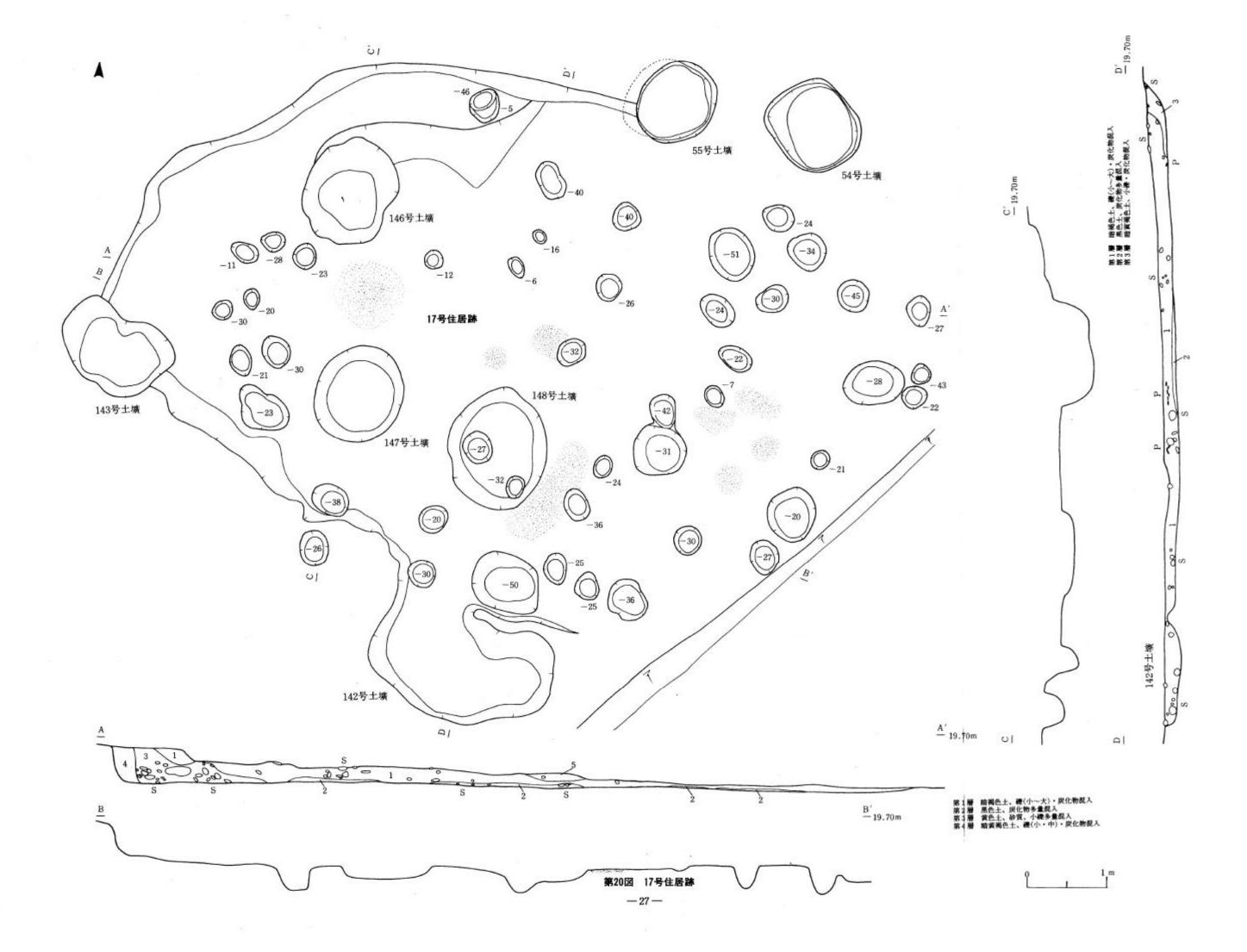
土器 (第67図39~45)











全て覆土出土の深鉢形土器である。39は内外面に縄文を施すもので、内外面に綾絡文が認められる。40は不整燃 糸文が施され、口唇部に2個1対の小突起が付く。41~43は綾絡文が認められる。44は口縁部に燃糸圧痕が施され、 その下に斜方向へ沈線が2条認められる。45は沈線で鋸歯状の文様を施すもので、地文はLR単節斜縄文(横位回 転)である。

石器 (第72図34~39)

全て覆土出土である。34は石鏃である。基部は有茎で、石質は硬質頁岩である。35~37は石匙である。35、36は 横型、37は繰型で、石質は全て硬質頁岩である。38、39はヘラ状石器である。両面調整で、石質は硬質頁岩である。

18号住居跡 (第21図)

調査区の西側で確認され、175、176号土壙に切られ、177、178号土壙を切っている。

プランは長軸3.5m、短軸2.3mの楕円形を呈し、確認面からの深さは30cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ビットは壁際に3個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は認められない。床はほぼ平坦であるが、やや軟弱である。また、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第67図46)

46は覆土出土である。口縁部が外反する深鉢形土器の口縁部で、地文はRL単節斜縄文(縦位回転)である。

石器 (第72図40、第75図60)

いずれも覆土出土である。40は石鎌で、基部は無茎である。石質は硬質頁岩である。60は石錘である。ほぼ偏平な自然礫の両端に抉りを入れているもので、両面から打ち欠いている。

19号住居跡 (第22図)

調査区の北側で確認され、188、189、191、192号土壌に切られている。

壁は南西側のみの確認で、規模及び平面形は不明である。確認面からの深さは10cmで、壁は緩く立ち上がる。ビットは8個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は地床炉が2基確認され、径30~40cmの円形を呈するものである。床は若干凹凸があり、やや軟弱である。また、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

石器 (第72図41、42)

いずれも覆土出土の石鏃である。基部は有茎で、石質は硬質頁岩である。

20号住居跡 (第23図)

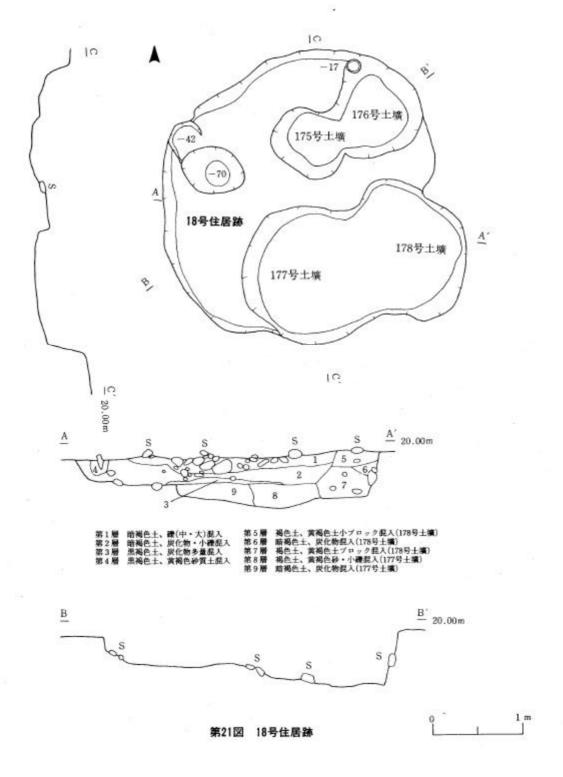
調査区の中央部で確認された。

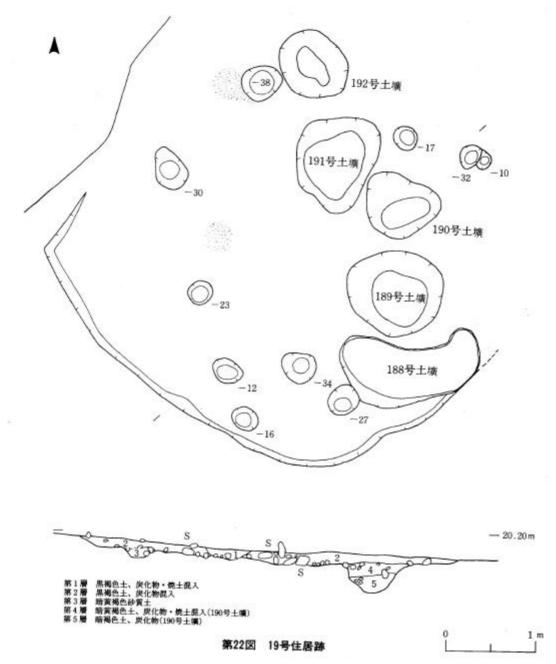
ビットと炉の確認で、規模及び平面形は不明である。ビットは7個確認されたが、主柱穴は不明である。炉は土 器埋設部、石組部からなる複式炉である。土器埋設部は深鉢形土器の胴部を埋設し、周辺が火熱を受けている。石 組部は石を側面に組み、底面は黄褐色土(地山)に混入している礫が露出し、底・側面が火熱を受けている。床は ほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第25図8)

8は炉埋設土器である。深鉢形土器の胴部で、器面全体に条痕文が施される。





竪穴遺構

1号竪穴遺構 (第26図)

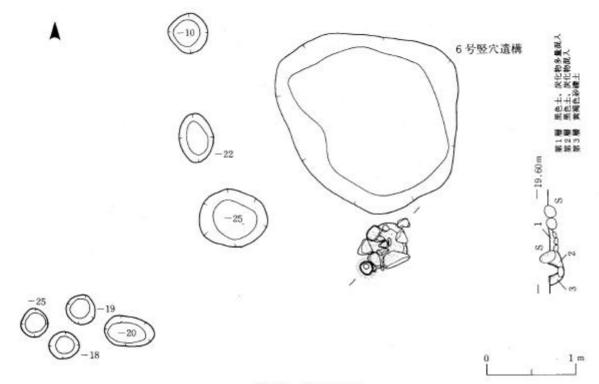
調査区の北側で確認された。

プランは一辺3.4mの方形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは7個確認され、主柱穴は4隅の深さ27cmから36cmの4個である。底面はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が認められる。

出土遺物

土器 (第67図47)

47は覆土出土の深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯が施されるもので、地文はLR単節斜縄文(横位回転)で



第23図 20号住居跡

ある。

石器 (第73図43、44、第75図61)

全て覆土出土である。43は石鏃である。基部は有茎で、石質は硬質頁岩である。44は石匙である。縦型で、石質は硬質頁岩である。61は石皿である。中央部がよく磨れているが、破損している。

2号竪穴遺構 (第27図)

調査区の北側で確認された。

プランは径2.5mの円形を呈し、確認面からの深さは30cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が認められる。

出土遺物

土器 (第67図48~54)

全て覆土出土の深鉢形土器である。沈線区画の磨消帯を有するもので、50、52以外は磨消帯の幅が狭く、磨消帯 は縦位方向へ展開するものである。

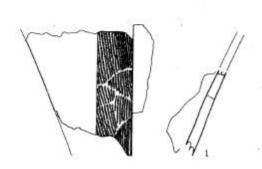
3号竪穴遺構(第27図)

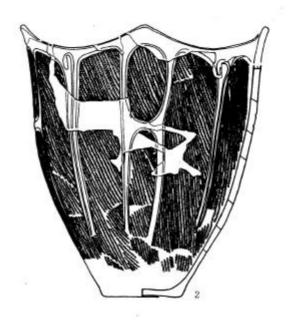
調査区の北東部で確認された。

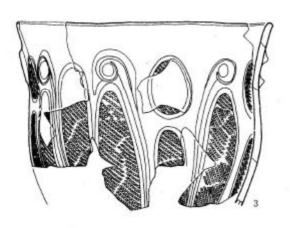
プランは長軸4.1m、短軸2.2mの不整長方形を呈し、確認面からの深さは15cmで、壁は緩く立ち上がる。底面は ほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が露出している。

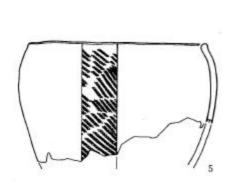
出土遺物

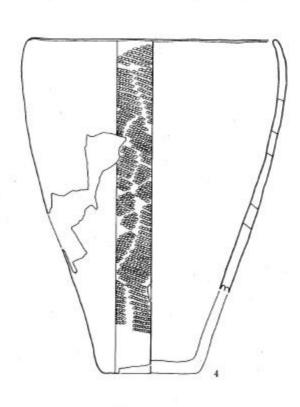
土器 (第68図55)







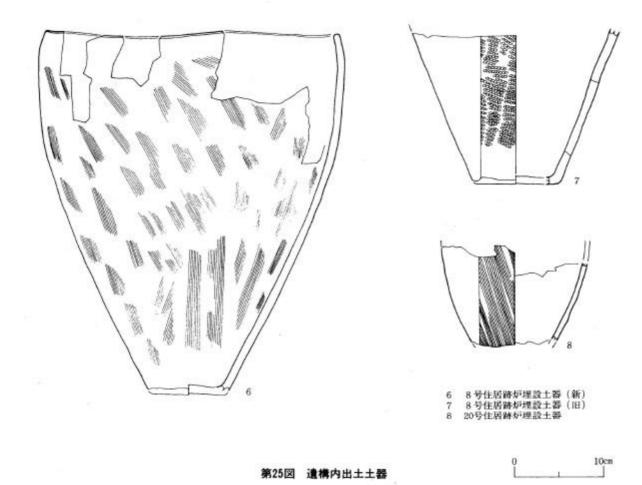




1 2号住居跡炉埋設土器 2 4号住居跡炉埋設土器 3、4 4号住居跡床面 5 号住居跡獲土

第24図 遺構内出土土器





55は覆土出土の深鉢形土器である。口縁部がほぼ直立し、地文はRL単節斜縄文(縦位回転)である。 石器 (第75図62)

62は覆土出土の石錘である。偏平な自然礫の両端に抉りを入れているもので、両面から打ち欠いてる。

4号竪穴遺構(第28図)

調査区の北東部で確認された。

プランは長軸2.9m、短軸2.5mの不整形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第68図56、57)

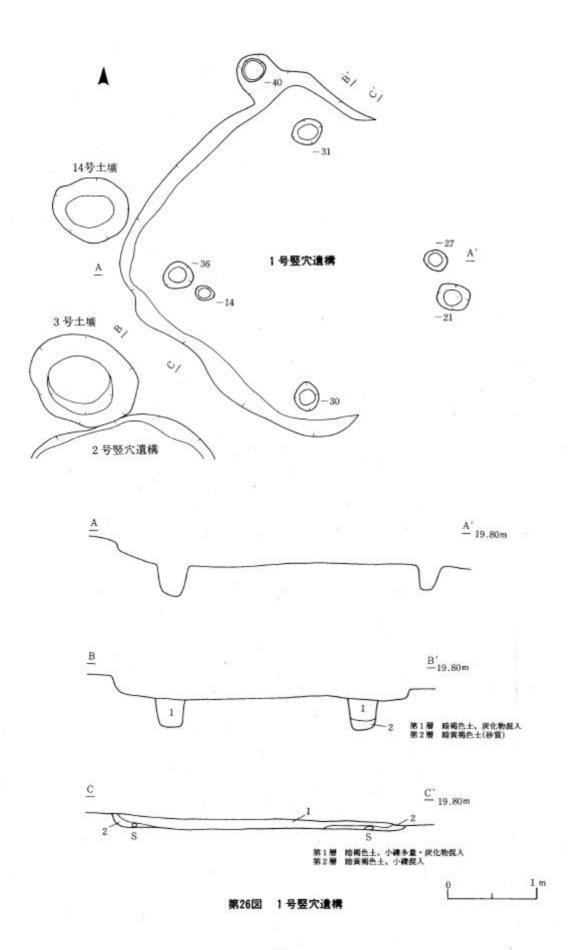
いずれも覆土出土の深鉢形土器で、地文のみのものである。56は口縁部が外反しながら立ち上がり、地文は撚糸 文である。57は口縁部が内湾しながら立ち上がり、地文はLR単節斜縄文(横位回転)である。

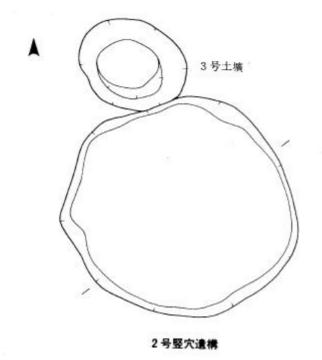
石器 (第73図45)

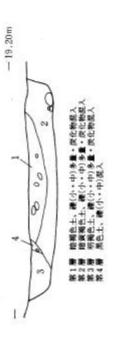
45は覆土出土のヘラ状石器である。両面調整で、石質は硬質頁岩である。

5号竪穴遺構(第28図)

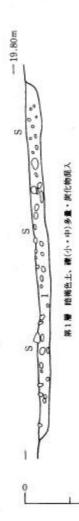
調査区の北東部で確認された。





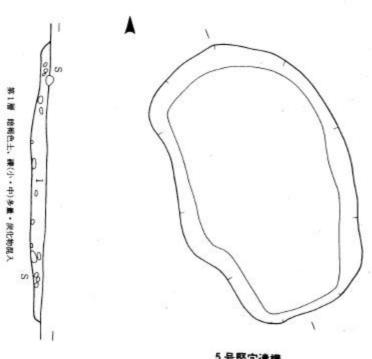






第27図 竪穴遺構





- 19.20m

第1層 賠補色土、課(小・中)多量・炭化物混入

プランは長軸3.2m、短軸2mの楕円形を呈し、確認面からの深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は若干凹凸が認められ、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

縄文土器片、石器剝片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

6号竪穴遺構(第29図)

調査区の中央部で確認された。

プランは長軸2.3m、短軸2mの楕円形を呈し、確認面からの深さは40cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第68図58)

58は覆土出土の鉢形土器である。口縁部が直線的に斜め上方に立ち上がり、変形工字文が施され、2個1対の粘土粒が認められる。

石器 (第73図46、47)

いずれも覆土出土である。46は石匙である。縦型で、石質は硬質頁岩である。47は削器である。片面調整で、石質は硬質頁岩である。

7号竪穴遺構(第29図)

調査区の中央部で確認された。

プランは長軸2.7m、短軸2.2mの楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁は緩く立ち上がる。底面は凹凸があり、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

出土遺物

土器 (第68図59)

59は覆土出土の深鉢形土器である。地文はLR単節斜縄文(横位回転)で、縦位の綾絡文が認められる。

土製品 (第88図2)

2 は再利用土製品である。土器片を再利用したもので、楕円形を呈する。

石器 (第73図48、49)

いずれも覆土出土である。48は石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。49は磨製石斧である。刃部 は丸みのあるもので、石質は凝灰岩である。

8号竪穴遺構(第30図)

調査区の西側で確認された。

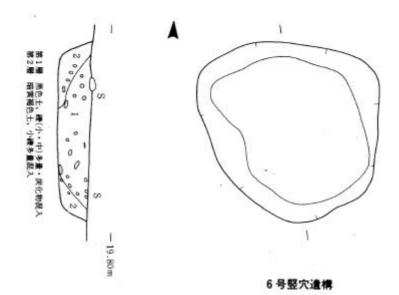
プランは長輪 $5 \, \mathrm{m}$ 、短軸 $3.5 \, \mathrm{m}$ の楕円形を呈し、確認面からの深さは $25 \, \mathrm{cm}$ で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

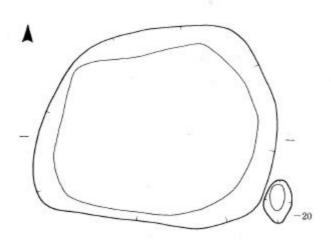
石器 (第73図50)

50は覆土出土のヘラ状石器である。両面調整で、石質は硬質頁岩である。

他に縄文土器片が少量出したが、小破片であり図示できなかった。

9号竪穴遺構(第31図)

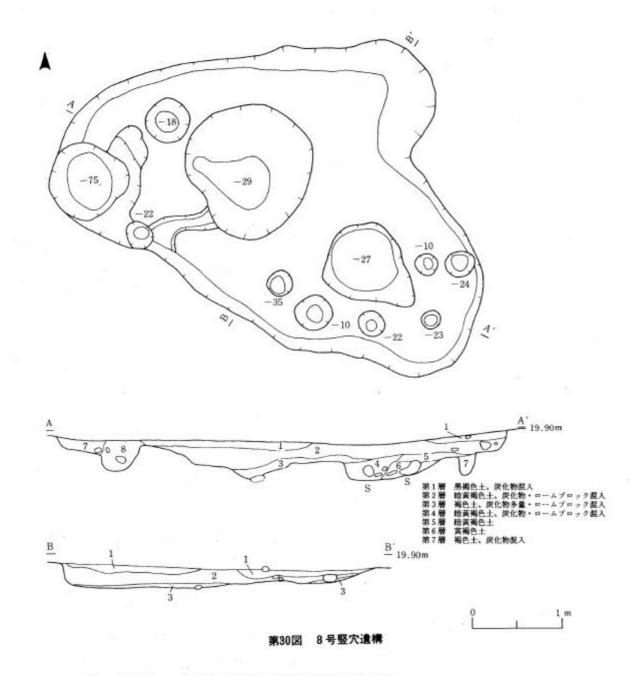






7号竪穴遺構





調査区の北側で確認され、19号土壙と重複するが新旧関係は不明である。

壁は西側のみの確認で、規模は不明であるが、平面形は方形ないし長方形を呈すると考えられる。確認面からの深さは20cmで、壁は緩く立ち上がる。底面は凹凸があり、黄褐色土(地山)に混入している礫が多量に認められる。

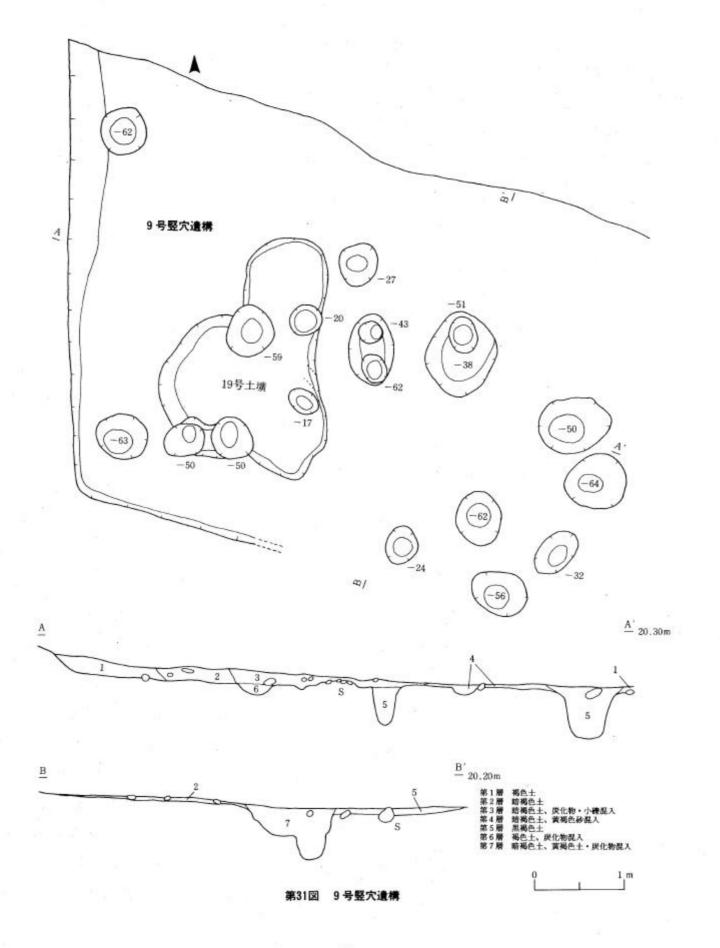
出土遺物

土器 (第68図60~63)

全て覆土出土の深鉢形土器で、地文のみのものである。60、61は綾絡文、62は木目状撚糸文、63は網目状撚糸文 が施され、61の口縁部は大きく外反する。

石器 (第73図51、52、第75図63)

全て覆土出土である。51は石鏃である。基部は無茎で、石質は硬質頁岩である。52は搔器である。縁辺に二次加工を施すもので、石質は硬質頁岩である。63は磨石である。自然礫の全面が磨れているものである。



+ 7 表

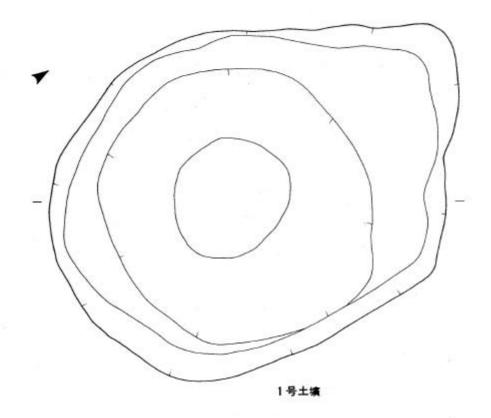
	,	the state of	-	200	100	9
1	第一块 篇文主题片、第77回81(摄器)	# 3	38 8	104	18 8	2 8
1	選 外 (MX 土壌) (大 等/7 (MRO (製造))	B 3	_	T.1990T	16	8 8
1	MXTSK	*	-	124	128	88
1	*	正章		91	114	57
5	-	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1		113	133	8
	#	E T		8	110	82
	状 縄文土器片	E Ø		1113	168	2
	議 幹 伏 義文土勢庁、第81図137(石窟)、138(唐石)	3		126	141	8
	19	13 後	18	118	133	83
	議 状 縄文土器片	番 四 巻	28	121	152	2
L	編 状 縄文土器片、第77四78(石榴)	13	45	130	135	8
ŀ	異文士縣片	10 10 10	88	123	152	ŧ
+	第二共 第三十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	I		138	200	8
+	MX TWA.	3		3	1118	
4	(4027)35000000 中華十十二	8		8 8		1
	SE	æ		38		
_	校 共 震文士等庁	単正常	63	8	100	t
H	第	正	52	86	103	2
+	я	3	47	109	158	0
+	,	9		TIO	124	1
+	中間 1000年 中			116	1	1
-	技 編文士部片	思	to	88	100	=
	袋 找 異文土部片、第76回74(利器)	第 円 準		108	136	ŧ
11	30	四 表	24	108	112	8
14号作品業を切っている	第	正	-	122	128	86
-	第	# 田 孝	37	110	130	8
+		II S		88	100ELE	88
+	*	9		120	121	8
+	8	2		8	90	2
+	я	3	10	83	88	18
+	9	d		8	127	R
+	W MXIMA	9	15	70	*	12
+	O MOLENA	9	0	97	115	8
+	2 30.000	1 2		100	100	1
+	1	4		8	9	8
+	明 中 精や十種で	H -	. !	1	100	8 2
+	1	2	2	81	196	3
-		正	_	74	114	18
		3.1		8	134	88
+	整 块 異文主即片	事の日本	32	130	171	2
+		d	-	110	166	B
$^{+}$	9	9	-	117	124	13
+	9	9	10	121	122	12
+	. ,			3	900	1 8
+	- 100	* **	1 N N	164	960	8 3
+		1		9	1	1 8
+	# 1	H		8 3	1 19	
+	#	*			184	1
	第 共 第68四71~73(篇文形代接票初票)、第76回66(石膏)	3		128	175	56
	Ⅲ 状 模文土器片	章 四 巻 四	15	88	135	5
-	19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 1	* 日 歩 編	26	. 75	88	I
t	第一次 第68回60,70(周文时代中期接集)、第76回60(占据)	東 田 孝	30	127	143	u
t	*	9	8	116	158	12
+	T	1	8	100	Tot	1
1	#	2	ĸ	8	ğ	1
-		正學	8	88	151	6
-	華 荣 建文土郡平	田寿	90	150ELE		10
+	*	38		105		œ
+	,	3		100	104	1
+	. ,	1 2	1	100		0
+	#	H	3	163	191	-
-	#	B	23	121	192	cn
-	*	*	23	143	400	-
-	数 休 第68回67(東文時代中間接筆)	正被	56	13	124	w
-	4	下樓 形 皿	41 7	135	155	м
H	語 学 共一般の図54~66(労生等代開始)、第76図64(開始)、第81図134、135(台灣)	1				-
		E		376	510	•
t		E æ	113	378	510	1

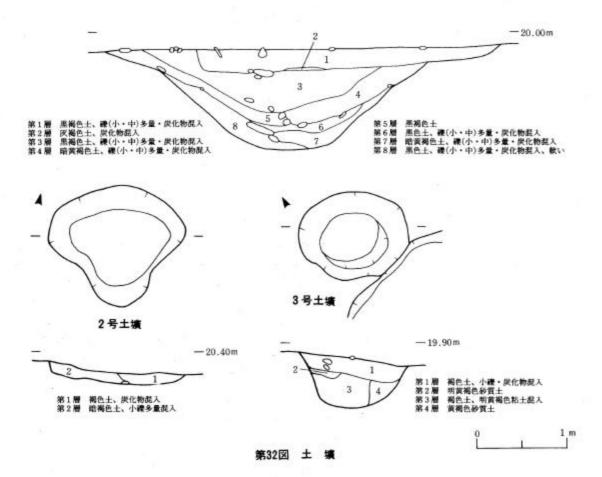
番号		見 機(cm)	-	面	**	新面			- 1				
**	長輪	短輪	課 き	1	100	יפה	MY USE X		器	±	速			*
62	178	120	73	-	P	形	9	大 縄文土器片						
63	108以上	100以上	50	*	m	渺	æ	快 縄文土粉片	LI CEL					3.00
64	96	60以上	33	糖	円	形	藥	伏 縄文土器片						
65	113LLE	110	25	横	m	*	藥	大 縄文土器片						
66	80U.E	113	28	槽	m	形	編	数77图82(石劃	(i)			ocean language		
67	84ULE	92	36	核	Ħ	形	藥	大 異文土器片、	第81閏140(そ	5皿)				
68	100以上	113	36	横	門	B		伏						
69	110	90	30	楠	19	形	#	伏 縄文土器片		*555				
70	144	135	55	水	*	形		大 縄文土器片、	第81図141(年	并円状偏平打 象	(石野)		16号住居跡	を切っている
71	125	115	66	門		渺	2	大 縄文土器片、	第77國83(石	匙)、第81図142	2(石鑑)	page - 50 mm s	16号住居辦	後切っている
72	104	100	28	円		#		大 職文土器片	And Committee and Address	C25-11 275-75	00010-0			5550 (CO. CO. CO.
73	94	83	42	糯	PI	*	#	伏 縄文土器片					74、75号土1	真を切っている。
74	97LLE	95LJ.E	38	円		形	編	美国文土器片、	第77国84(摄	(数)	-0.00		73、87号に1	のられている
75	120以上	110	62	槽	P9	*	*	大 獨文土器片、	第77国85(石	匙)、第77四米	、87(石鹸)、	第81閏143(石藝)	73,87号士4	食に切られている
76	132	105以上	57	榷	門	形		大 縄文土参片、	第77国88(石	(4)			16号住居納	を切っている
77	130LL	130	55	槽	円	*		大 縄文土器片					16号住居跡	を切っている
78	130	105	80	槽	門	*	発	大 縄文土器片、	第77回89(~	ラ状石器)			15号住居師	を切っている
79	148	110	40	槽	H	#	M	大 縄文土器片		1			15号住居跡	を切っている
80	128	100以上	33	*	PF	形	#	大 縄文土器片		-			81号土摘を	切っている
81	100以上	70LLE	23	*	円	渺	*	t.					80号土績に	切られている
82	142	95	18	不		78	44	建文主器 片	78 To				70号土橋を	切っている
83	119	85 LL L	29	構	P	76	156	第68閏74(編3	(時代)、第81	図144(着石)			84号土積を	切っている
84	110以上	4.以08	32	*	m	形	44	*					83号士模に	切られている
85	163	125	30	楠	円	78	186	大 建文土器片					16号住居跡	を切っている
86	100	87	58	標	円	76	4	第82図145(唐	6)					を切っている
87	110	102	52	m	H	形	*	t					74号土績を	-
88	110	90	43	禰	F	形	*	大 縄文土器片						
89	112	100以上	30	横	Ħ	形	*	文 縄文土器片				100		
90	115	98	57	楠	円	形	#	文 縄文土器片、	第77國90(石	匙)、第77回9	(部署)		15号住居錦	を切っている
91	125	110	43	槽	円	形	-	建文土器片、	第8230146(そ	(種)			93号土壤を	
92	100以上	75	35	禰	PF	形	-	t					93号土摘を	
93	90	50以上	43	m	PF	形		文 縄文土器片						
94	129	113	44	楠	円	形		R					15号住居錦	を切っている
95	167	105	25	橋	[7]	B		大幅文土器片						を切っている
96	89	79	66	槽	PS	形		文 縄文土器片、	第77國92(石	(4)				を切っている
97	137	100以上	57	-	PI	形	#	R			7.77			を切っている
98	124	117	70	円		形	ge .	· 第68國75、76()	異文時代前期	別、第82閏147	(石錘)			を切っている
99	90	82	28	槽	円	形	M	t		-				
100	120以上	100以上	53	横	PI	*		大 第68閏77(縄文	時代裁別)				101号土模8	こ切られている
101	155	110	48	-	P	影	*	t t						と切っている
102	106	69	16	*	PF	形	#	大學主文語						
103	111	100	73	*	m	形		大 建文土器汁、	第82回148(E	(M)		1 25	16号在民餘	に切られている
04	130LL	120LLE	-	-		*	_	大 縄文土粉片						に切られている
105	100	85		_	-	形	_	大 縄文土器片、	878回93(へ	ラ状石器)				に切られている
106	112	90LLE	-	-	-	形	_	大調文主器片					-	に切られている
107	97	60LLE	-	-	_	形		*						だ切られている
108	100ELE	100ULE	50	不		劈	_	大 異文土器片						に切られている
109	90U.E	90LLE	60	梅	Ħ	形		t					_	た切られている
110	112	96	-	-	_	形	-	t					1	
111	120	115		-	_	10	_	第69閏78(編文	時代數期)、	第78閏94(ヘラ	状石攀)			
12	142	103		-		形	_	t 都69閏79,80(i					113号士建名	と切っている
13	80 LL E	71	-	-	-	形	100	t					_	切られている
14	250	104			_	*	-	大魔文士器片						切っている
15	180	145		-		178		大 建文土器片、1	\$78 59 5(五)	*)				れ、川野中土田を見ってい
16	180	160	28	-		16	-	大 第69段81 (編文					-	切られている
17	85	70	-	-	-	*	-	大 縄文土器片	21				- ATM	2000
18	135	121		-	_	形	-	大 縄文土器片						2/
119	108	93	- 200	-	-	形	-	大 縄文土器片			1, 10, 11		11584	M-71-7
20	103	90		-	-	7B	MR 8						-	切っている
21	118	8012 E		-	_	-		t 縄文土器片						れ、は対导主義を持ってい
		TRACKS C.	63	191	(1	形	-	大 縄文土器片					11209年土曜代	切られている

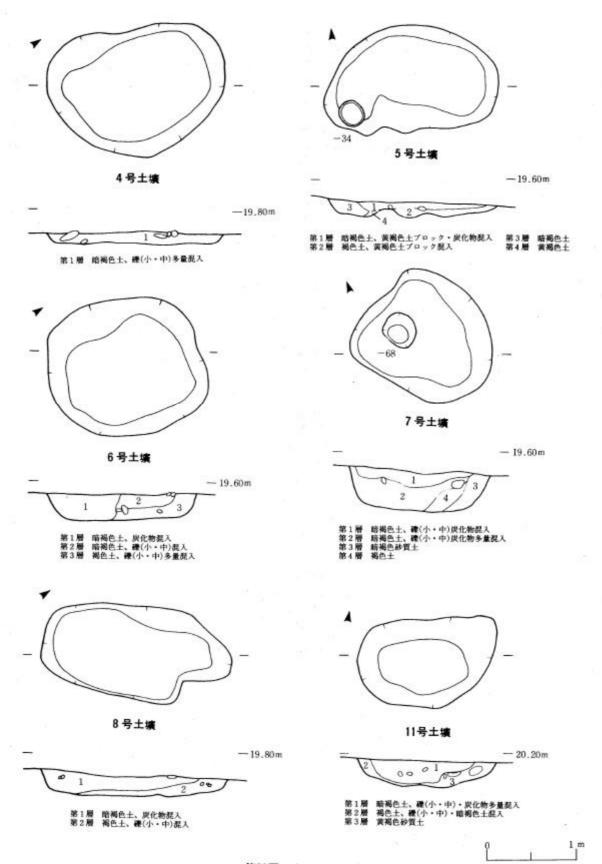
1

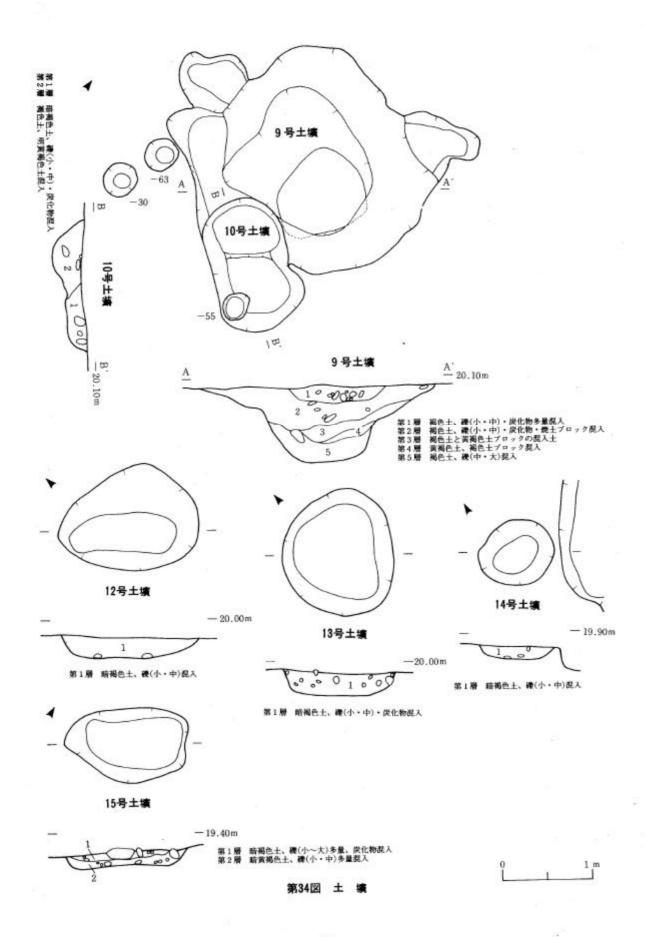
	· 日本土銀下	3	20 12	9	22	108 73	108	120
	_		1	-	8		146	181
		1	1	*	38		110	8
	a.		*	7 ×	80		208	179
18号住国際に切られている		1.	北	*	15	130ELE	165	178
18号住居錦に切られている	秋 縄文土等片、第79四110(石寨)		38	器	20	140ULE	160	177
18号位函線を切っている	状 縄文土部片		*		24	1000	113	176
18号住題解を切っている		* 1		# -	5 5	69	183 1 miles	13
17547年数十重に別りたている	学 第十十年下 第7200104(景度では)		8 68	K	8 8	150	250	5
173年土壌を切っている	· 美文士88片		*	*	15	4 1708	145	172
	+		*	苗	25	120	136	171
168,169号土壌を切っている	状 概文上等片		*	*	17	1505LE	351	170
170号土壌に切られている	秋 萬文土器片、第79回108(石像)、109(石像)	*	38	3	38	153	206	169
170号土着に切られている	供 篇文士部片		徳	*	83	127	177	8
152号士書に切られている	_		*	#	8	120	221	167
	会 東文土銀行、中のADMISTOCOM)			3 3	8 8	≣ 8	125	8 8
			1		8	8	119	ž
	異文土器片		*	3	83	137	160	163
			*	3	150	164	170	162
	-		*	*	4	137	162	161
	状 篇文士部片、第78周105(石膏)			塞正		127	167	160
	第69周84~86(橋文時代前期)、第78周103(石線)	**		3	155	156	187	159
				3	34	78	117	158
	$\overline{}$		#	#	33	72	124	157
	大・一番				27	136	157	ž 8
Contraction Contraction	女 第六十歳子 第79回100(元禄)			B 3	8 8	5 8	1 10	ž ž
1949年間に対ちれている	5 美文十銀 年		e de	3	100	T.70001	160	153
151、167号土薬を切っている	技 魔文士物片、第78周100(石寨)、101(州郡)		谦	華田	8	110	TY1091	+
152号土壌を切っている			*	華王	8	106	120	151
			*			T.1307	205	56
	建文土版 片		æ 8		8 :	97	110	149
	学 高か十級子		* 3	3	13 15	120	150	148
		T	4 4	3	5 E	211	100	8
1949生態を切っている	親文士器片		1		36	130	160	6
16号土集に切られている	-		*		32	120	120ULE	-
17号任閣跡を切っている					53 #	ш	132	5
	縄文士掛片	1	*	雅田	11	136	235	142
1号講論に切られている			微		5.	9 8	97	141
				-	10 10	107	127	8
130年上海に切られている	axtern	# \$	# 3		8 8	4 1400	197	8 8
138号士編に切られている	_		4	3	13 13 13	T.F.011		137
	建文土器 件	1	*	塞田	40	96	110	136
134号土壌を切っている	-		*		15	73	88	135
135号土着に切られている	-		*			105	115	¥
タップで係る業子を201	親文主仰片		* 6		28 8	150		_
130巻土業に切られている	-		#	- 1		4 13001		-
130号士養に切られている	-		243	E		8	13061	-
さいた このを事を与している	第5000887日中の名前数)	÷ 8	g d	B B	25 25	117	130	2
129年上海に切りかている			i di		10 [7]	100	T.KIOV	128
T Territoria		1	: 0	3	12	107	136	27
125号土機に切られている			*		86	86	110	126
126号土壌を切っている	異文主器片、第78897(石胜)	*	*	華田田	28	105	7011 E	125
		1000	#		6	93	120	124
	模文士器片	*	# P	E E	88	122	65	23
					-			

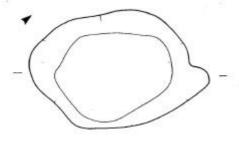
		親 膜(cm	0								
數學	長輪	短輪	課 8	1 1	7 1	形形	新田	189	出 土 浪 物		州 考
184	220	175	3	+	P	9 19	M	扶	L文土磐片、第88図 5 (再利用土製品)。第79図112(石羹)	-	
185	136	103	31	-	P	-	-	秋	文土器片		
186	180	170		-	P		-	枕	R690088(縄文時代後期初頭)	-	
187	132	107	21	-	P	-	-		文土器片	-	
188	156	72		+	-	-	-	- 1	L文工器片	1 250	n-Make in
189	_	_	3	+	_				LX.L&A		住居跡を切っている
_	110	96	50	-	_	-	-	状		19号	住居跡を切っている
190	80	69	41	+	P	_	無		順文主器片		
191	110	86	4	-	-	1 形	解	状	1文主修片	19号	住居跡を切っている
192	85	70	54	+	P	-	無	状	I文土器片、第82図150(唐石)	19号	住民跡を切っている
194	252	198	90	2 精	P	形形	AA.	秋	869図89~91(縄文時代前期)、第79図114、115(石蔵)、116(前級)		
195	286	195	82	2 柄	P	9 #	無	状	869國92(義文時代前期)		
197	114	103	. 25	8 精	P	7 #9	M	状			
198	96	78	43	3 精	P	P PF	鍋	状	1文土器片		
199	157	130	70) 楠	P	那	無	状	N文主器片、第79間118(機器)		
201	125	73	60) 楕	P	T 75	-	状	1文土粉片	2154	土壌を切っている
202	151	101	51	1 16	P	1 #	a	拔	1文主器片		
203	310	210	75	5 橋	P	9 75	88.	状	第 文土器片、第79図120、121(石鏃)、第80図122(石匙)		
204	144	123	30	_	-	-	34	状	860图123(石匙)		
205	97	90	23	-	-	-	68	秋		7 .	
206	140	139	72	-	_	形	188	状	869閏95(縄文時代前期)、第80國124(寮製石斧)	-	
207	200以上	190	56	+	-		125	扰	860回125、126(石榴)	1	1 time to
210	100以上	60tt.E	35	100	-	_	-	-		1944	土壌を切っている
211		-		1	-	_	鍋	状	N文上部 H	-	
	270以上	158	34	-	P	_	184	状	1文土器片	-	
212	190£L±		60	1		墹	-	- 12	東文土器片		
213	170	150U.E.	143	-	P	_	袋	扰	1文土器片	_	土壌に切られている
214	210	170	170	-	_	_	59	状	869顷97(縄文時代前期)、第80図127、128(石匙)	213%	土壌を切っている
215	165	140	56	-	-	-	M	秋	[文土器片	201 %	 土壌に切られている
216	173	162	18	175	-	-	藥	状	1文土器片		
217	98	70	12	育	P	形	編	状	1文七器片		
218	103	94	13	門		形	鍋	状			
219	97	65	36	椭	P	1 15	藥	状			
220	118	106	41	楠	P	形	編	拔	文土器片		
221	227	105	73	楠	P	形	m	状			
222	195	100	33	椭	P	形	鍋	状	869國98(國文時代前間)、第80國129、130(石礦)、131(削級)		
223	113	90	28	椭	P	1	24	状			
224	135	100ELE	34	楠	P	#	M	状			
225	142	92	12	-	-	_	鍋	状			
226	73	59	48	-	F		184	秋		-	
227	101	77	25	1	-	_	44	扶		-	
228	100	94	13	1	-	形	86	扰		-	
229	72	65	22	1.5	F	-	S5	秋		-	
230	95	80	30	-	-		iii.	扰		-	
	-			1	-		100	-		-	
231	218	116	-	1	-	形		拔			
232	106	104		-	-	-	m	秋		-	
233	120	96	37	+	P.	形	100	-	1803(132(石橋)		
234	123	120		P	_	8	藥	状			
235	1	110以上	-	不	9	_	桶	-	80図133(石礦)		
236	101	93	29	FI		形	鍋	状		1	
237	300	124	23	篇:	丸長	力形	鍋	状			
238	144	125	12	楠	P	形	п	状			
239	293	206	37	楠	17	形	鍋	状			
240	145	80ELE	12	精	139	19	п	状		172-9	土壌を切っている
241	344	198	56	1	17	形	解	鉄		-	土壌に切られている
(7	ラスコ状	ピット)	E	0						1000	
		□ 255(cm) [構	18	E 8	(cm)	T			1 200
商号	-	班 株 年		-	-	-	平面	#s	(c) 出 土 東 物		据 考
193	113			_	+	_	-	100			7
			打形 800.86	156	+	_	横円	-	130 縄文土等片、第79図113(石鹸)、第82図151(麝石)		
-		140 27	11/1/1/1	196	1	134	楕円	10	185 第69回93(縄文時代中期)、第79回117(石籬)、第82回152(石籬)		
196	160	-	time at	11:00	_		Ac.				
-	120	103 #	明期	173	+	150	楕円	-	180 第69回94(義文時代前期)、第79回119(石籬)、梁起回153(石鹼)、15	94(磨石)	







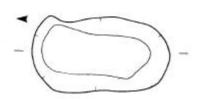




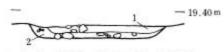
16号土壤



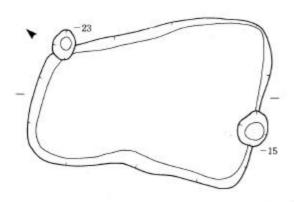
第1層 第2層 褐色土、炭化物・焼土混入 第3層 褐色土、黄褐色ブロック混入 第3層 褐色土、礫(小・中)・炭化物配入 第4層 暗褐色土、炭化物混入



18号土壙



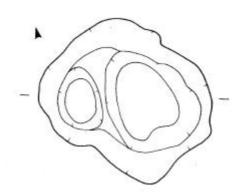
第1層 暗褐色土、磯(小・中)多量・炭化物型入 第2層 暗黄褐色土、磯(小・中)多量混入



20号土壙



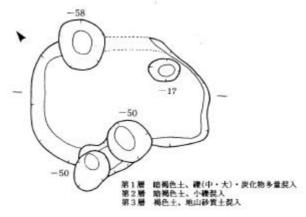
第1層 賠拠色土、碘(小・中)多量・炭化物混入



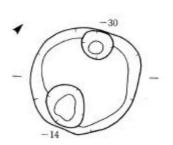
17号土壙



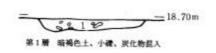
第1層 暗褐色土、礫(小・中)多量・炭化物混入 第2層 暗黄褐色土、礫(小・中)多量配入





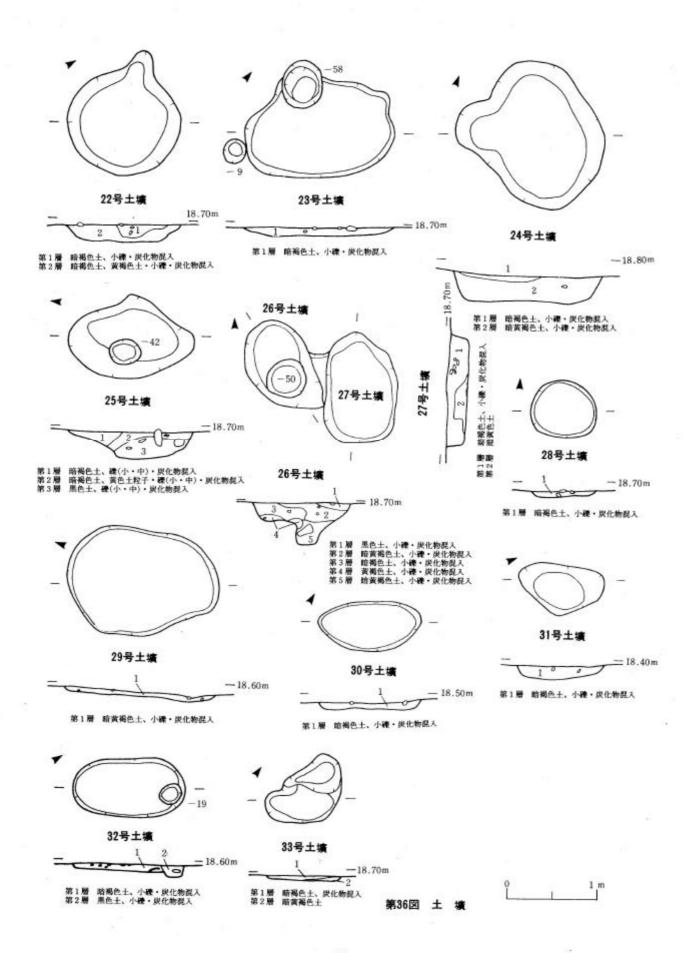


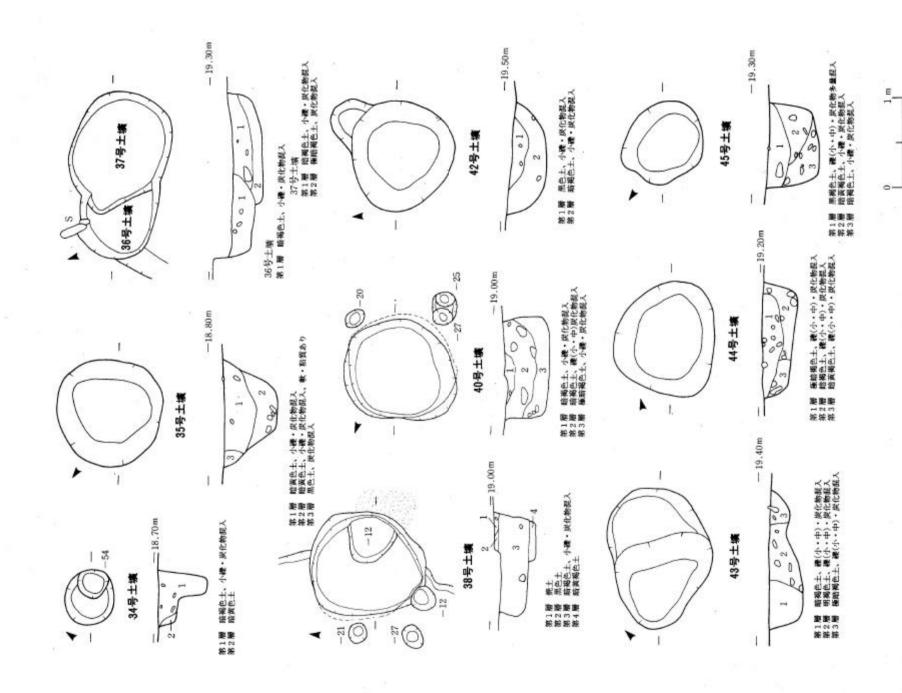
21号土壙



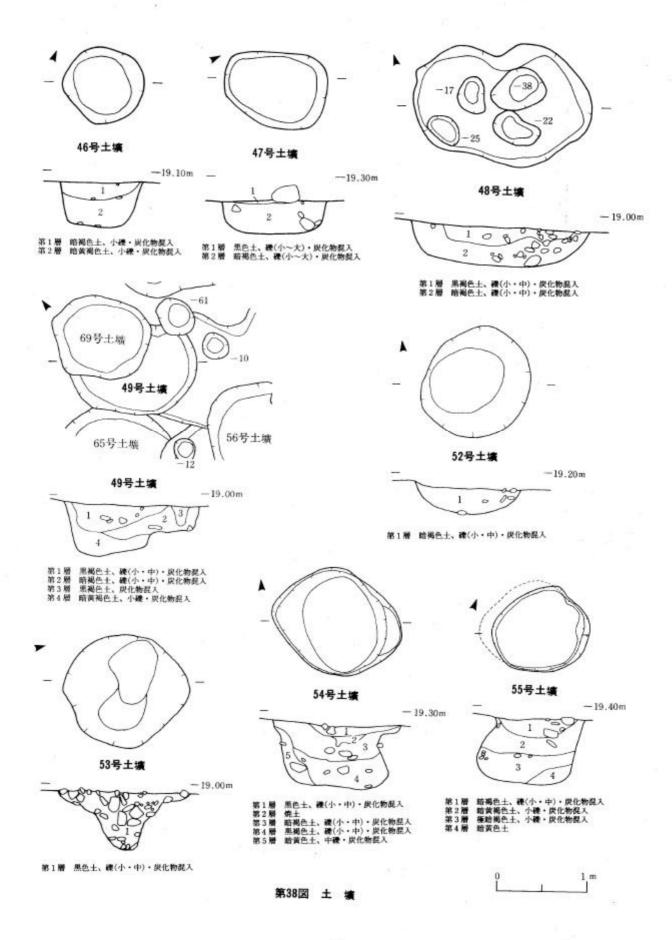


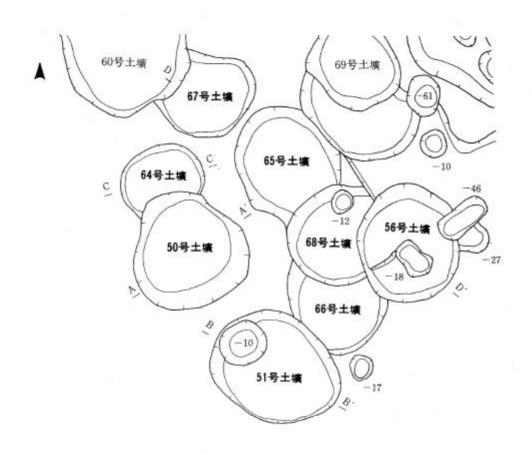
第35図 土 墳

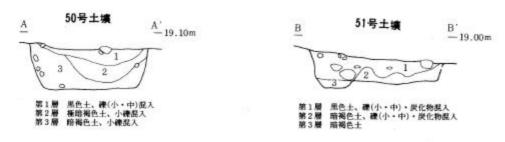


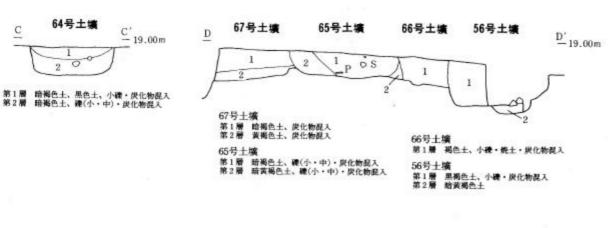


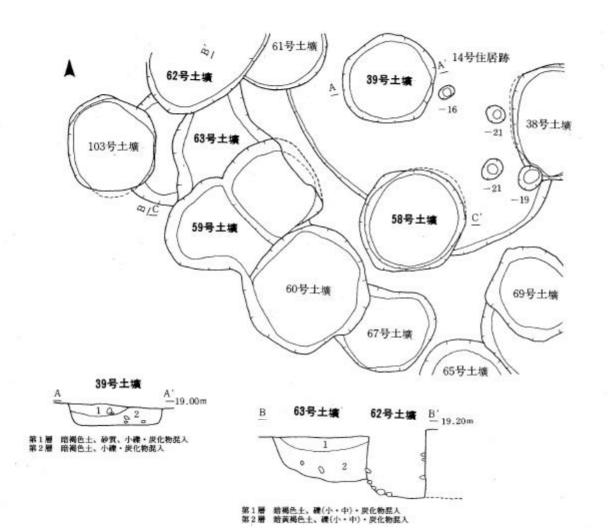
第37図 土 墳

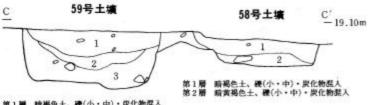




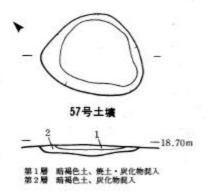




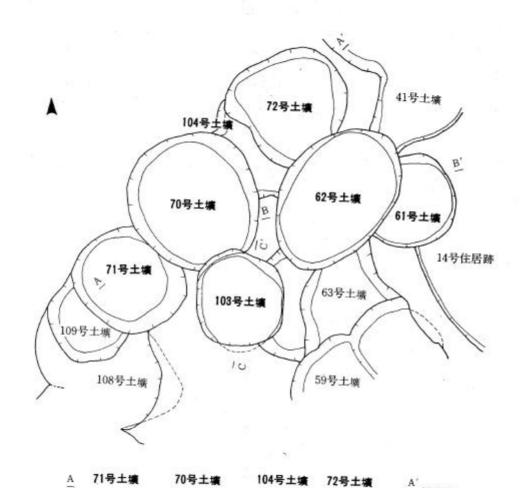


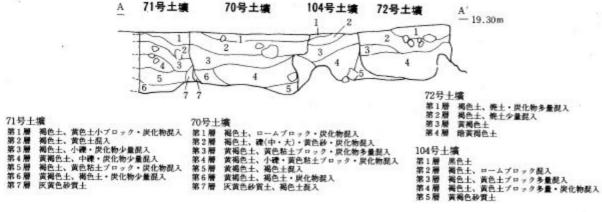


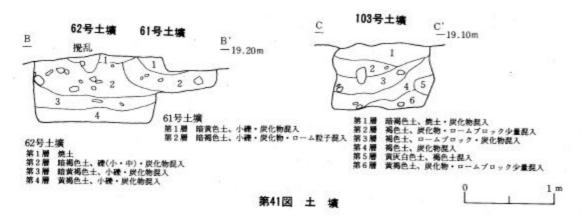
第1層 賠拠色土、碘(小・中)・炔化物混入 第2層 黄褐色土、碘(小・中)・炭化物混入 第3層 賠責褐色土、碘(小・中)・炭化物混入

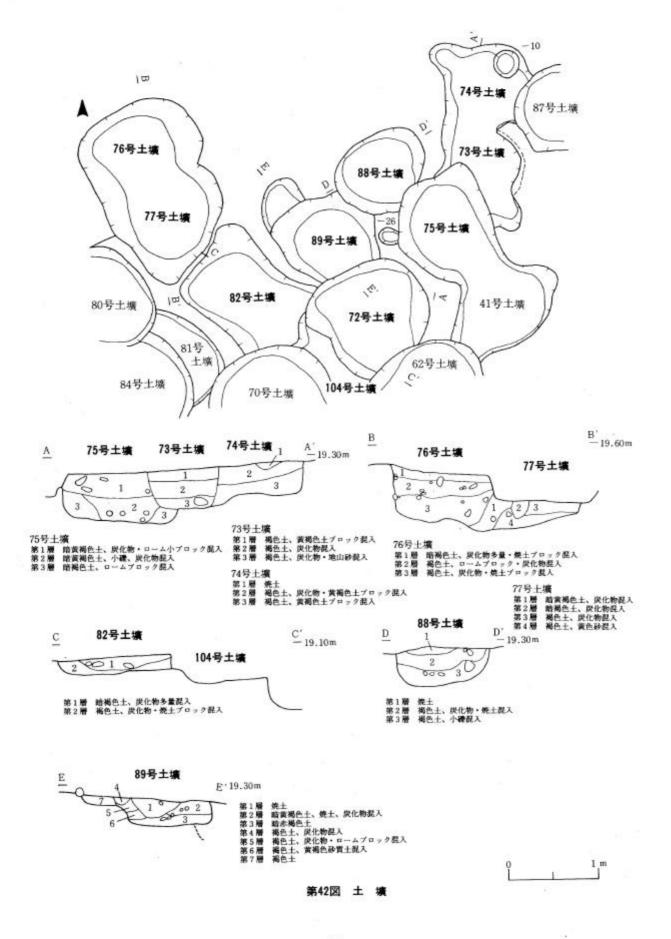


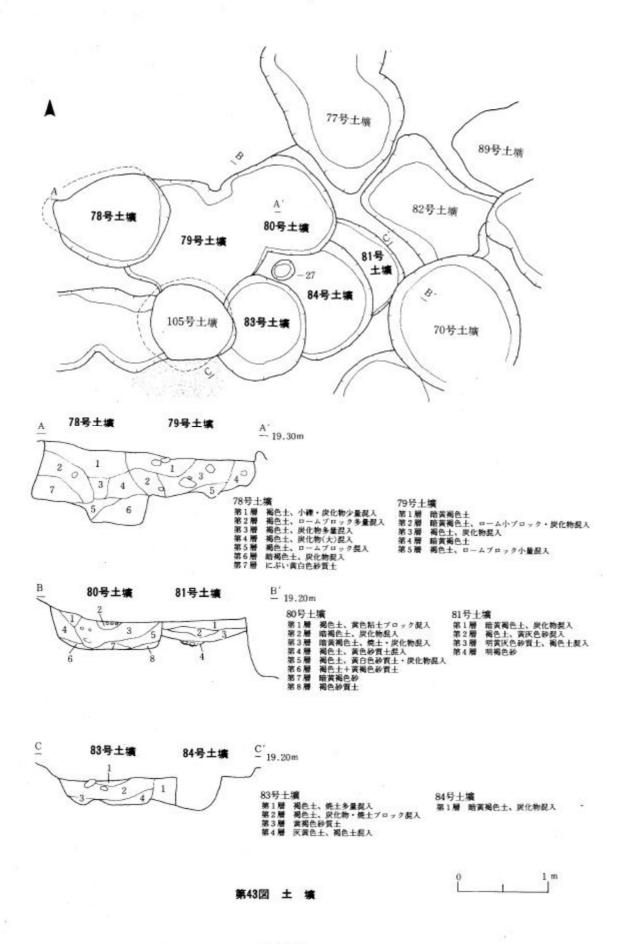
第40図 土 擴

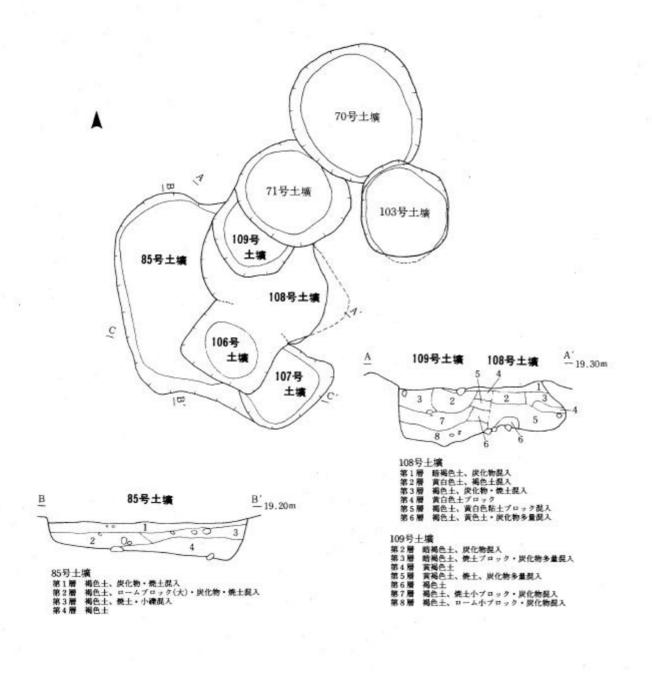


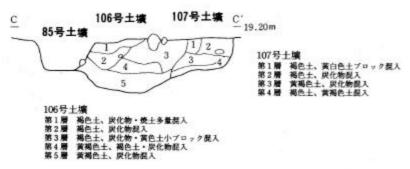






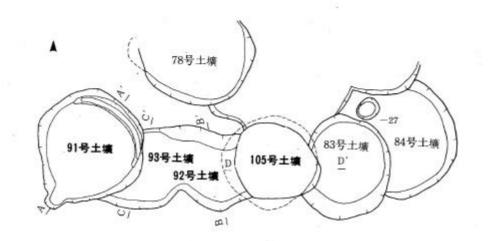






0 1 m

第44図 土 壙

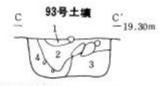




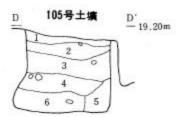
第1 圏 褐色土、ローム小ブロック・炭化物・焼土ブロック混入 第2 圏 褐色土、礫(小・中)・炭化物混入 第3 圏 褐色土、小礫・炭化物・ロームブロック混入 第4 圏 褐色土、黄褐色砂混入 第5 圏 暗黄褐色土



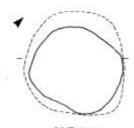
第1層 暗黄褐色土、炭化物多量混入 第2層 黄白色砂質土、褐色土配入



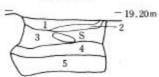
第1層 結構色土第2層 褐色土、ローム小ブロック多量混入第3層 褐色土、炭化物混入第4層 褐色土、黄灰白色土混入



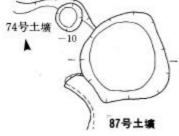
第1層 機士・炭化物 第2層 褐色土、焼土・炭化物・黄白色土小ブロック低入 第3層 褐色土、中礫・炭化物起入 第4層 褐色土、炭化物・黄油を土小ブロック混入 第5層 黄褐色土、炭化物・黄油を土小ブロック混入 第6層 暗褐色土、褐色土・炭化物提入

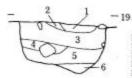


86号土壤



第1層 黒色土、焼土多量混入 第2層 褐色土、黒色土・寅白色粘土・炭化物混入 第3層 褐色土、炭化物混入 第4層 褐色土 第5層 褐色土、黄白色粘土ブロック混入



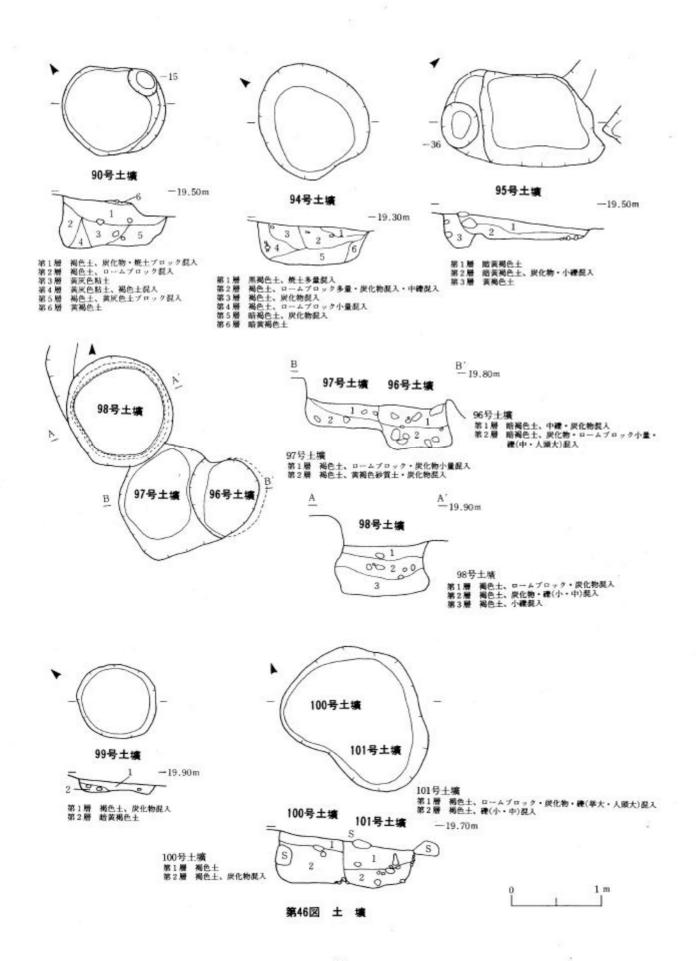


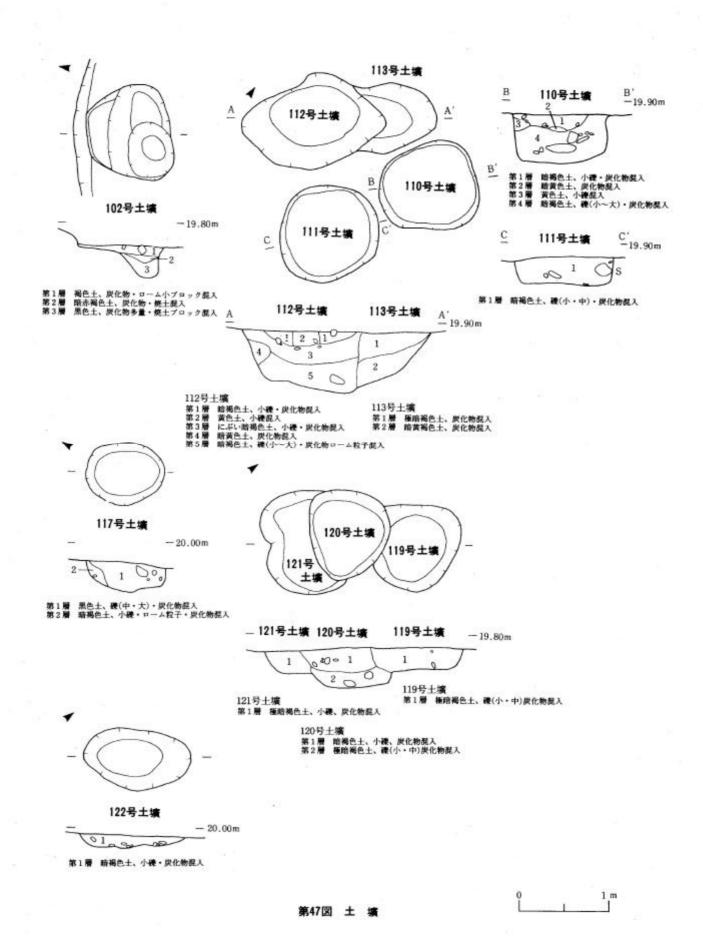
-19.30m

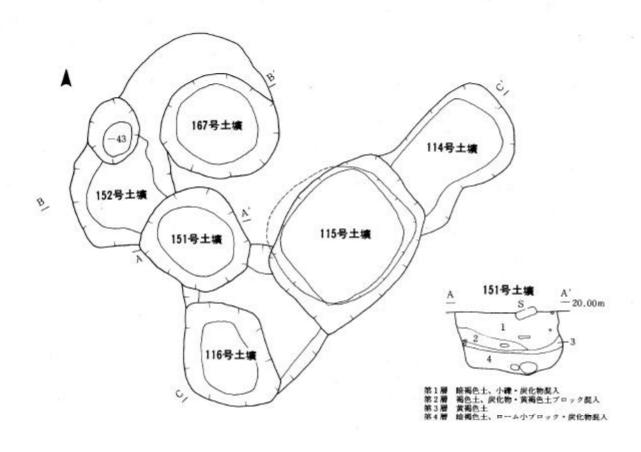
焼土 褐色土、黄褐色粘土髭入 褐色土、ロームブロック・炭化物混入 腐黄褐色土 褐色土 暗褐色土

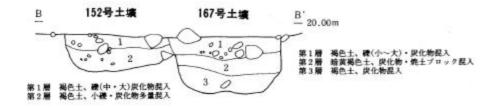
第45図 土

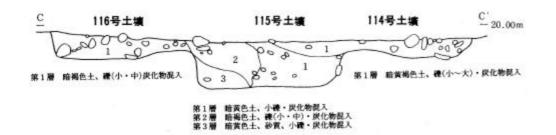






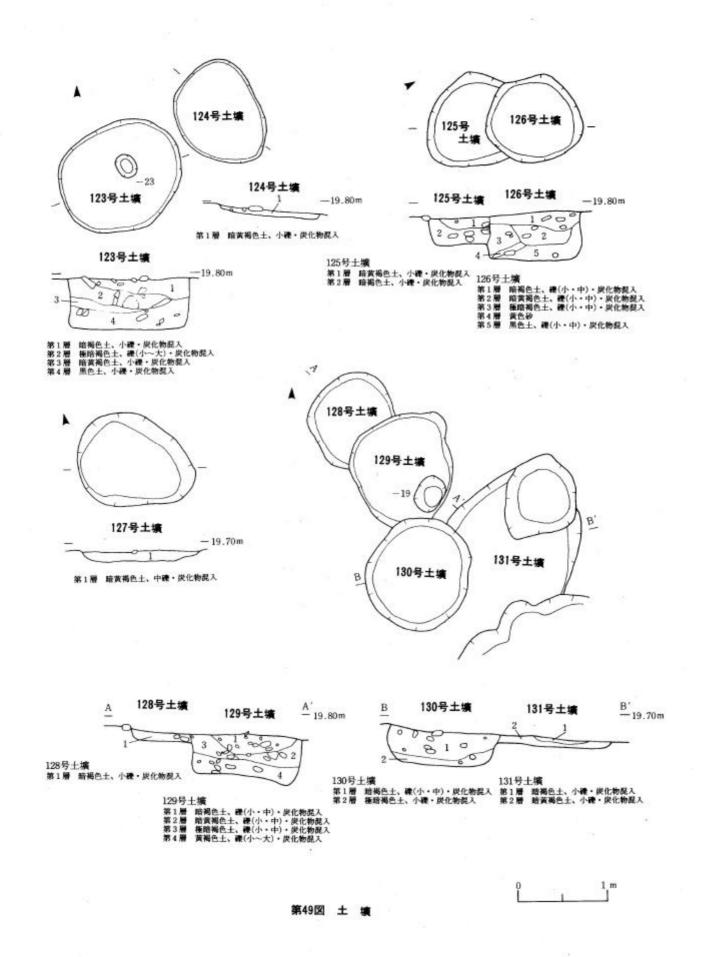


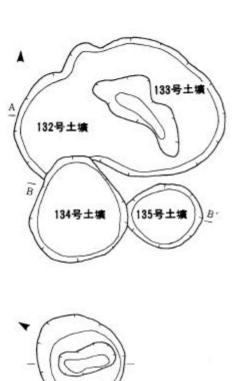


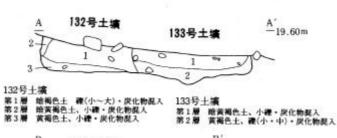


0 1 m

第48図 土 壙







B' -19.60m 134号土壤 135号土塘 2 3 0

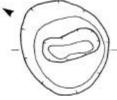
134号土壤

A'

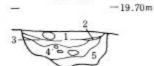
135号土壙

第1層 暗黄褐色土、小礫・炭化物提入 第2層 暗黄色土、小礫・炭化物提入

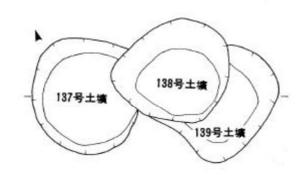
第1層 暗黄褐色土、小礫・炭化物配入 第2層 暗褐色土、小礫・炭化物配入 第3層 極暗褐色土、赤(小・中)・炭化物配入 第4層 暗黄褐色土、礫(小・中)・炭化物配入

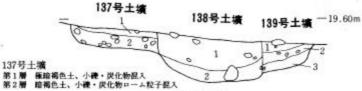


136号土壤

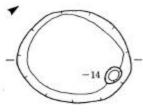


第1層 暗褐色土、磯(小・中)・炭化物能入 第2層 炭化物 第3層 時褐色土、小磯・炭化物・ローム粒子提入 第4層 賠責褐色土、磯(小・中)・炭化物混入 第5層 賠責褐色土

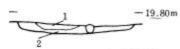




137号土壤



140号土壙



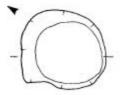
第1層 極端褐色土、小磯・炭化物提入 第2層 暗褐色土、小磯・炭化物提入



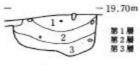
新1層 略絶色土、硬(小・中)・炭化物混入 第2層 無視色土、硬(小・中)・炭化物混入 第3層 賄褐色土、小磯・炭化物混入

139号土壙

第1層 暗褐色土、碑(小・中)・炭化物・ローム粒子混入 第2層 暗褐色土、小礫・ローム粒子多量低入 第3層 暗褐色土、小礫・炭化物混入

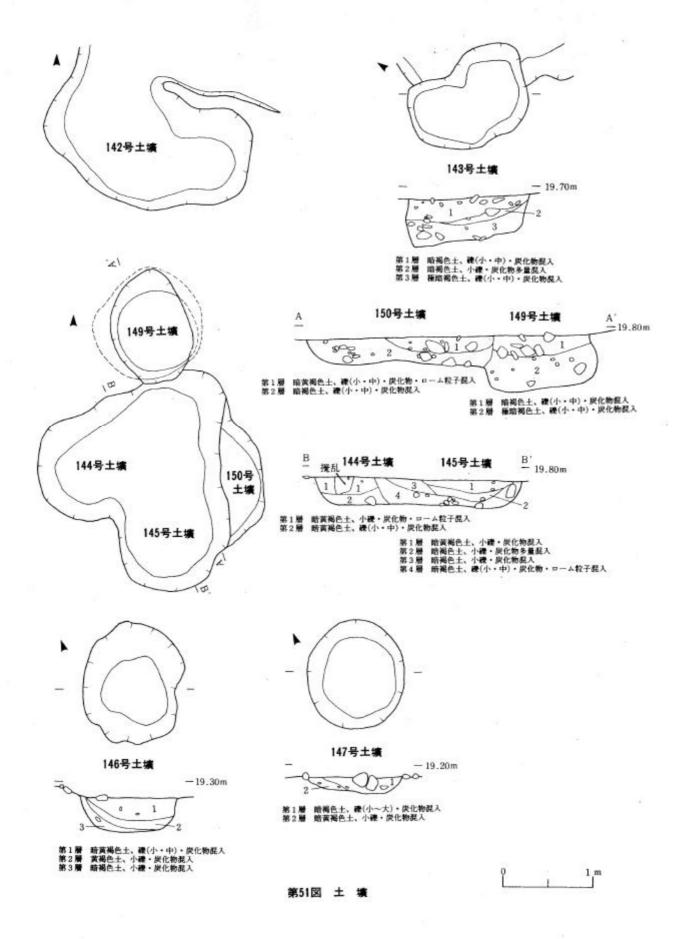


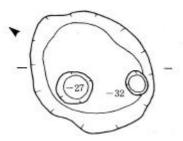
141号土壤



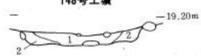
第1層 暗褐色土、硬(小・中)・炭化物混入 第2層 暗褐色土、小硬・炭化物・ローム粒子混入 第3層 種暗褐色土、小硬・炭化物混入

第50図 土 墳

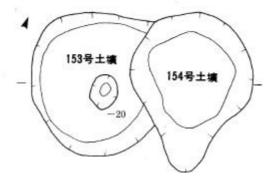




148号土壙



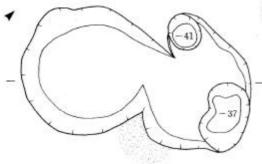
第1層 暗褐色士、磯(小・中)・炭化物配入 第2層 暗黄褐色士、小磯・炭化物配入



153号土壙 154号土壙 _20.00m

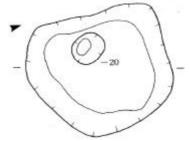
3 153号土壙 第1層 褐色土、炭化物・黒色土鍉入 第2層 黄褐色土、小糠混入 第3層 暗黄褐色土、小糠混入(新しい)

154号 土壌 第1層 褐色土、炭化物・ローム小ブロック提入 第2層 褐色土、炭化物・小砂混入 第3層 褐色土、中酸混入 第4層 黄褐色土



155号土壙

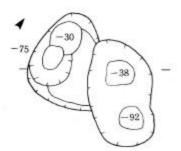
第1層 褐色土、炭化物・小礫混入 第2層 褐色土、焼土ブロック少量配入 第3層 褐色土、焼土多量提入



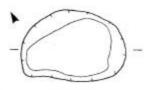


-20.00m

第1 層 - 視色土 第2 層 - 黄褐色砂質土 第3 層 - 横色土、炭化物・焼土促入 第4 層 - 黄褐色土 第5 層 - 暗褐色土



157号土壙



158号土壙



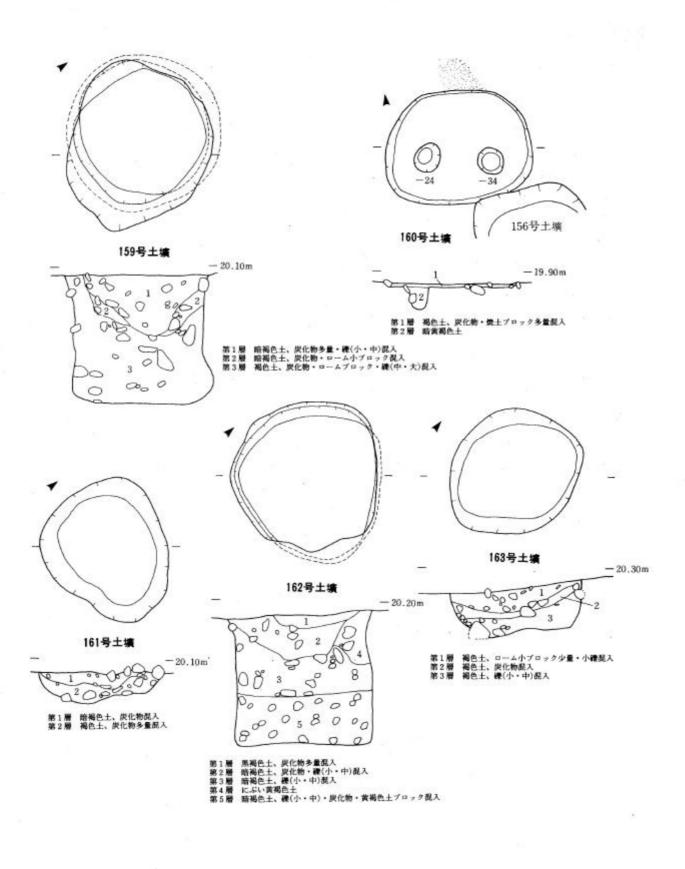
第1層 踏褐色士、炭化物・中磯提入 第2層 褐色士



第1層 蛤黄褐色土、炭化物配入 第2層 賠黄褐色土、炭化物多量。褐色土混入 第3層 黄褐色土、炭化物少量混入 第4層 黄褐色砂質土

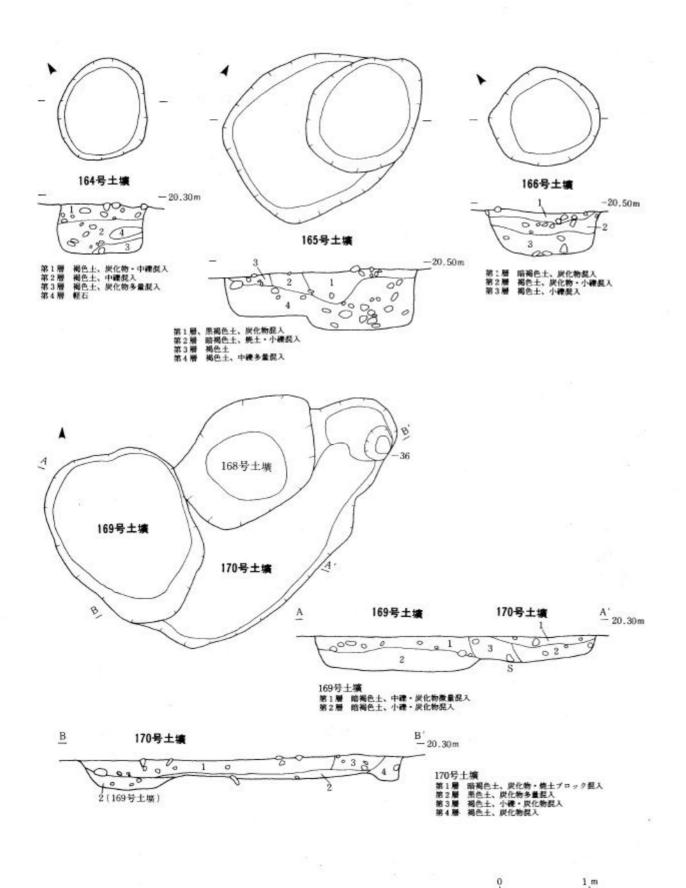
第52図 土 填



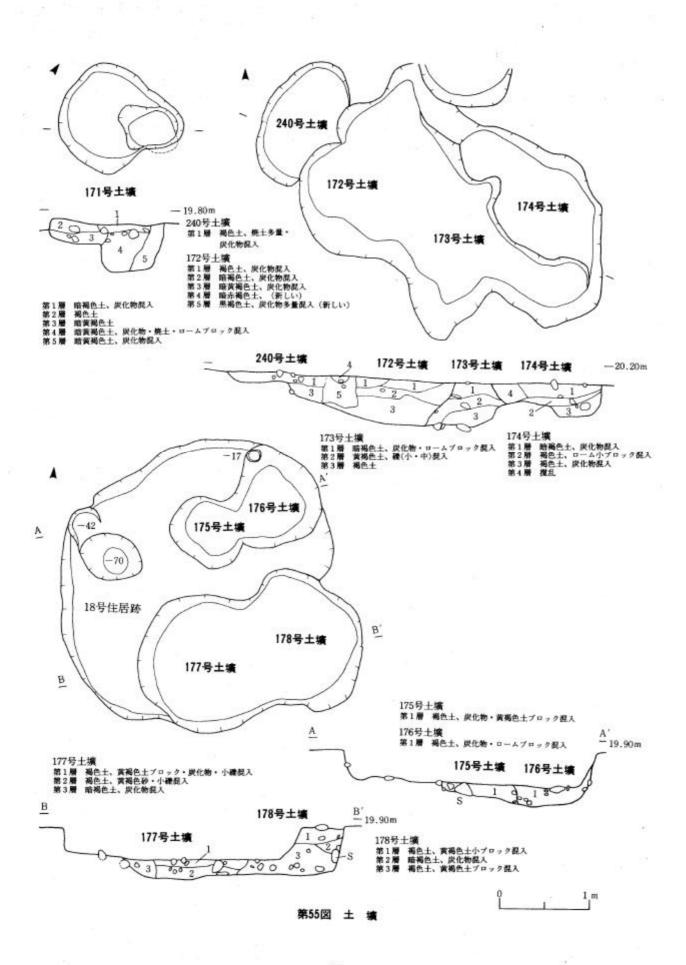


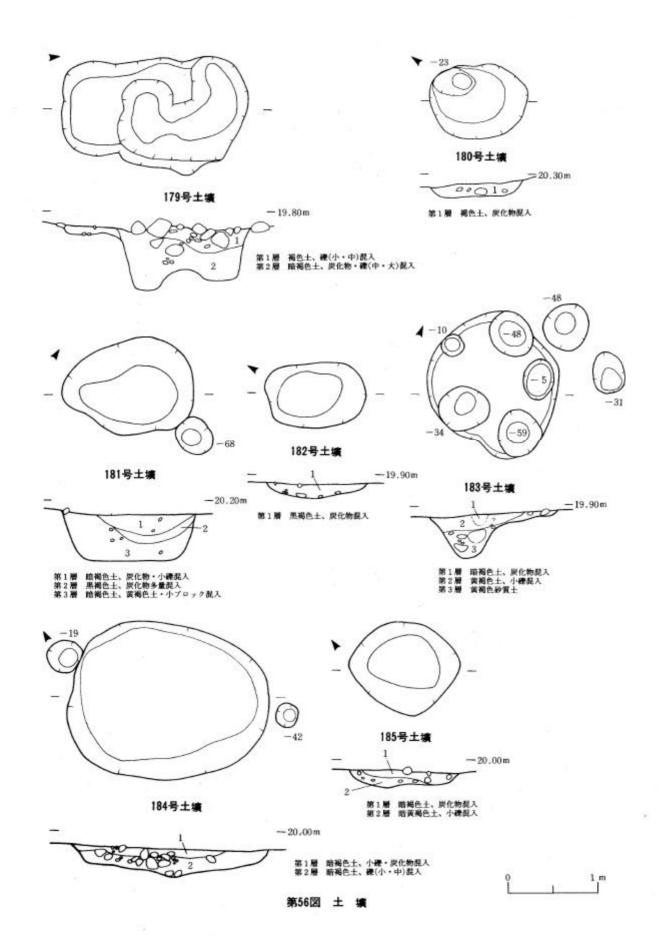
第53図 土 壙

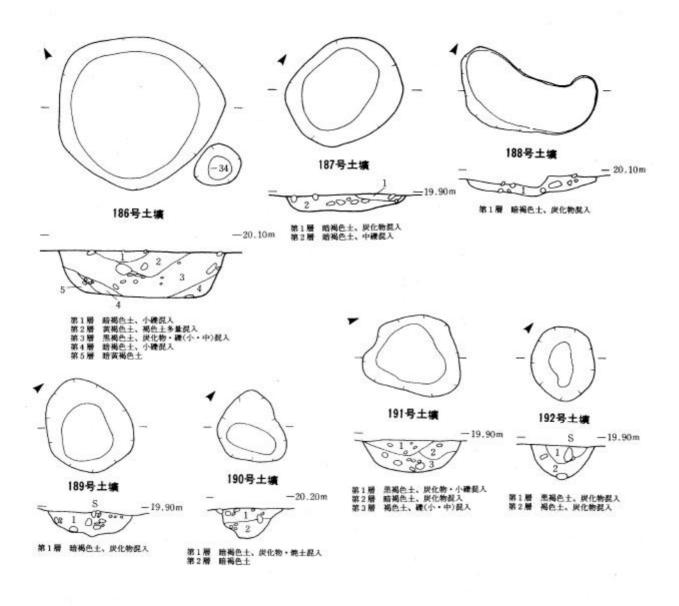
0 1 m

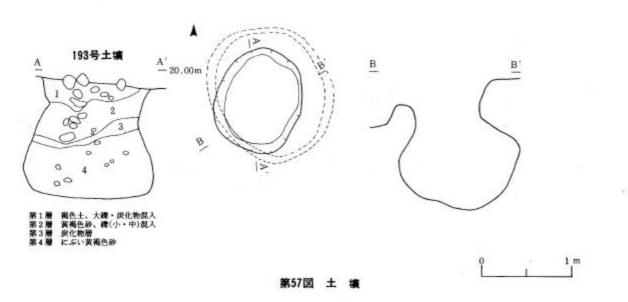


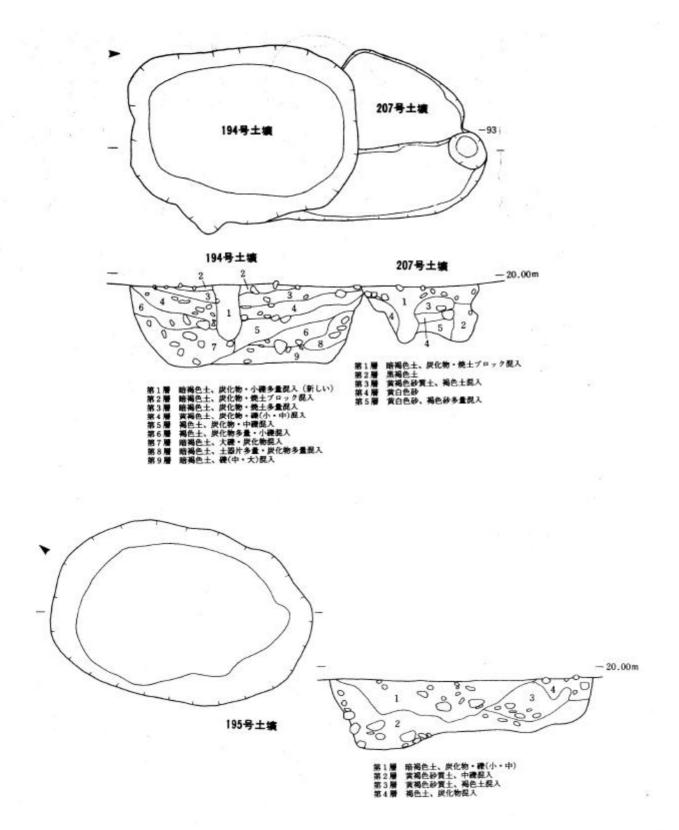
第54図 土 填





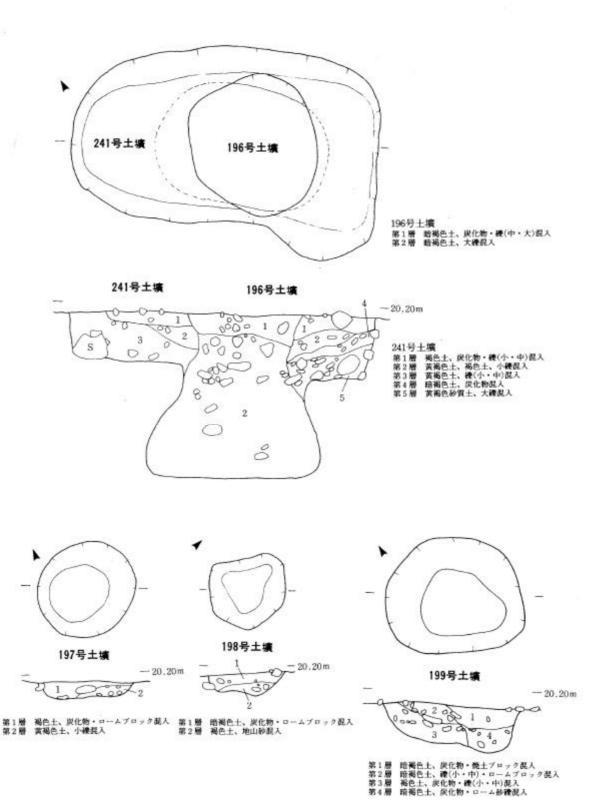




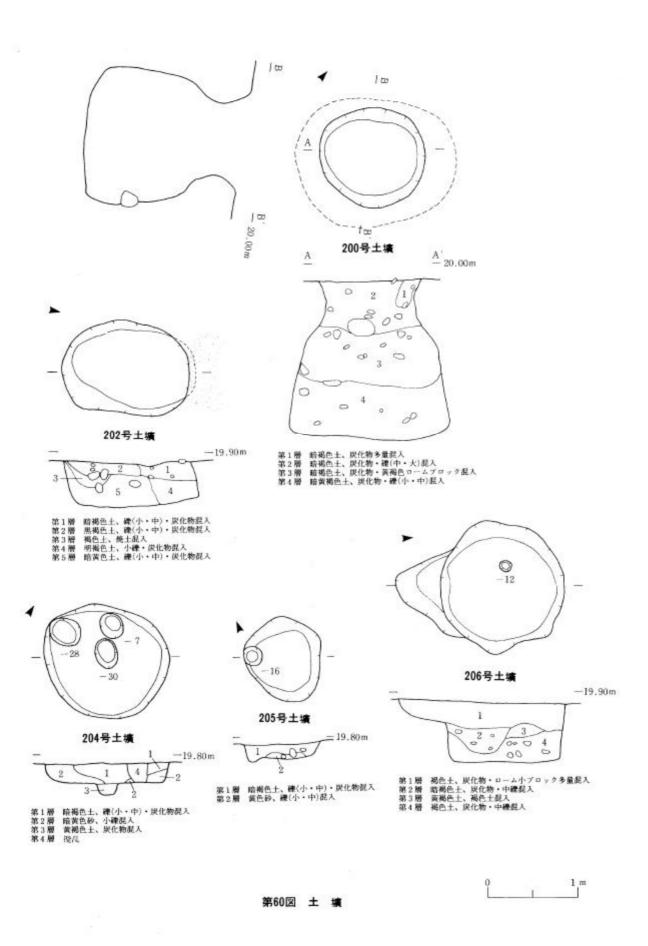


第58図 土 壙

1 m



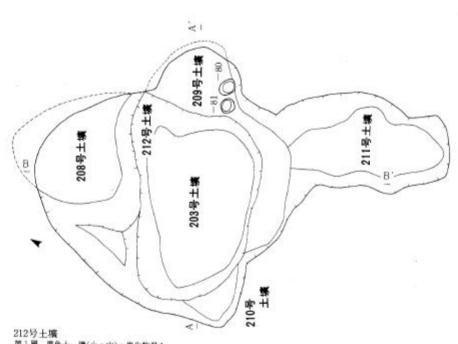




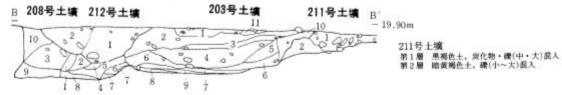


74





第1層 黒色土、緑(小・中)・炭化物混入 第2層 暗褐色土、緑(小・中)・炭化物混入



208号土 擴 第1層 褐色土、黄褐色砂・黒褐色土混入 第2層 焼土、炭化物 第3層 褐色土、炭化物多量・ローム小ブロック混入 第4層 褐色土、紫化色砂裂入 第6層 黄褐色砂、褐色砂裂入

第7層 にぶい黄褐色砂質土 第8層 英褐色砂 第9層 英褐色砂、褐色土捉入 第10層 暗褐色土

203号土壙

第1冊 無拠色土、炭化物品入 第2冊 転拠色土、炭化物多量・賃土ブロック製入 第3冊 結場色土、炭化物多量・賃土ブロック・炭化物製入

第4層 結場色土、実現色土中ブロック・炭化物多量提入 第5層 にぶい英褐色土、炭化物・にぶい黄白色粘土ブロック提入 第6層 褐色土、黄褐色土ブロック・にぶい黄色砂質土・炭化物能入

職(小・中)・政化物組入 英編色土ブロック・政化物組入 英編色土ブロック・徳土ブロック組入

209号土城 第1層 暗褐色土、碧 第2層 暗褐色土、碧 第3層 暗褐色土、碧

首旗器色土、族化物配入 5貨業器色土、英格色土配入 2.5い護器色土、炭化物配入 5.5い 護器色砂質土 6.6、1、炭素色砂質土 5.6、炭素色砂質土

19.90m

<11

209号土壤

203号土壤

210号土壤

<1

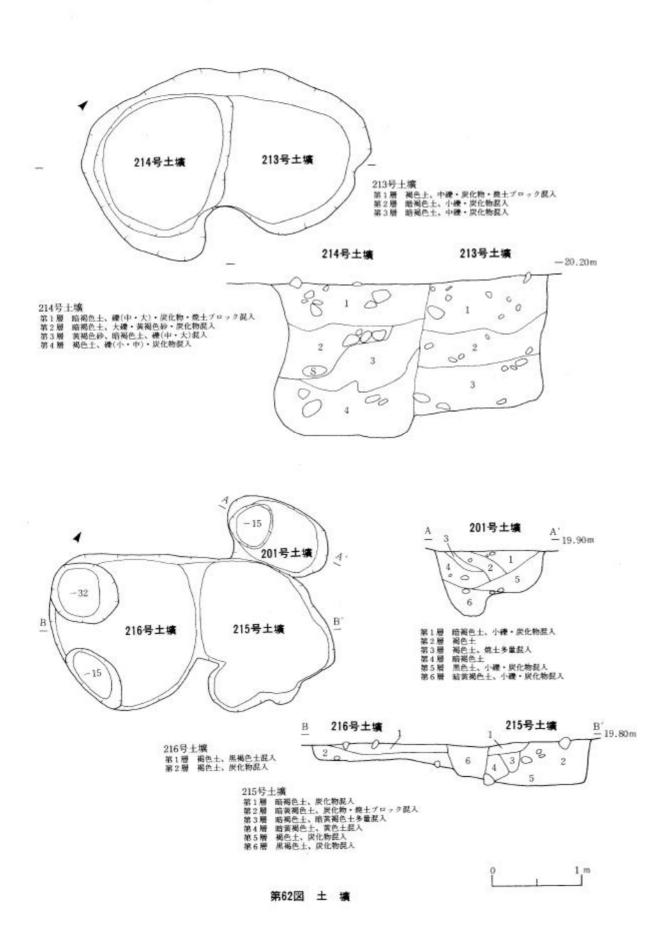
0

Ε

-

0

第7層 黄色砂、褐色土混入 第8層 黄褐色砂質土 第9層 褐色土、焼土・赤褐色土小ブロック混入 第10層 褐色土、火化物混入 第11層 黒褐色土、炭化物・小磯裂入

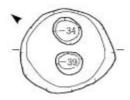




217号土壤



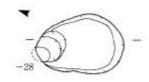
第1層 黄褐色土 第2層 褐色土、黄褐色土混入 第3層 暗褐色土、炭化物・ロームブロック混入



218号土壤



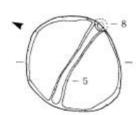
第1層 褐色土、黄褐色土混入 第2層 褐色土 第3層 黄褐色砂



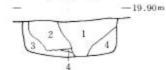
219号土壤



第1層 褐色土、炭化物数量混入 第2層 にぶい黄褐色土



220号土壙



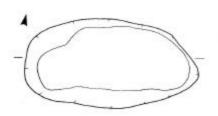
第1層 蛤褐色土、炭化物混入 第2層 楊色土、炭化物混入 第3層 蛤黄褐色土 第4層 英褐色土

47 -17-12

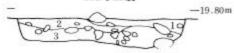
221号土壙



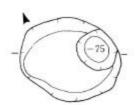
第1層 実現色士、褐色土刺入 第2層 褐色土、炭化物・種(小〜大)混入 第3層 暗黄褐色土、炭化物混入 第4層 暗褐色土、炭化物混入 第5層 暗褐色土、炭化物よス 第6層 暗褐色土、炭化物・ローム小ブロック混入 第7層 暗黄褐色土、炭化物・ローム小ブロック混入



222号土壙



第1層 結場色士、炭化物混入 第2層 褐色士、炭化物混入 第3層 にぶい黄褐色士、礫(小〜大)混入



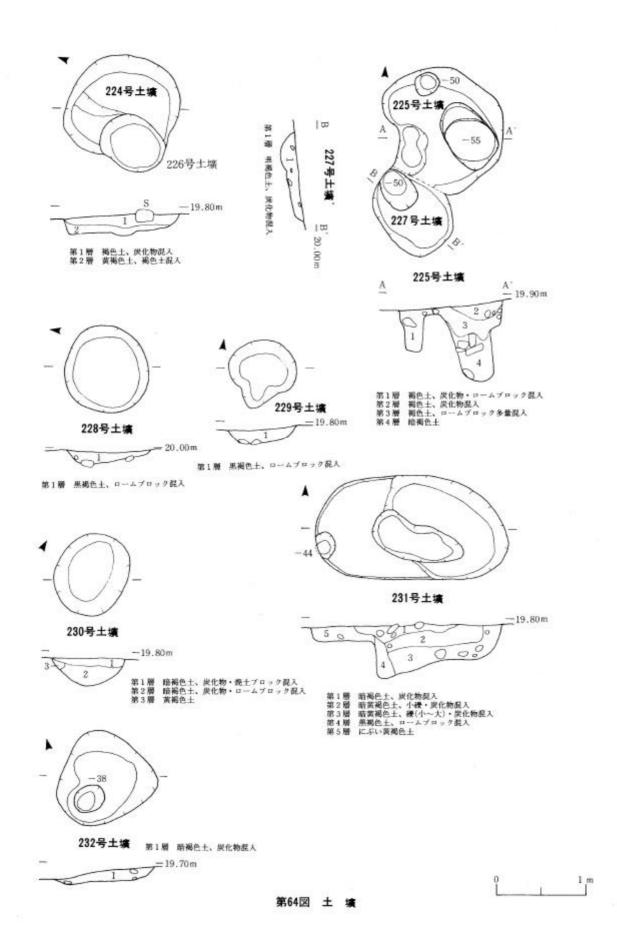
223号土壙



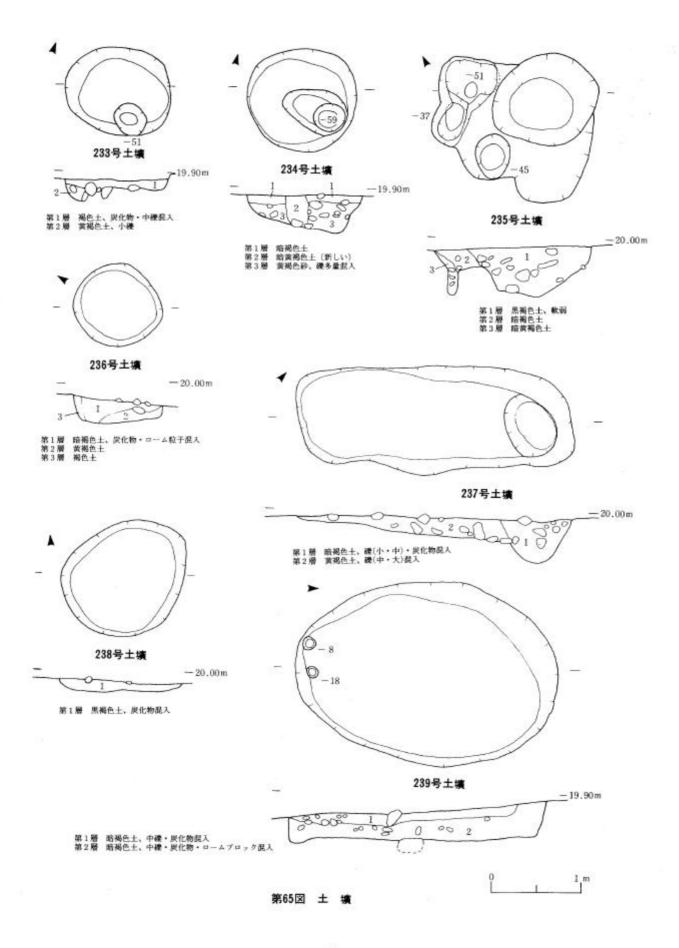
第1 暦 褐色土、炭化物混入 第2 暦 黄褐色土、褐色土混入 第3 扇 褐色土、黄褐色土、炭化物混入 第4 暦 暗褐色土、中礫銀入



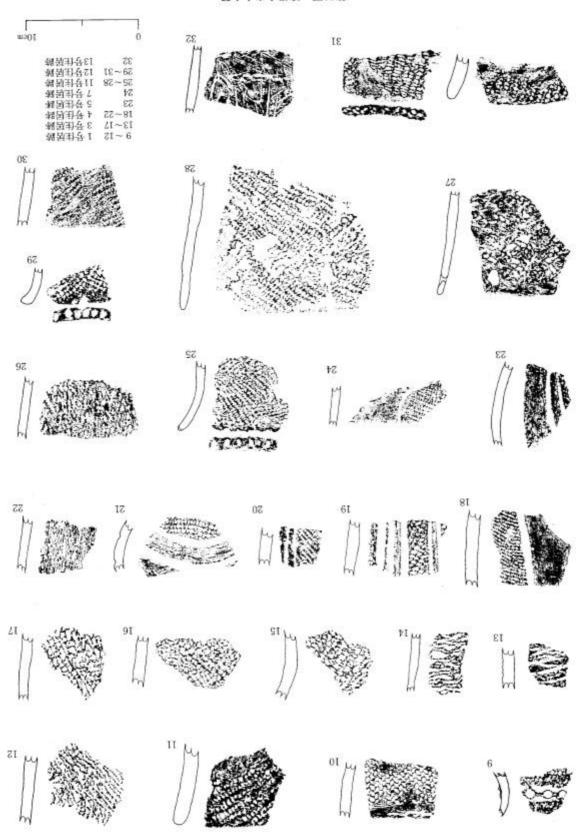
第63図 土 壙

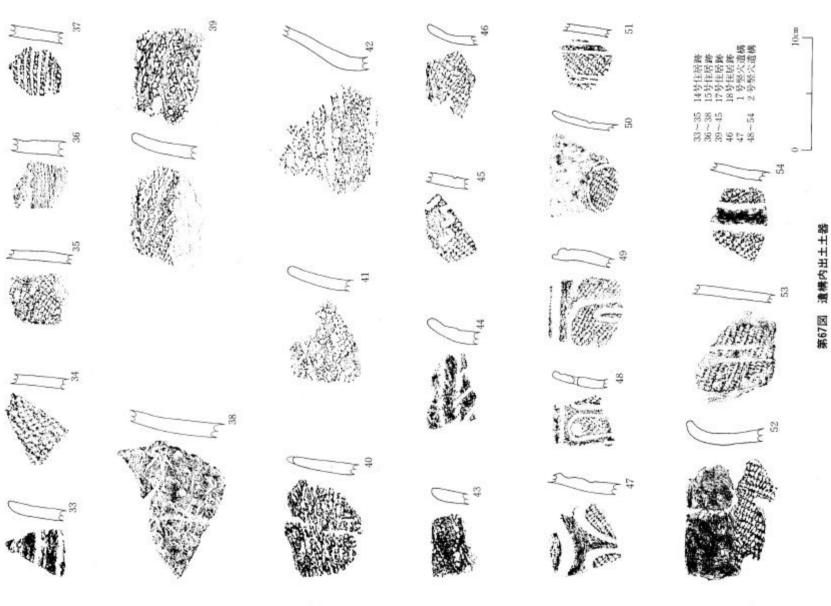


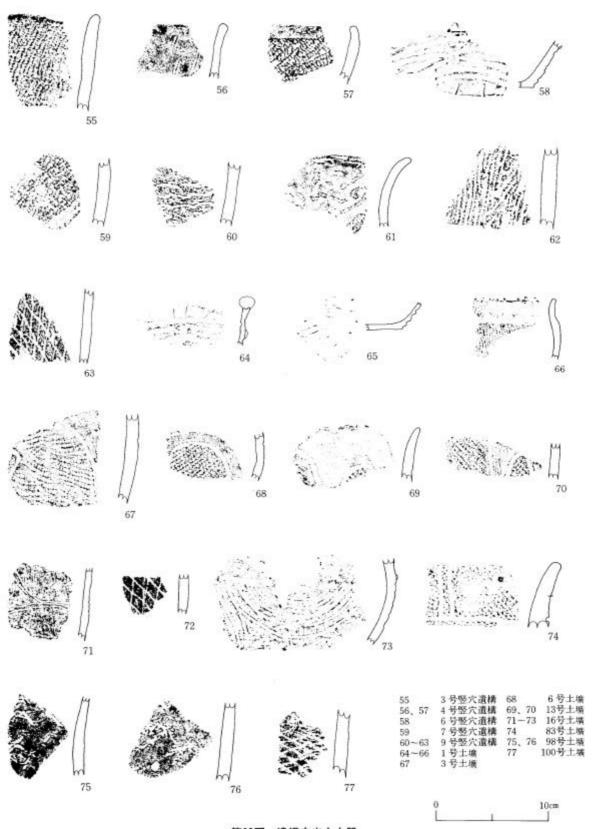
ť.



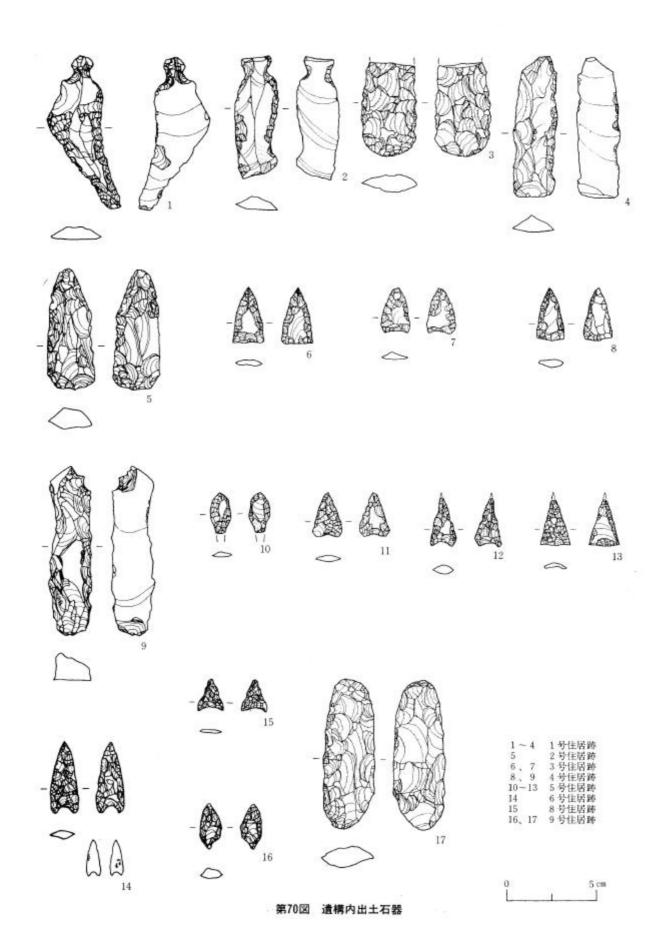
器土土出内养産 図88第



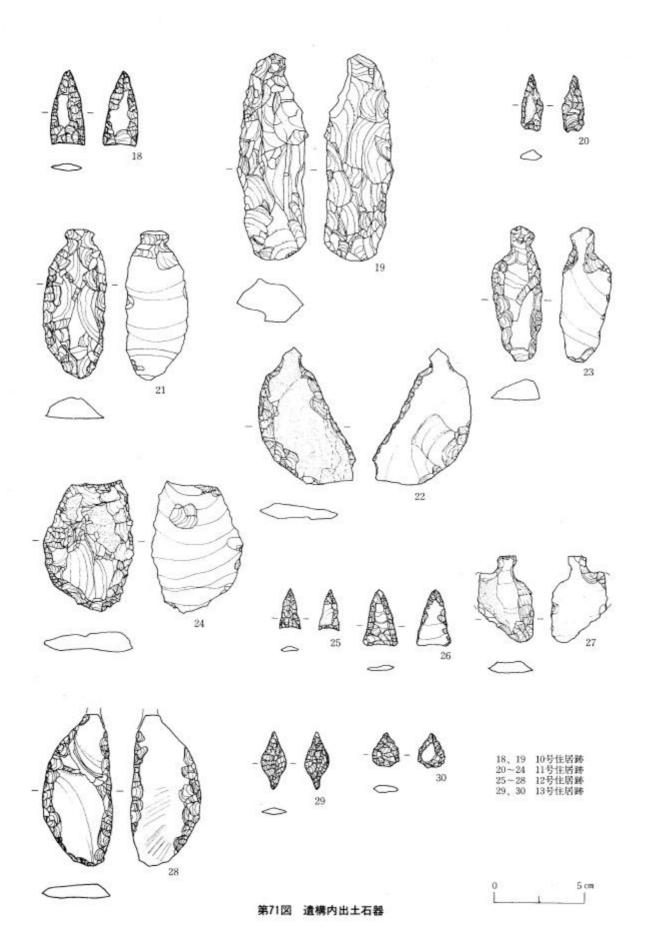


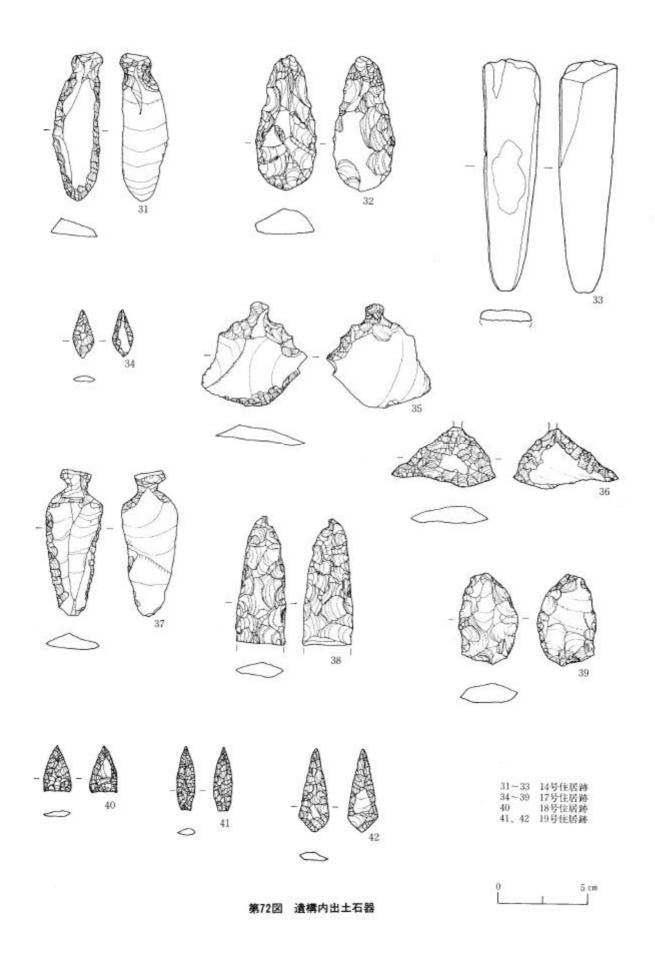


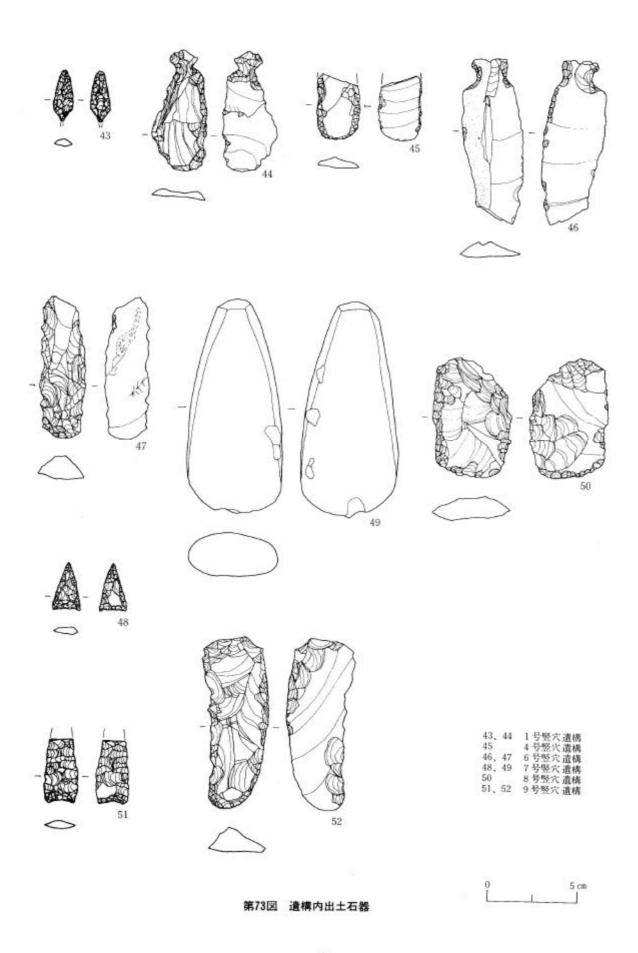
第68図 遺構内出土土器

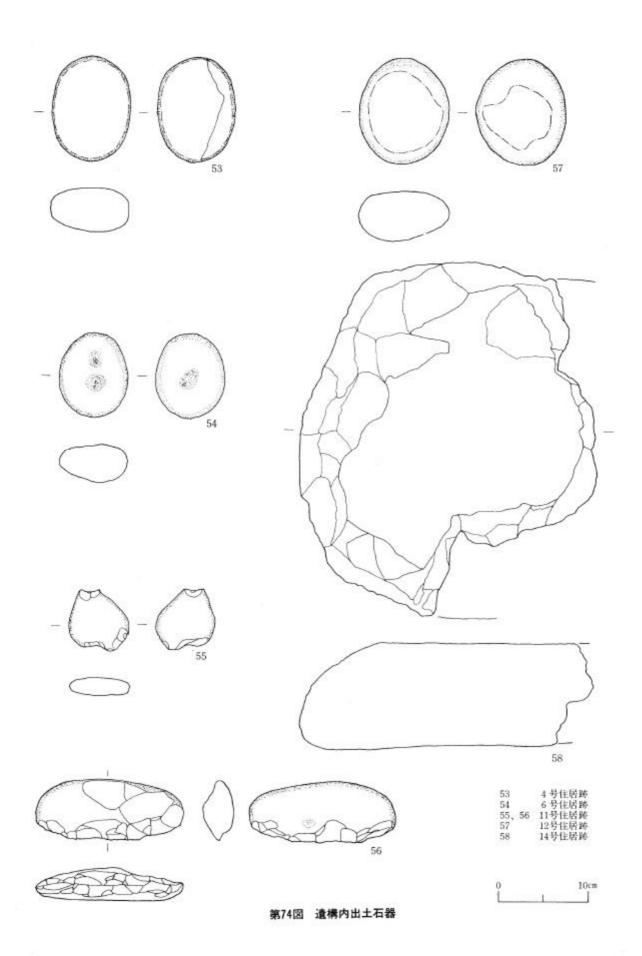


-83-

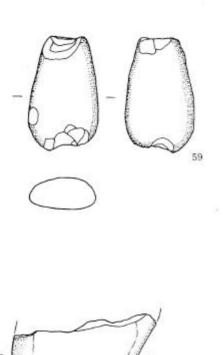


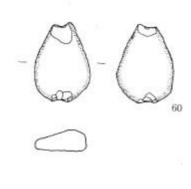


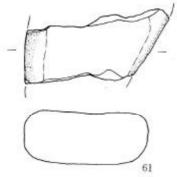


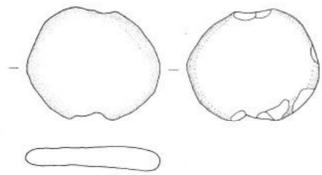


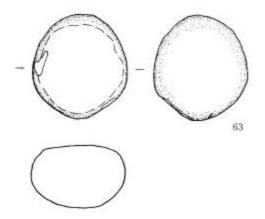
-87-







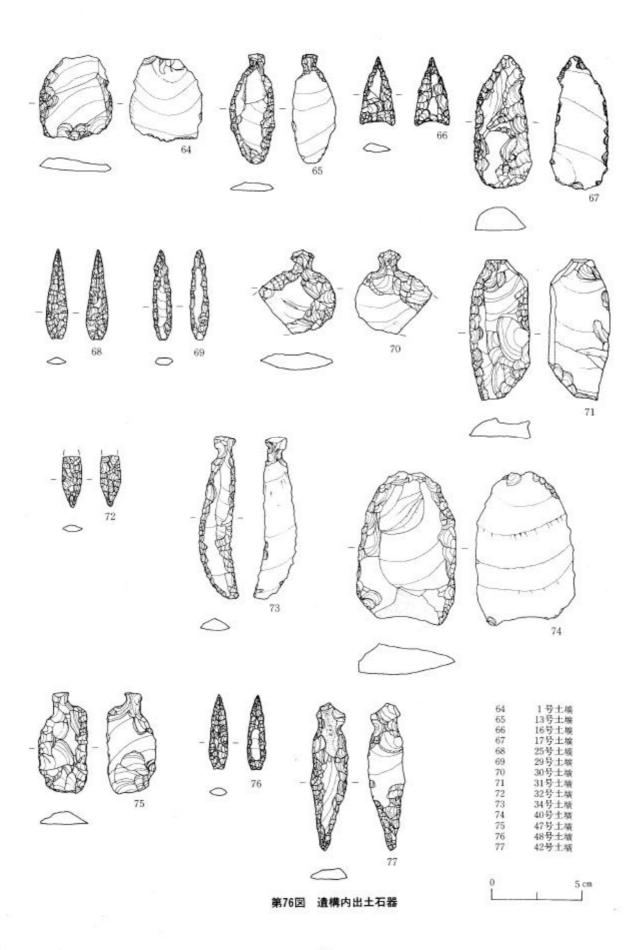


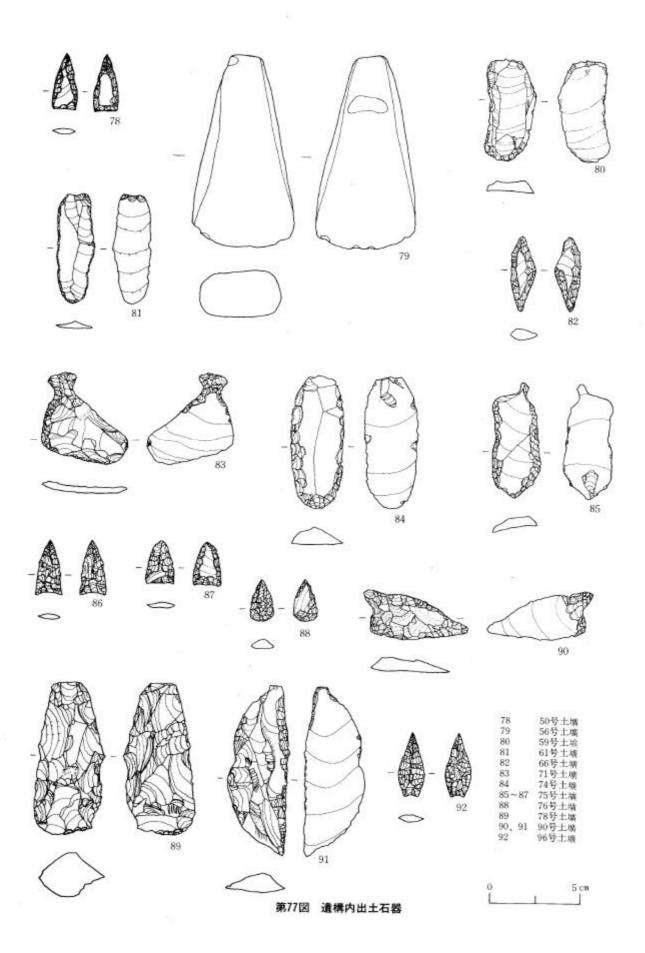


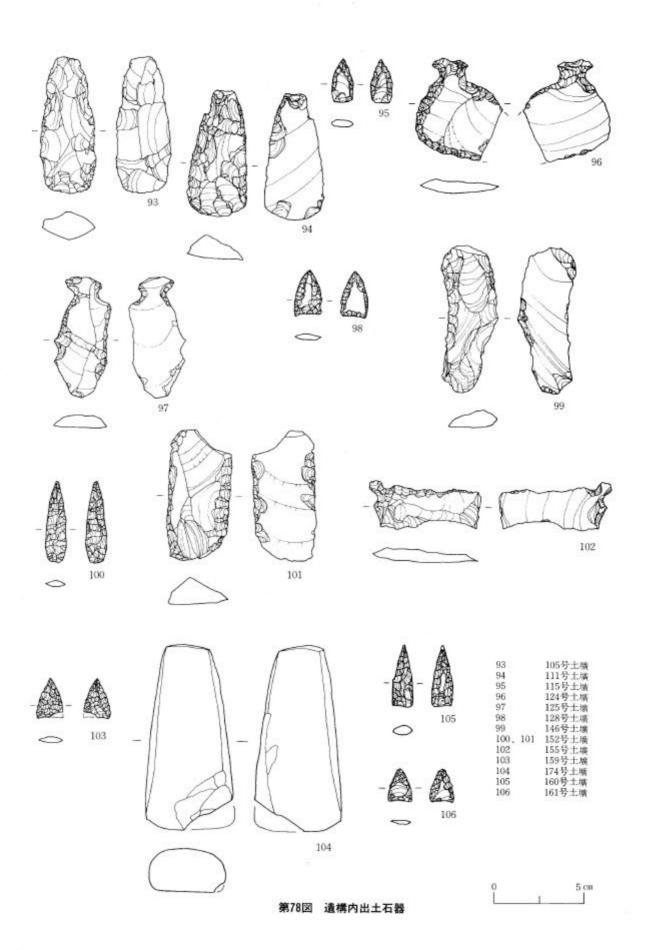
59 16号住居跡 60 18号住居跡 61 1号竪穴遺構 62 3号竪穴遺構 63 9号竪穴遺構

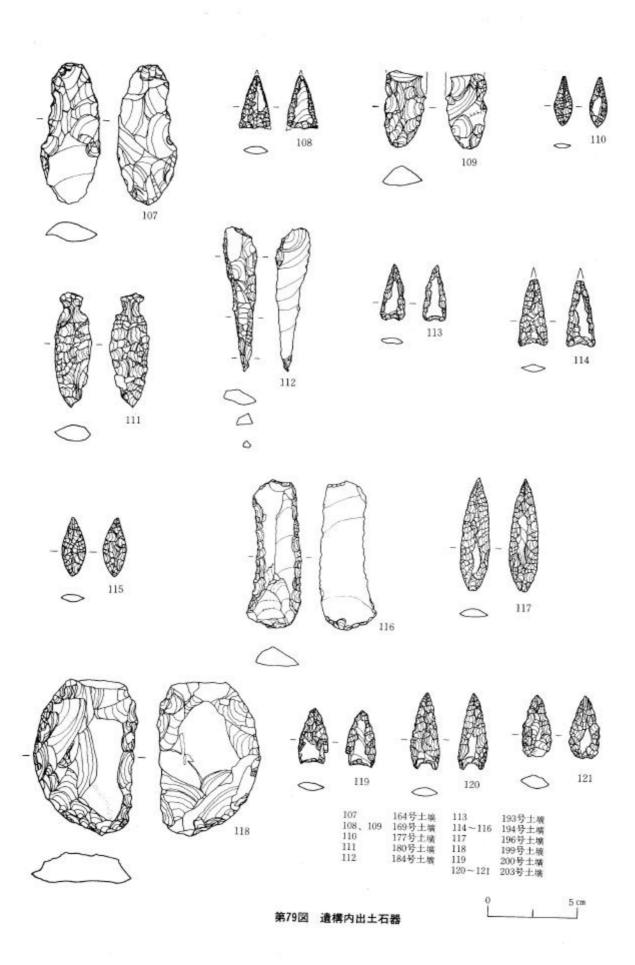
0 10cm

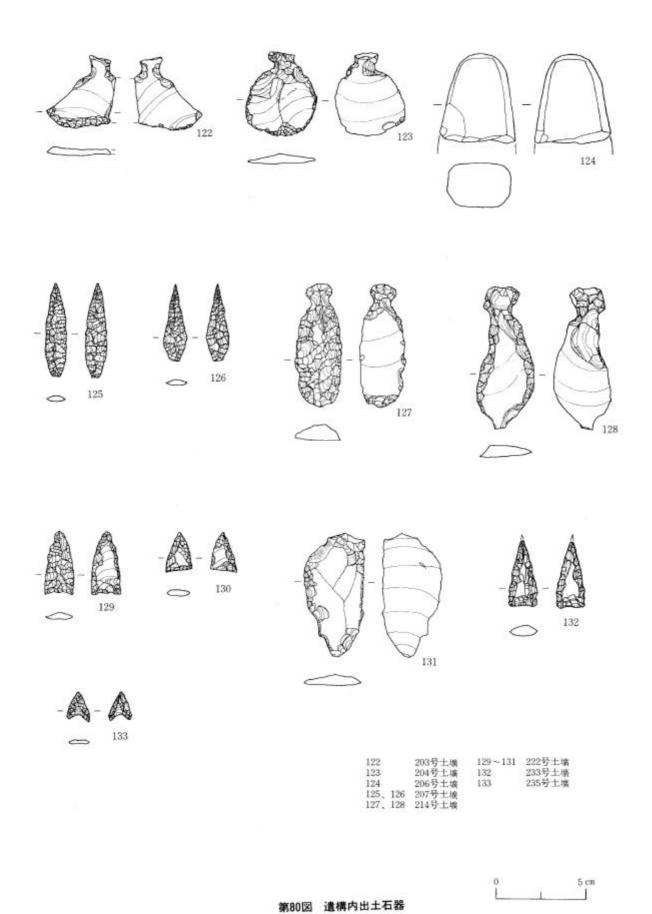
第75図 遺構内出土石器

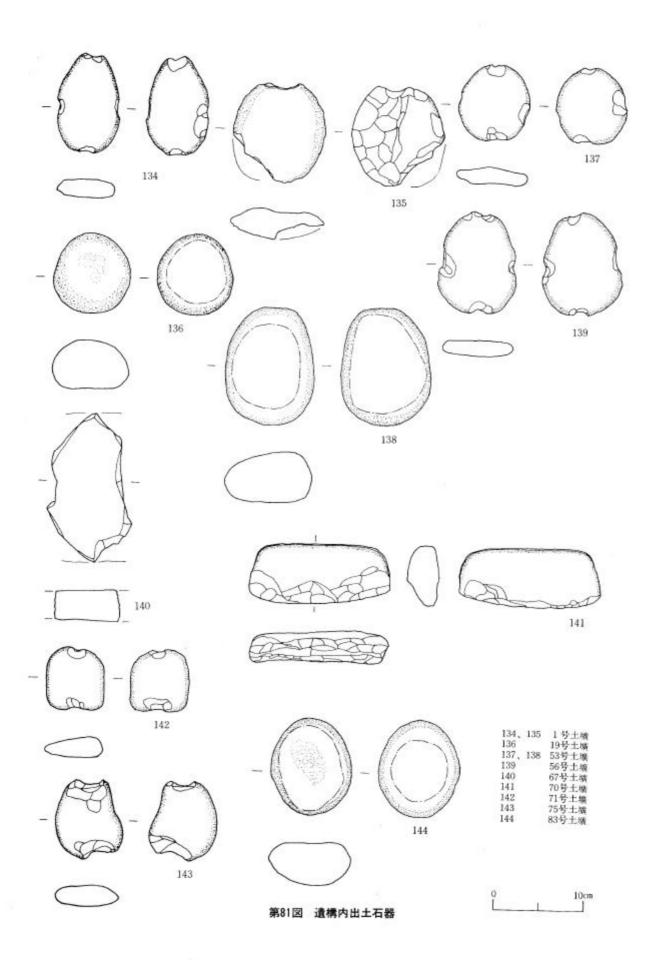


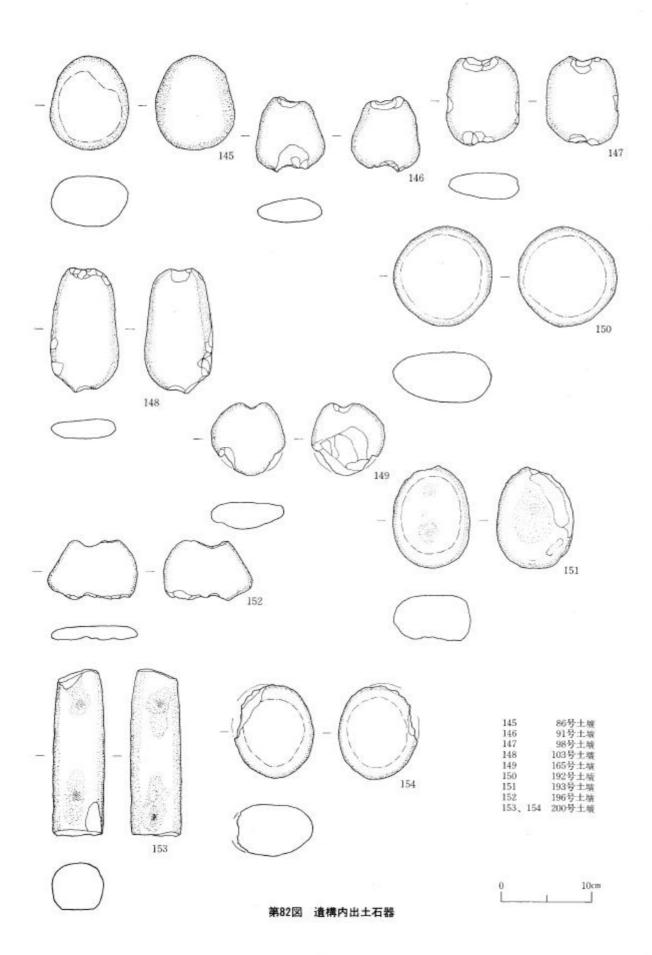












遺構外出土土器

遺構外出土土器を施文様により群に大別し、さらに類に細別した。なお、遺物包含層における層位的な区別は認められなかった。

第 I 群土器 (第84、85図104~150)

1類 (104~106)

不整撚糸文を施すものである。全て深鉢形土器で、104、105は口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。

2類 (107~124)

綾絡文を施すものである。全て深鉢形土器で、107、108の口縁部は大きく外反し、121は頸部が内傾して立ち上がる。117、118の口縁部には粘土紐を貼付し、117は斜方向、118は正面から刺突を施している。

3類 (125~130)

羽状縄文を施すものである。全て深鉢形土器で、Lr・Rl無節原体を用いていると考えられる。これらは縄文原体の上下を持ち変えて菱形の構図を作り出しており、125、126、129、130は顕著に認められる。

4類 (131~136)

沈線で文様を作り出すものである。全て深鉢形土器で、口縁部は134が垂直に、他は外反しながら立ち上がる。1 31、134は口縁部に鋸歯状に施し、地文はLR単節斜縄文(横位回転)で、口唇部にも地文が認められる。132は鋸歯状文が大きく施され、口唇部と鋸歯状文の間に「V」字状の文様が入る。133は鋸歯状文が数段施されるが、部分的に沈線を斜方向へ施して複雑な文様を作り出している。135、136は口縁部に平行沈線を施すもので、口唇部には刺突が認められる。135の沈線間と上から2本目の沈線の下には弧状に文様を施している。いずれも地文はLR単節斜縄文(横位回転)で、太い原体を用いている。

5類 (137~141)

口縁部に撚糸圧痕や単軸絡条体圧痕を平行して施すものである。全て深鉢形土器で、137、138は口縁部がほぼ垂直に、140、141は口縁部が外反しながら立ち上がる。140は上下2条の撚糸圧痕間に爪形文が施される。141には単軸絡条体圧痕が認められる。

6類 (142~146)

網目状撚糸文を施すものである。全て探鉢形土器で、142は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる。

7類 (147、148)

燃糸文を施すものである。いずれも深鉢形土器の胴部である。

8類 (149、150)

木目状撚糸文を施すものである。いずれも深鉢形土器の胴部で、撚糸は2条1組となるように軸に巻付けている。

第II群土器 (第83図99、第85、86図151~166)

1類(151~156)

口縁部に粘土紐を渦巻状に貼付して文様を作り出すものである。全て深鉢形土器で、151、154の口縁部は内弯し、 151は丸みのある山形口縁と考えられる。

2類 (99、157~166)

沈線区画の磨消帯を有するものである。全て深鉢形土器で、磨消帯は幅が狭く、縦位方向へ展開するものが多い。 99は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる。口縁部に粘土紐を丸く貼付して円形文を4ヶ所に作り、各円形文を沈線で連絡している。また、円形文の下方に一回り小さな円形文を作り、各円形文の間には沈線で円形文を施している。地文はLR単節斜縄文(縦位回転)である。157、161は口縁部が緩く外反しながら立ち上がる。

第111群土器 (第86図167~171)

数条の沈線及び平行沈線により文様を作り出すものである。沈線は直線・弧状・曲線・長方形等に施されるが、 170には連鎖状文が認められる。167は鉢形土器で、頸部が内薄して口縁部が直立するものである。171は壺形土器 の口縁部である。口唇部下方に平行沈線が巡り、頸部に肉厚の帯を巡らし、その中に沈線で円形文や長方形文を施 している。

第Ⅳ群土器 (第83図100~103、第86図172~178)

1類 (100、172、173)

口縁部に入組文を施すものである。全て鉢形土器で、100は口縁部にB状突起をもつ。頸部に平行沈線が巡り、 地文はRL単節斜縄文(横位回転)である。他は口縁部が内湾しながら立ち上がり、173の口唇部にはB状突起を もつ。

2類 (174)

口縁部に「の」字状文を連続して施すものである。口縁部が内湾しながら立ち上がる鉢形土器である。

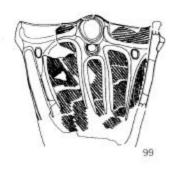
3類 (175~177)

口縁部に刻み目文を施すものである。全て鉢形土器で、口縁部は緩く内薄しながら立ち上がる。

4類 (178)

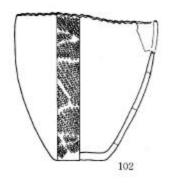
口縁部に平行沈線を施すものである。鉢形土器で、口縁部は緩く内湾しながら立ち上がる。

5類 (101、102)











0 10cm

第83図 遺構外出土土器

地文のみのものである。101は小型の壺形土器で、地文はRL単節斜縄文(横位回転)である。102は鉢形土器で、 ロ唇部は小波状をなしている。地文はRL単節斜縄文(横位回転)である。

6類(103)

無文のものである。小型の壺形土器で、丁寧に磨かれている。

第V群土器 (第87図179、180)

須恵器である。いずれも甕で、内外面に平行叩板痕が認められる。

第 VI 類土器 (第87図181~188)

中世陶器で、全て擂鉢の破片である。

土製品 (第88図1~22)

再利用土製品である。土器片を再利用したもので、円形ないしは楕円形を呈するものである。

遺構外出土石器

出土した石器は、石鏃・石錐・石匙・石槍・ヘラ状石器・掻器・削器・両面加工石器・磨製石斧・石剣・石鍾・ 半円状扁平打製石器・くぼみ石・磨石・石皿である。

石鏃 (第89、90図155~183)

71点出土している。形態はⅠ類:有茎鏃、Ⅱ類:無茎鏃、Ⅲ類:尖基鏃、Ⅳ類:円基鏃に分けられる。石質は硬質頁岩が多く、黒曜石も認められる。

模式团

数

3

点

II A

37

石鏃模式図

IIB

5

ш

13

IV

13

I類:基部が直線的なもの

II類

A:基部に抉入があり、曲線的なもの

B:基部が直線的なもの

Ⅲ類:基部が尖るもの

№類: 基部が丸みをおびるもの

石錐 (第90図184、185)

2点出土している。棒状の錐部と短めの錐部からなるものである。石質はいずれも硬質頁岩である。

石匙 (第90~92図186~208)

70点出土している。形態はⅠ類:縦型石匙、Ⅱ類:横型石匙に分類される。石質は硬質頁岩が多い。

I類: 縦型石匙 45点出土している。刃部が2縁辺からなるもので、一端が鋭く尖るものもある。

Ⅱ類:横型石匙 25点出土している。刃部が2縁辺からなるものと3縁辺からなるものがある。

石槍 (第92、93図209~215)

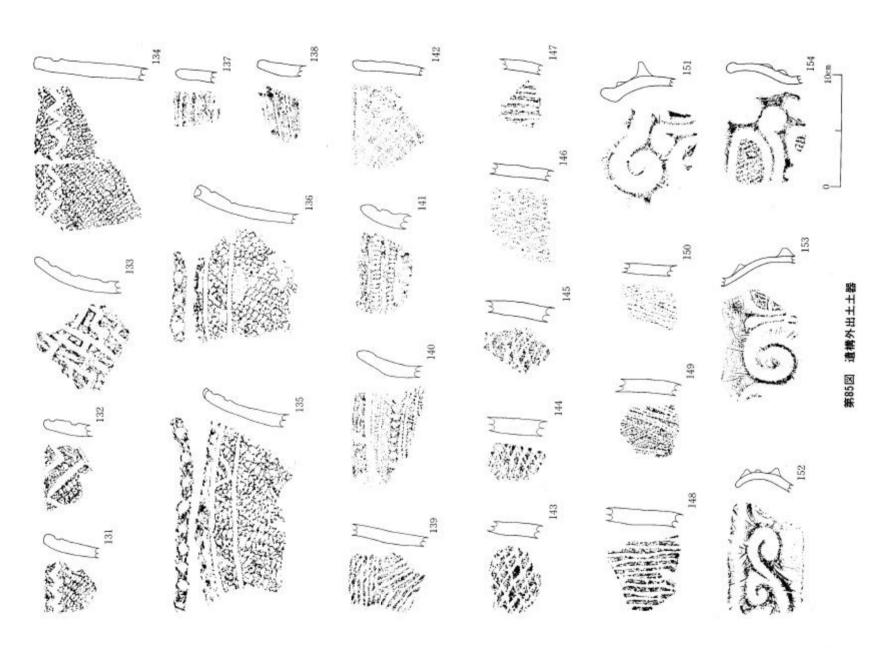
12点出土している。基部を尖らせているものと丸みをおびているものがある。石質は全て硬質頁岩である。

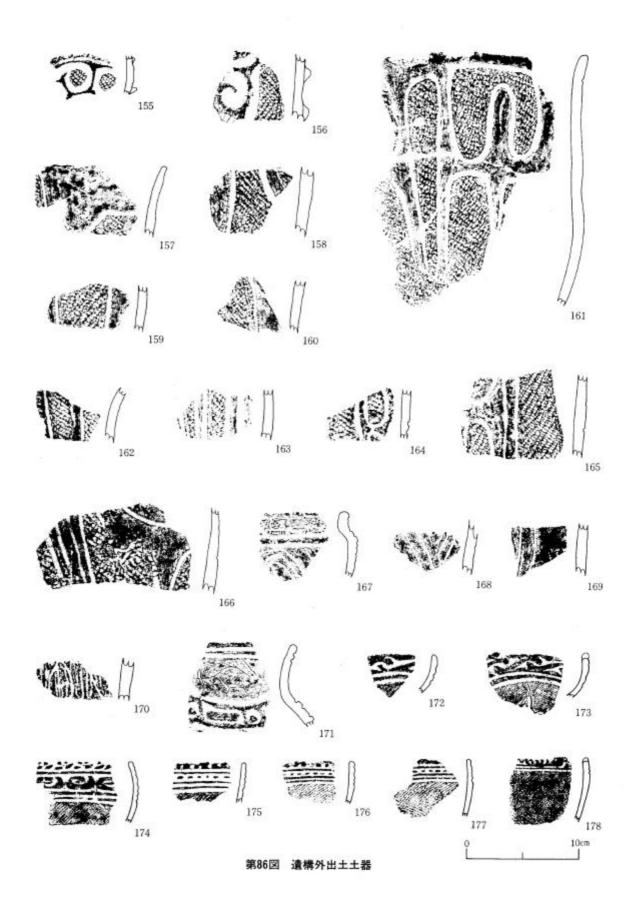
ヘラ状石器 (第93図216~223)

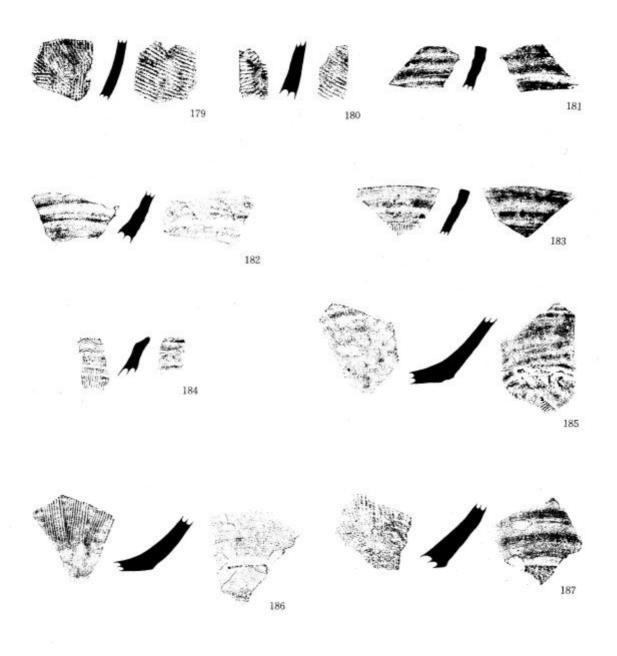
19点出土している。平面形が撥形あるいは短冊形を呈し、一端に調整を施して刃部を作り出している。石質は全 て硬質頁岩である。

播器 (第94図224、225)

2点出土している。縁辺に調整を施して刃部を作り出している。石質はいずれも硬質頁岩である。



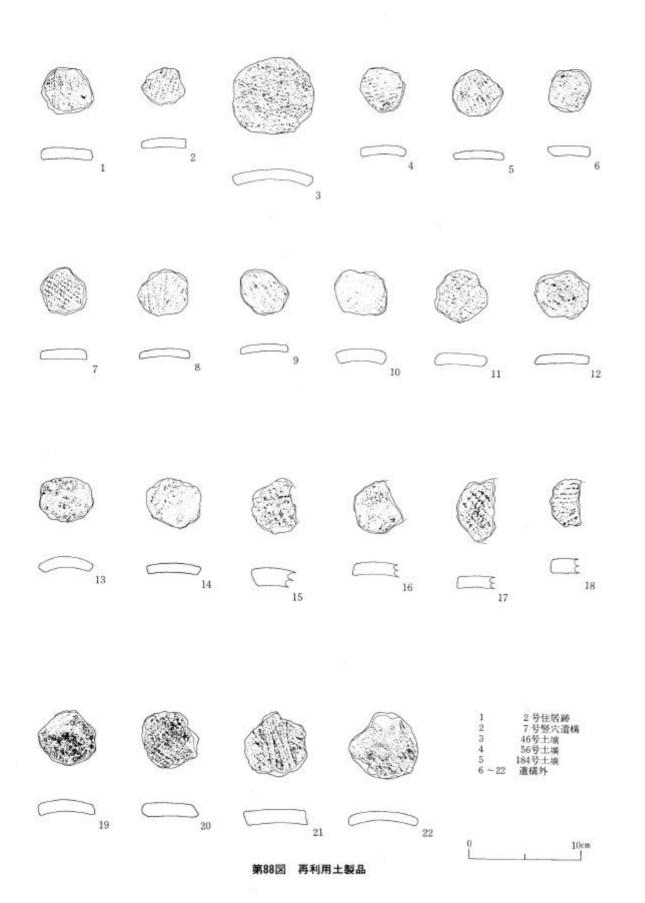


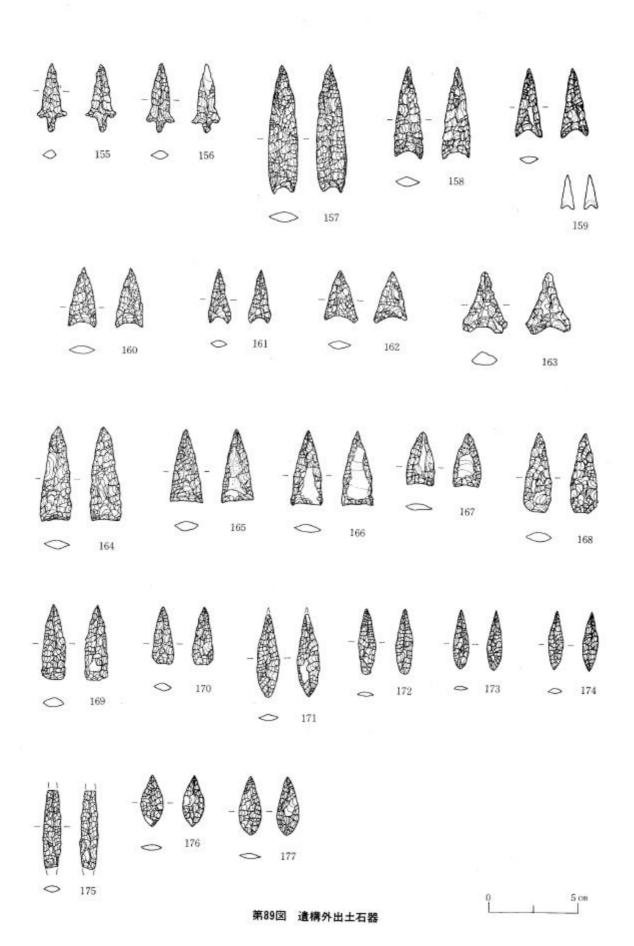




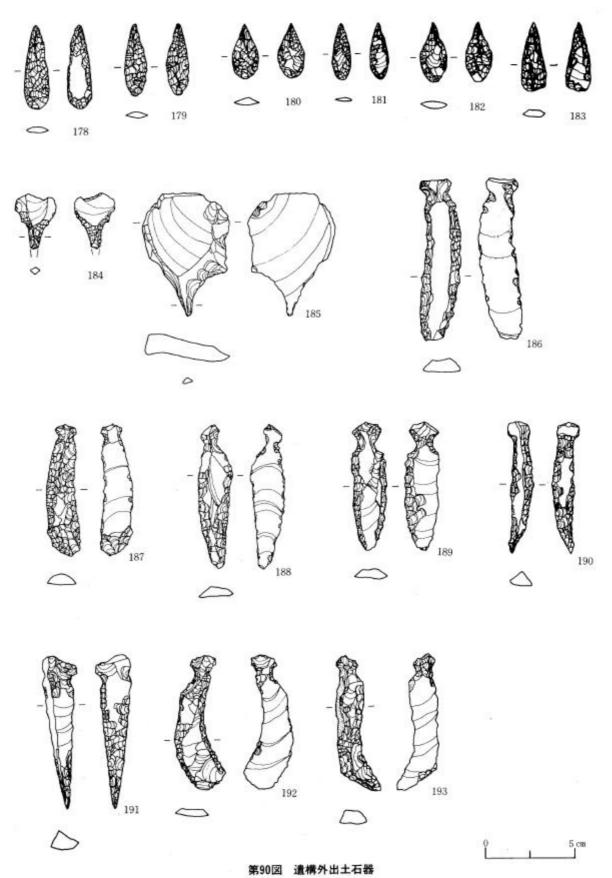
第87図 遺構外出土土器

10cm

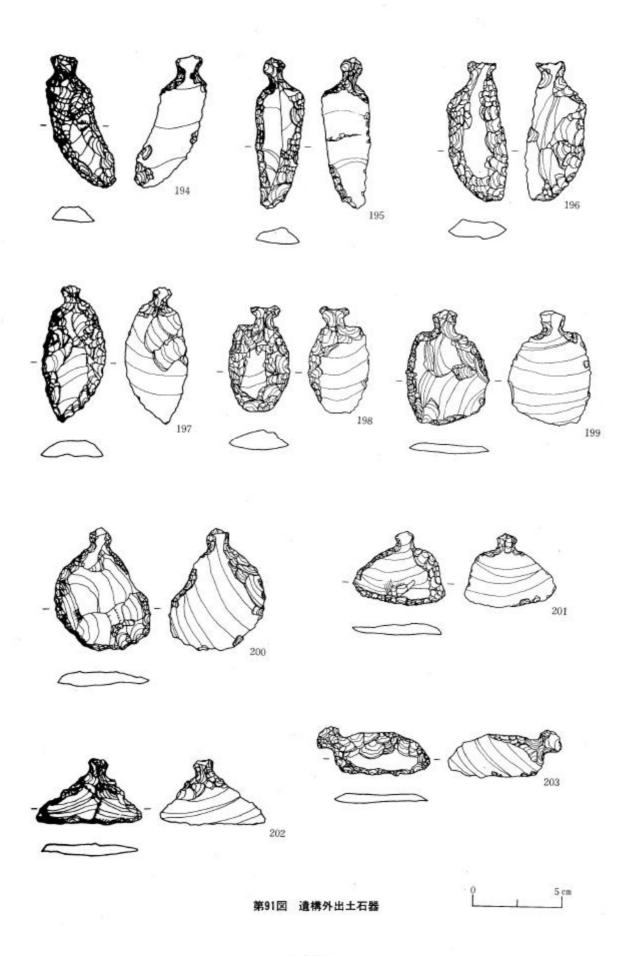


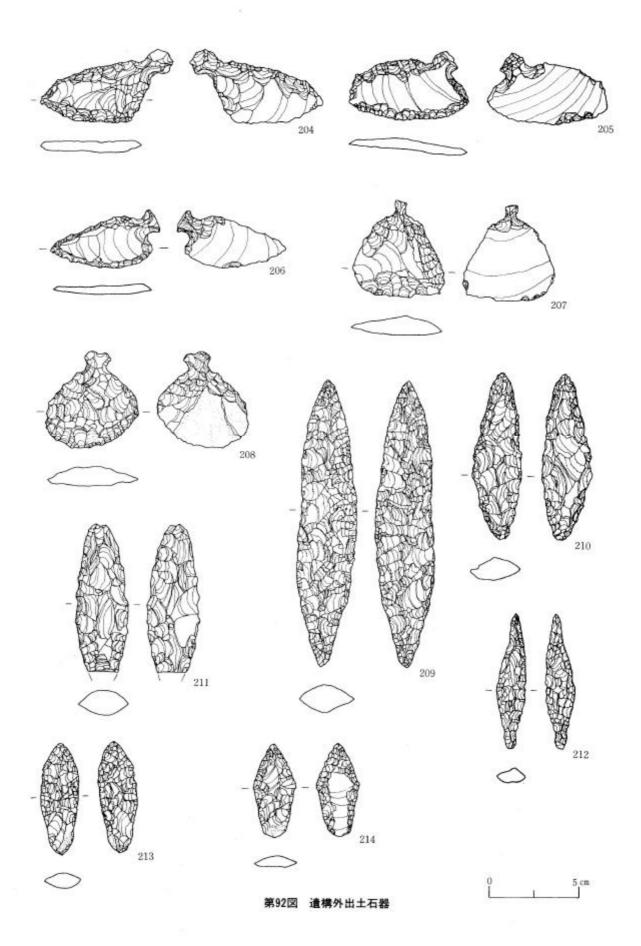


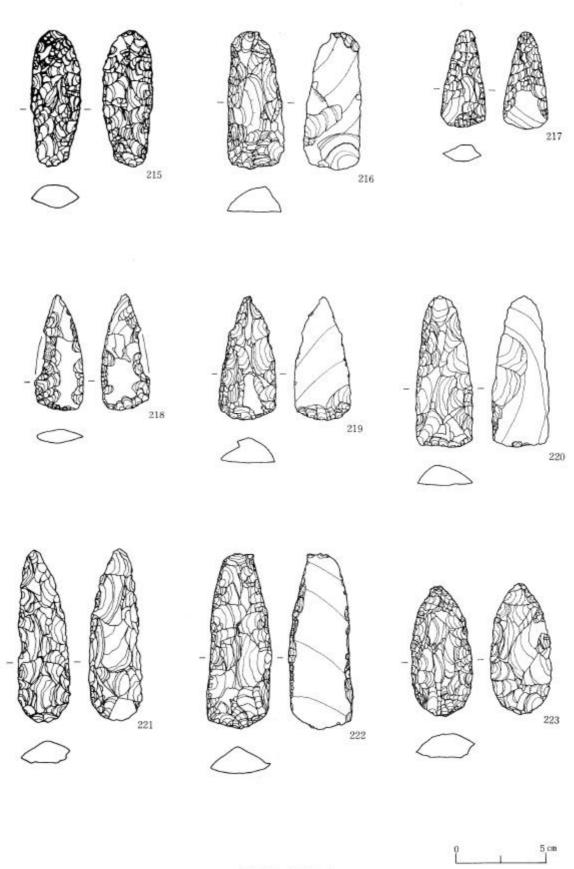
-104-



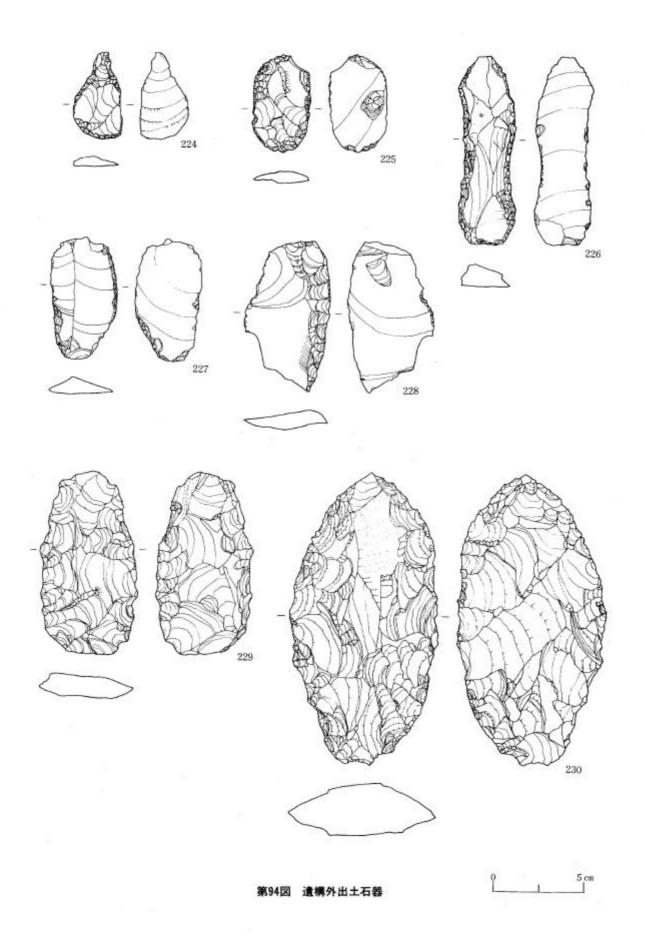
AND SECURITION OF THE SECURITION OF THE SECURITION

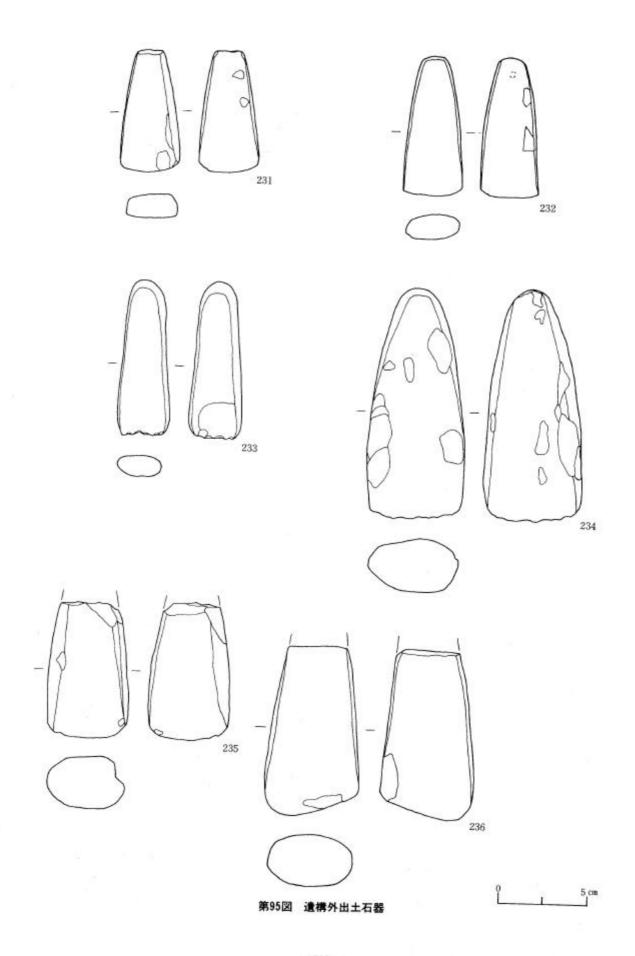


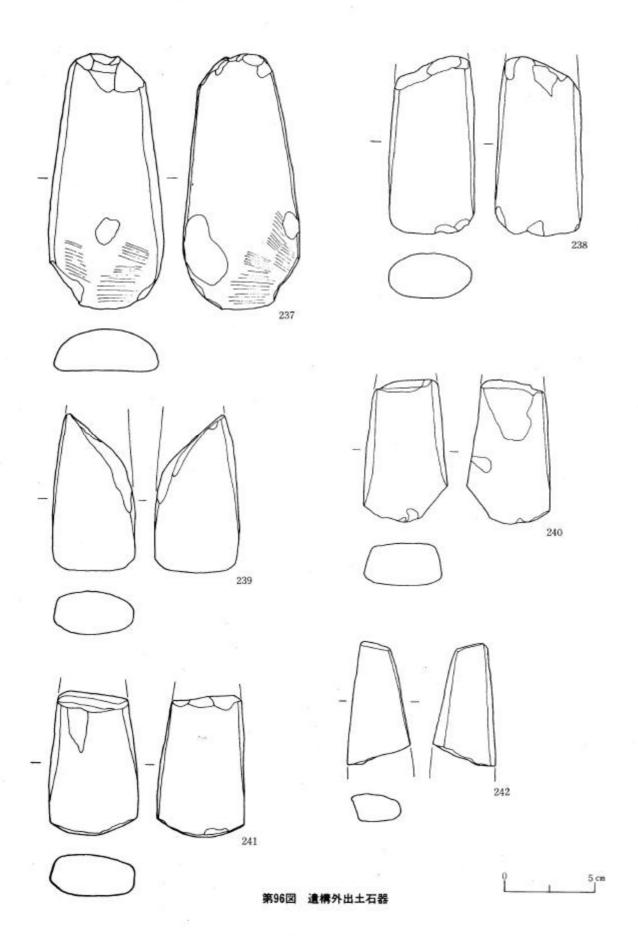


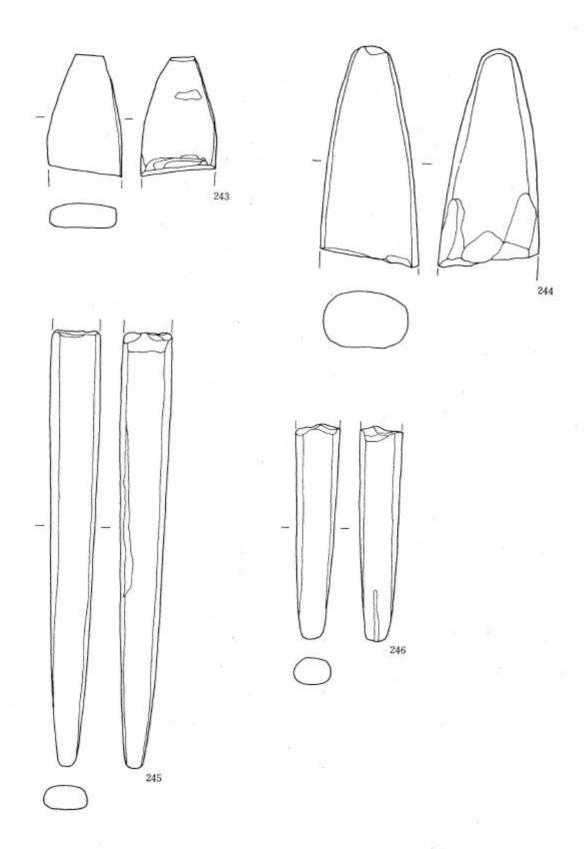


第93図 遺機外出土石器

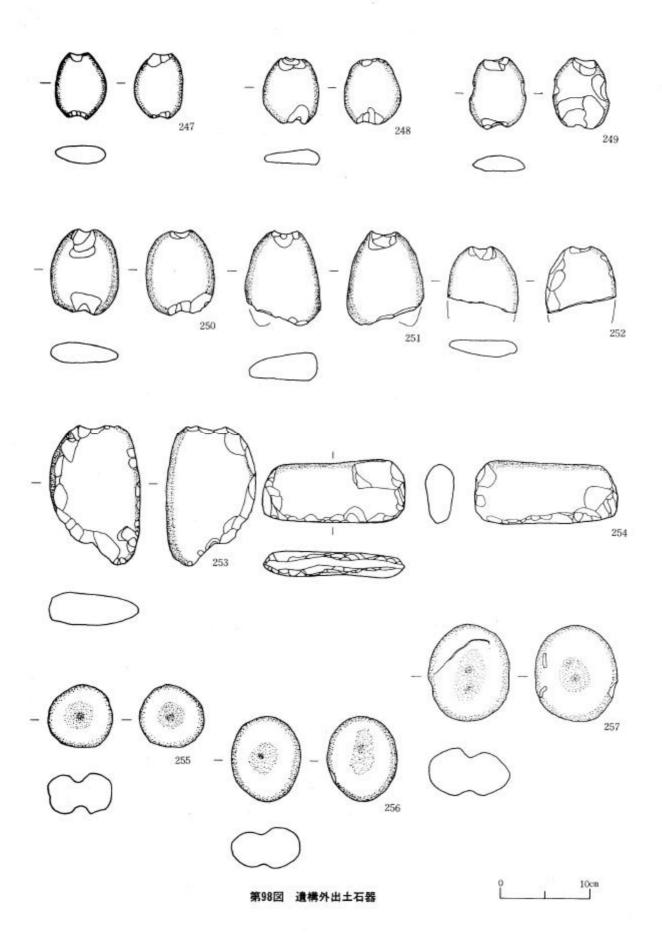


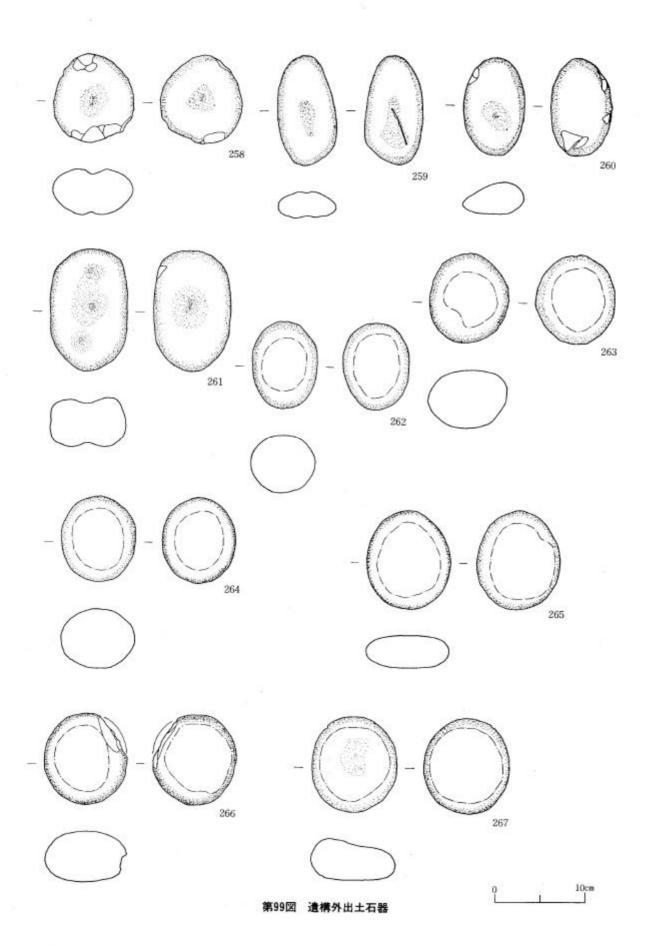


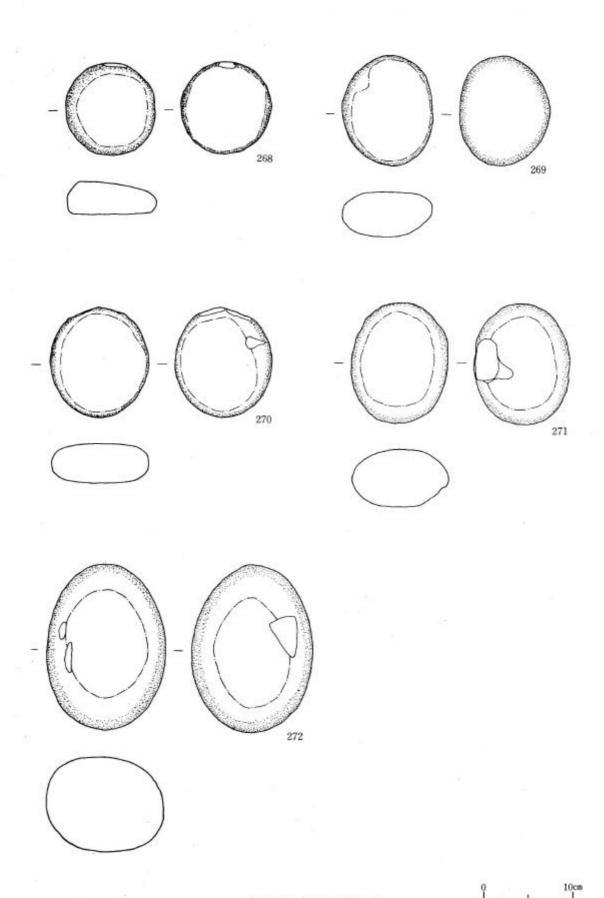




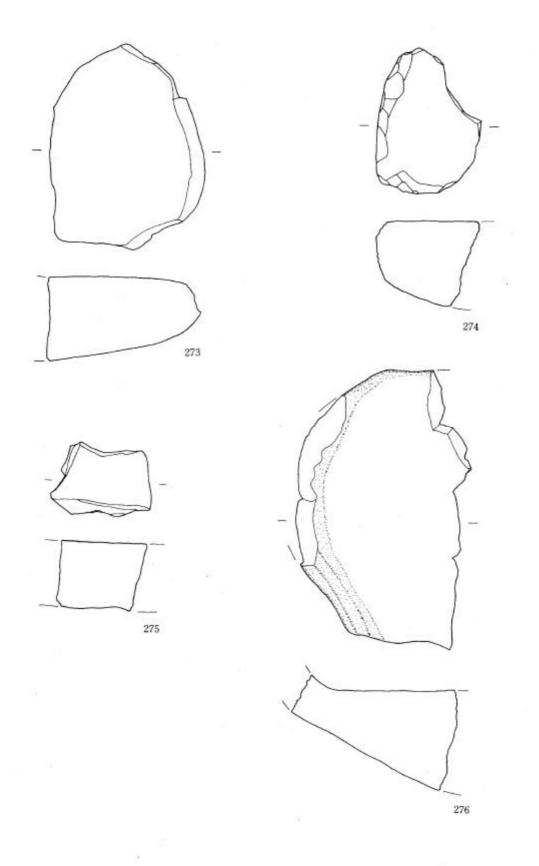
第97図 遺構外出土石器

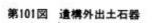






第100図 遺構外出土石器





削器 (第94図226~228)

3点出土している。側縁に調整を施して刃部を作り出している。石質は全て硬質頁岩である。

両面加工石器 (第94図229、230)

2点出土している。大型の剝片を利用し、両面に調整を施すものである。石質はいずれも硬質頁岩である。

磨製石斧 (第95~97図231~244)

14点出土している。基部及び刃部が欠損するものが多く、石質は擬灰岩である。

石剣 (第97図245、246)

2点出土している。いずれも把部が欠損している。石質は粘板岩である。

石錘 (第98回247~253)

7点出土している。ほぼ扁平な自然礫の両端に抉りを入れるもので、平面形は楕円形を呈する。

半円状偏平打製石器 (第98図254)

1点出土している。ほぼ扁平な自然礫の一側縁に両面加工を施して刃部を作り出している。

くぼみ石 (第98、99図255~261)

7点出土している。円形または楕円形を呈する自然礫の両面に1~2カ所くぼみが認められるものである。

磨石 (第99、100図262~272)

11点出土している。丸みのある自然礫の両面が磨れているものである。

石皿 (第101図273~276)

4点出土している。円形または楕円形の河原石を使用したもので、縁をもつものもある。

まとめ

地ノ内遺跡は、旭川左岸の標高約20mの河岸段丘上に立地する。遺跡の南側は水田の耕地整理の際に削平されて おり、北側約3,000mの調査となった。

調査の結果、竪穴住居跡20軒、竪穴遺構 9 基、土壙241基が確認され、土器・土製品・石器等の遺物がコンテナ約95箱出土した。

竪穴住居跡は20軒確認され、時期は住居跡の形態及び出土遺物から縄文時代前期9軒(1、3、11~17号住居跡)、 縄文時代中期9軒(2、4~10、20号住居跡)に分けることができる。しかし、18、19号住居跡については出土遺 物が少ないことや住居跡の形態を明確に把握することができず、時期を特定することができなかった。

縄文時代前期の住居跡は、平面が楕円形を呈し、規模は中・大型のものである。主柱穴は明確に認められるものはない。炉は全て地床炉であるが、13、14、15号住居跡は把握できなかった。時期については、出土遺物が少なく特定することができないが、第1群土器が出土している前期中葉から後葉にかけてと考えられる。秋田市内の当該期の遺跡は、「児桜貫塚」や御所野丘陵部遺跡群「坂ノ上B遺跡」、同「狸崎B遺跡」、同「地蔵田A遺跡」などがあげられる。なお、御所野丘陵部遺跡群の竪穴住居跡は前期後葉(大木6式期)からの出現で、「下堤D遺跡」と「下堤F遺跡」で各々1軒ずつ認められる。また、県内の当該期の遺跡は、広場のまわりに大型住居跡が放射状に配置されていた仙北郡協和町「上ノ山田遺跡」や、大型住居跡が確認されている能代市「杉沢台遺跡」などがあげられる。

縄文時代中期の住居跡は、平面が円形を基調とし、規模は小・中型のものである。主柱穴は明確に認められるものはない。炉は全ていわゆる複式炉であるが、9号住居跡は確認できなかった。複式炉の形態は、①土器埋設部+石組部(2、8、20号住居跡)、②土器埋設部+石組部+掘り込み部(4号住居跡)、③石組部+掘り込み部(5、6、7、10号住居跡)に分けることができる。住居の切り合い関係は、4号が7号を、6号が5号を、6号が10号

を、8号が9号を切っており、炉は③から②へ、③から③への変遷が認められる。時期については、4号住居跡炉埋設土器やそれぞれの住居跡より第II群土器2類が出土していることから、中期後葉の大木9式期と考えられる。秋田市内の当該期の遺跡は、御所野丘陵部遺跡群「湯ノ沢B遺跡」、同「湯ノ沢D遺跡」、同「地蔵田A遺跡」などがあげられ、御所野丘陵部遺跡群では大木10式期を含めた中期後葉の住居跡が約240軒確認されているが、大木9式期の住居跡は3遺跡で9軒(湯ノ沢B遺跡4軒、湯ノ沢D遺跡3軒、地蔵田A遺跡2軒)である。また、複式炉で石組部+掘り込み部の形態をなす石組複式炉は「湯ノ沢D遺跡」の2軒のみであり、確認例は少ない。この形態の炉をもつ住居跡は、県内では鹿角市「天戸森遺跡」、能代市「鳥野遺跡」、大館市「山王岱遺跡」などで確認されているが数量は少ない。また仙北郡協和町「上ノ山1遺跡」のSI37B竪穴住居跡の炉や北秋田郡比内町「本道路」の18、21、23号住居跡は大木10式期ではあるが、石囲部の外側(壁際)に掘り込みをもつ炉と報告されており、類似する形態と考えられる。

竪穴遺構は9基確認された。平面は方形、円形、楕円形、不整長方形、不整形を呈し、楕円形を呈するものが多いが、性格は不明である。なお、1号竪穴遺構は方形を呈し、主柱穴が4個認められる。時期については、出土遺物から3、4、7、9号竪穴遺構が縄文時代前期中葉から後葉、1、2号竪穴遺構が縄文時代中期後葉、6号竪穴遺構が弥生時代前期である。

土壙は241基確認された。形態は断面形が袋状あるいはフラスコ状を呈するものと、平面が円形または楕円形を 呈して比較的浅いものに分けられる。土壙は調査区全体に分布しているが、断面形が袋状あるいはフラスコ状を呈 するものは調査区中央部と西側に集中し、調査区中央部の土壙はかなりの切り合いが認められる。時期については、 出土遺物が少なく明確にすることができないが、断面形が袋状あるいはフラスコ状を呈するものは出土遺物から縄 文時代前期の竪穴住居跡に伴りものと考えられる。なお、縄文時代前期以外のものとして、3、6、13、196号か ら縄文時代中期後葉の土器が、16、186号土壙から縄文時代後期の土器が、1号土壙から弥生時代前期の土器が出 土している。

土器は施文様により6群に大別し、さらに類に細別した。第 I 群土器は縄文時代前期の土器で、「児桜貝塚」や「御所野丘陵部遺跡群」などで出土している。 1 類は不整撚糸文を施すもので、大木2 a 式土器、 2 類は綾絡文を施すもので大木2 式土器、 3 類は羽状縄文を施すもので大木2 a ・ b 式土器にみられるものである。 4 類は沈線で文様を作り出すもので大木4 式土器と考えられる。 5 類の口縁部に撚糸圧痕や単軸絡条体圧痕を平行して施すものや 8 類の木目状撚糸文を施すものは円筒下層 b 式土器にみられ、 6 類の網目状燃糸文を施すものは円筒下層 b 式期から認められる。 これらの土器は前期中葉から後葉にかけてのものである。 第 II 群土器は縄文時代中期の土器である。 1 類は渦巻文を施すもので大木8 a 式土器である。 9 類は幅の狭い磨消帯が縦位方向に展開するもので、大木9 式土器である。 第 II 群土器は後期の土器である。 数条の沈線により文様を作り出すもので、十腰内 I 式土器である。 第 IV 群土器は後期の土器である。 3 類は大洞B 式土器で、 2 類はB C 式に入るものかもしれない。 3 類は大洞C 、式土器である。 第 V 群土器は須恵器で、平安時代のものである。 第 II ~ V 群土器は「御所野丘陵部遺跡群」で類例が認められる。 第 V 群土器は項恵器で、平安時代のものである。 他に胸厳器(青磁碗、他)も数点出土しているが、小破片で図示できなかった。

地ノ内遺跡は、河川面からの比高差が7~8mの河岸段丘上に立地し、縄文時代前期中葉から後葉及び縄文時代 中期後葉を主体とする集落跡であることが判明した。本市では確認例の少ない時期の調査であり、当該期の集落の あり方や遺跡の立地を知るうえで参考となる遺跡であり、貴重な成果を得たと考えている。そして、それぞれの時 期における台地の利用状況や、住居及び土壙の配置関係などについては、今後周辺遺跡等の調査によって解明して いかなければならないと考えている。

- 註1 「児桜貝塚」 秋田考古学協会 1965年9月
- 註2 「小阿地東」」清條発掘調查報告書」 秋田市教育委員会 1996年3月
- 註3 「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 狸崎B遺跡」 秋田市教育委員会 1993年3月
- 註4 「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 地蔵田A遺跡」 秋田市教育委員会 1994年3月
- 註5 「秋田市下堤D遺跡発掘調査報告書」 秋田市教育委員会 1982年3月
- 註 6 「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 下堤F遺跡」 秋田市教育委員会 1985年 3 月
- 注7 「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ 上ノ山Ⅱ遺跡」 秋田県文化財調査報告書第166集 秋田県教育委員会 1988年3月
- 註8 「杉沢台遺跡発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第83集 秋田県教育委員会 1981年3月
- 註 9 「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 湯ノ沢B遺跡」 秋田市教育委員会 1983年 3 月
- 註10 「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 湯ノ沢D遺跡」 秋田市教育委員会 1985年3月
- 註11 「住居の炉」 目黒吉明 縄文時代の研究8文化・社会 雄山閣出版株式会社 1982年5月
- 註12 「天戸森遺跡発掘調査報告書」 鹿角市教育委員会 1984年3月 「県道田山・花輪線関係遺跡発掘調査報告書II —天戸森遺跡—」 秋田県文化財調査報告書第248集 秋田県教育委員会 1994年3月
- 註13 「鳥野遺跡第2~6次発掘調査概報」 秋田県山本郡二ツ井町教育委員会 1992年~1995年 「鳥野遺跡について」 和泉昭一 よねしろ考古第8号 よねしろ考古学研究会 1993年11月
- 註14 「国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書V 山王岱遺跡」 秋田県文化財調査報告書第221集 秋田県 教育委員会 1992年3月
- 註15 「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書II 上ノ山 I 遺跡」 秋田県文化財調査報告書第166集 秋田県教育委員会 1988年3月
- 註16 「本道端遺跡」 北秋田郡比内町教育委員会 1986年3月

参考文献

秋田県教育委員会:「七曲台遺跡群発掘調査報告書 石坂台 I 遺跡」 秋田県文化財調査報告書第125集 1985年 3 月

秋田県教育委員会:「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 I 石坂台区遺跡」 秋田県文化財調査報告書第150集 1986

年11月

秋田県教育委員会:「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書》 ─下田遺跡─」 秋田県文化財調査報告書第189集 1990

年3月

秋田県教育委員会:「五百刈田遺跡発掘調査報告書 ―県道協和・松ケ崎線緊急地方道路整備工事に係る埋蔵文化財発掘調

查一」 秋田県文化財調査報告書第194集 秋田県教育委員会 1990年3月

秋田県教育委員会:「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 XX 一蟹子沢遺跡一」 秋田県文化財調査報告書第261集

1996年3月

秋田市教育委員会:「蟹子沢遺跡 一宅地造成に伴り緊急発掘調査報告書一」 1995年3月

秋田市都市開発部:「下タ野遺跡発掘調査報告書」 1979年11月 秋田市教育委員会:「下タ野遺跡発掘調査報告書」 1981年3月 秋田市教育委員会:「後城遺跡発掘調査報告書」 1981年3月

岩手県立博物館:「岩手の土器 一県内出土資料の集成一」 1982年3月

中 村 良 幸:「複式炉について」 考古風土記第7号 1982年4月

南外村教育委員会:「大畑窯跡発掘調査報告書」 1981年7月

福島市教育委員会:「第三期山村振興漁業対策事業水原水谷地地区農道改良工事関連遺跡発掘調査報告 宇輪台遺跡」 福

財団法人福島市振典公社 島市埋蔵文化財報告書第58集 1993年5月



遺跡遠景(北東→)



調査前 (南東→)

図版1



調査区全景 (南東→)



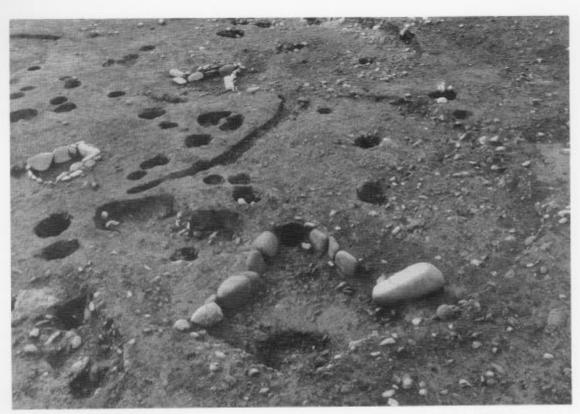
調査区全景 (南西→) 図版 2



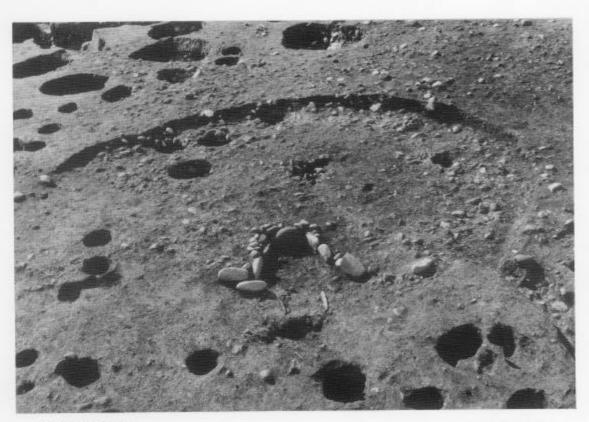
1、2号住居跡(南東→)



3 号住居跡 (南東→) 図版 3



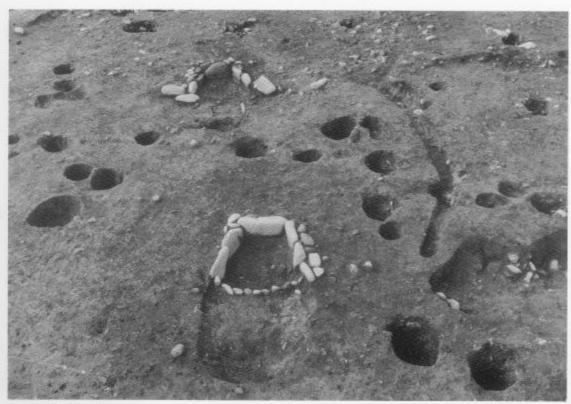
4 号住居跡 (北東→)



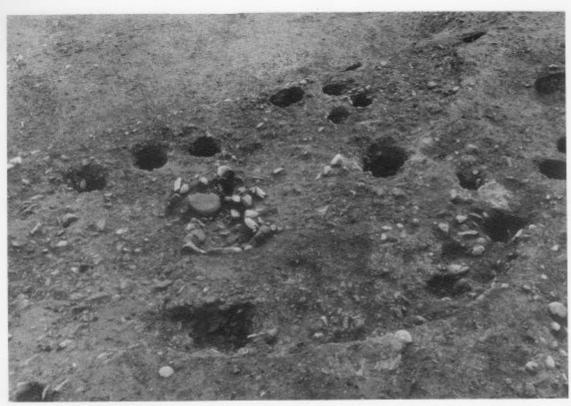
5 号住居跡 (東→) **図版 4**



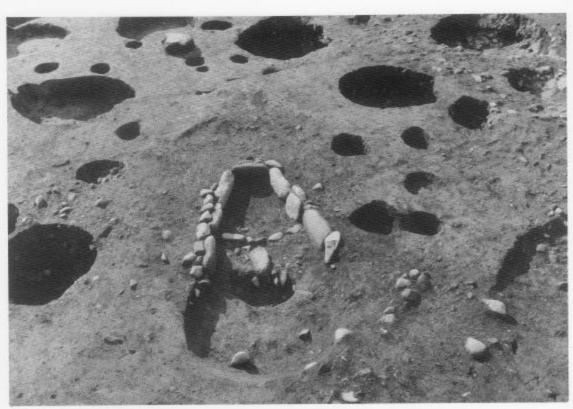
6号住居跡 (東→)



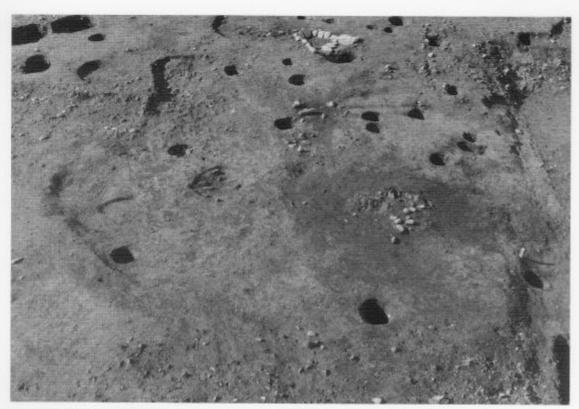
7号住居跡 (東→) 図版 5



8 、 9 号住居跡 (北→)



10号住居跡 (東→) 図版 6



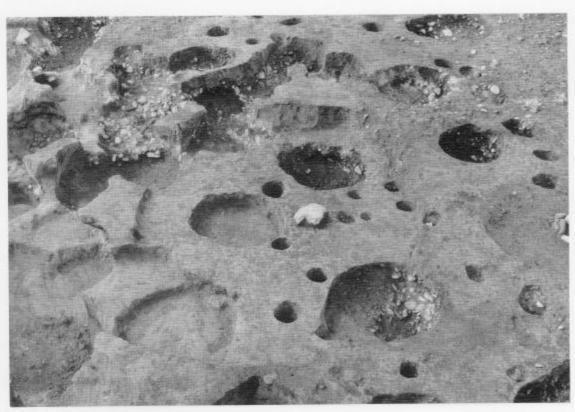
11号住居跡 (南東→)



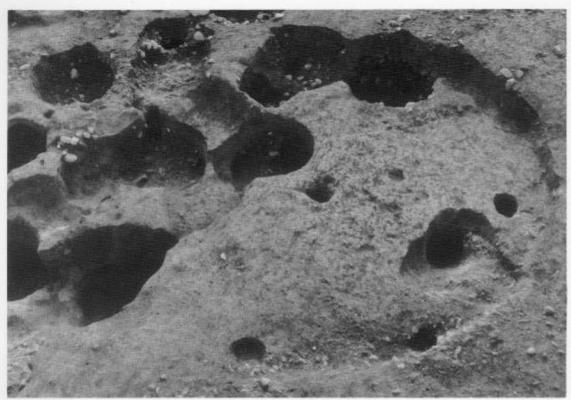
12号住居跡 (北→) **図版 7**



13号住居跡 (東→)



14号住居跡 (南東→) **図版 8**



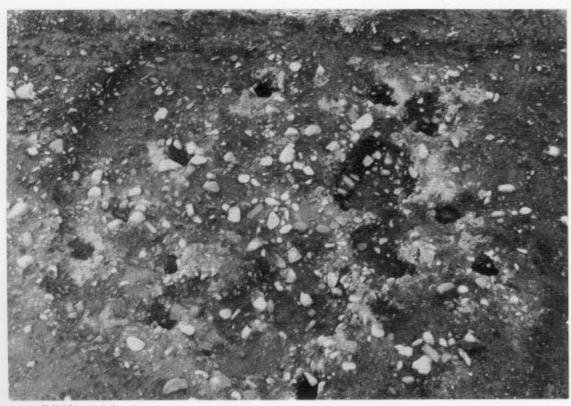
15号住居跡(北東→)



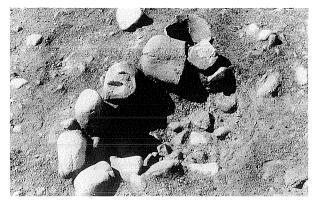
17号住居跡(南→) **図版 9**



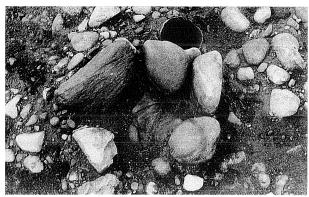
18号住居跡 (南→)



19号住居跡(南東→) 図版10



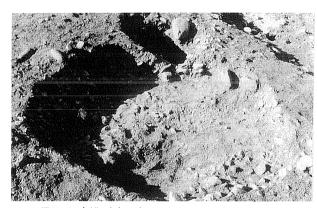
2号住居跡炉(北東→)



20号住居跡炉(北東→)



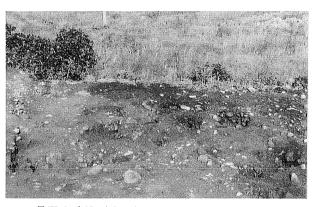
1号竪穴遺構(南西→)



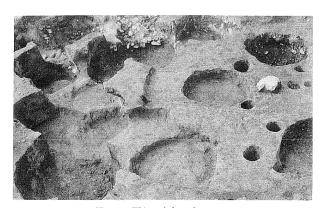
2号竪穴遺構(南→)



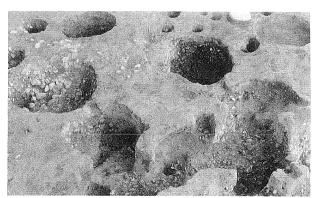
4 号竪穴遺構(北東→)



9号竪穴遺構 (南→)

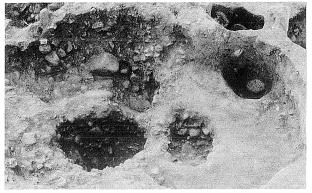


39、58、60号土壙周辺(南→)



40、44、45、87号土壙周辺(北西→)

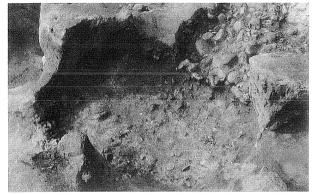
図版11



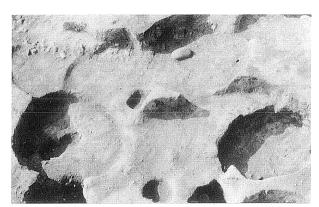
48号土壙 (北→)



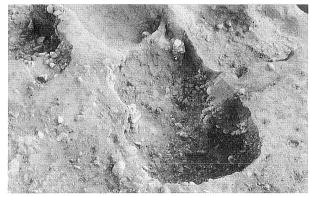
59、60号土壙 (北東→)



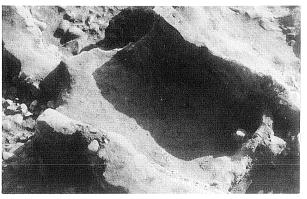
62号土壙 (東→)



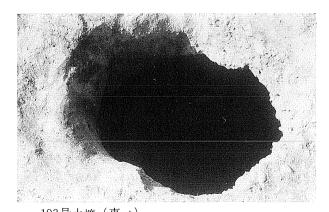
56、68、69号土壙周辺(北東→)



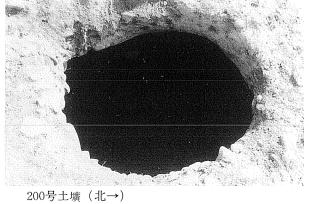
76、77号土壙 (北西→)



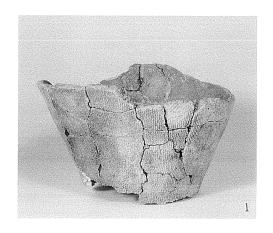
82号土壙 (北西→)

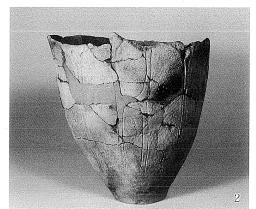


193号土壙 (東→)



図版12

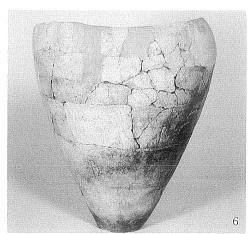












 1
 2 号住居跡

 2 ~ 4
 4 号住居跡

 5
 5 号住居跡

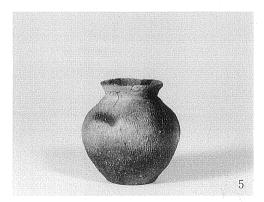
 6
 8 号住居跡



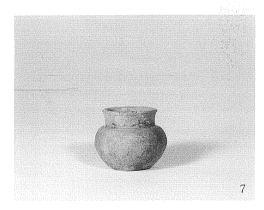




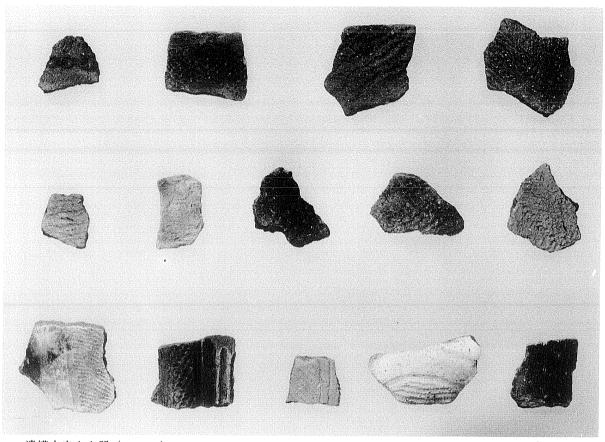




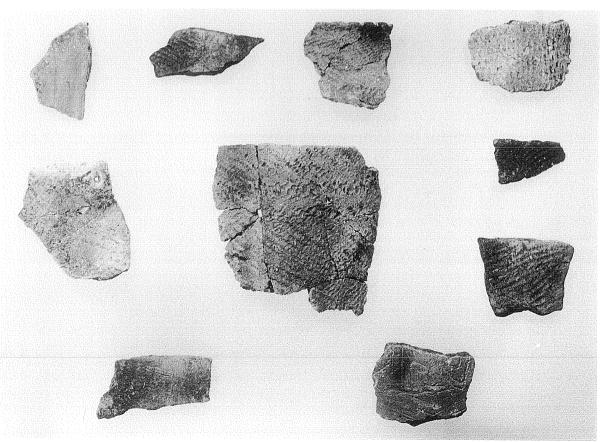




1 8 号住居跡 2 20号住居跡 3~7 遺構外

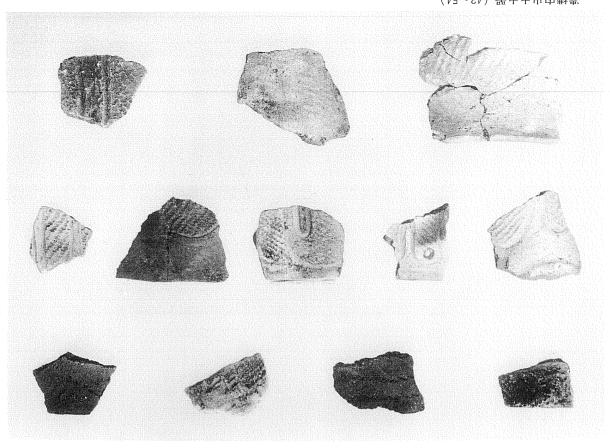


遺構内出土土器 (9~22)

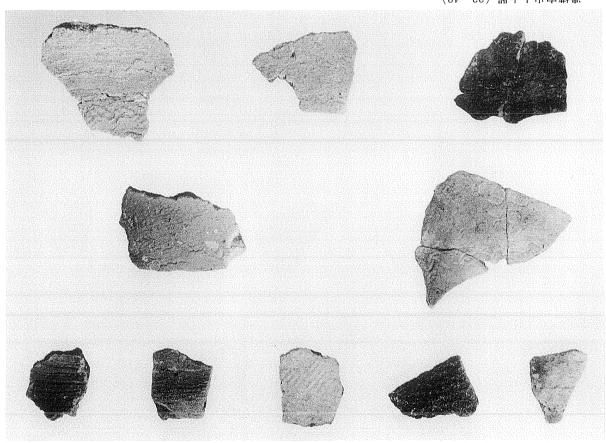


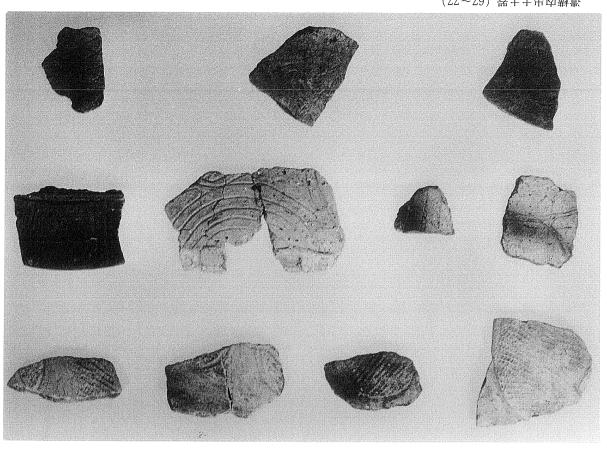
遺構内出土土器 (23~32) **図版15**

逐端16 運樓均出土土器(43~54)

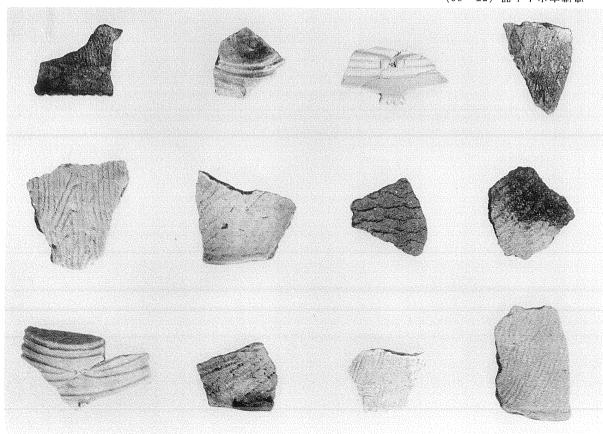


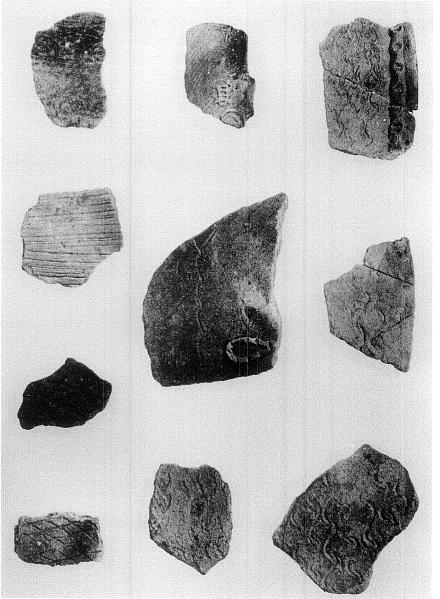
遺構内出土土器 (33~42)



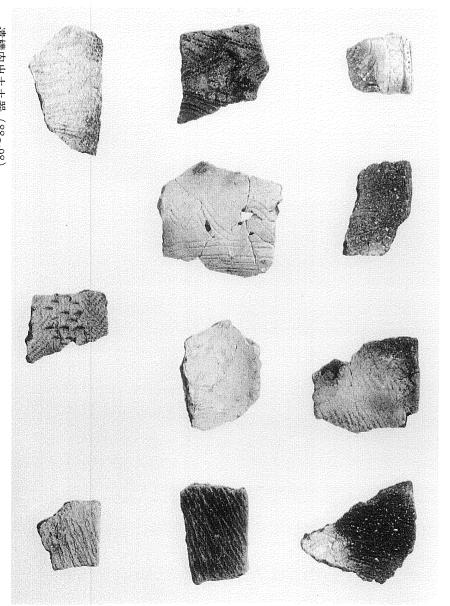


(55~66) 器土土出内斠憲

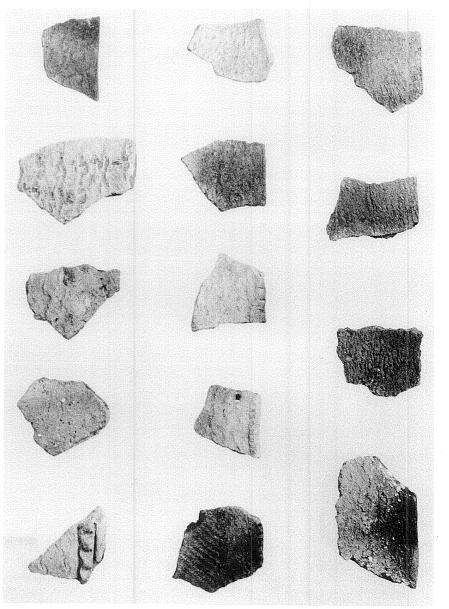




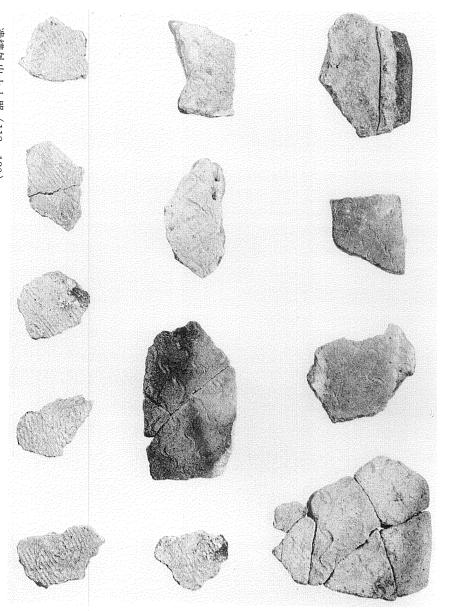
遺構内出土土器(78~87)



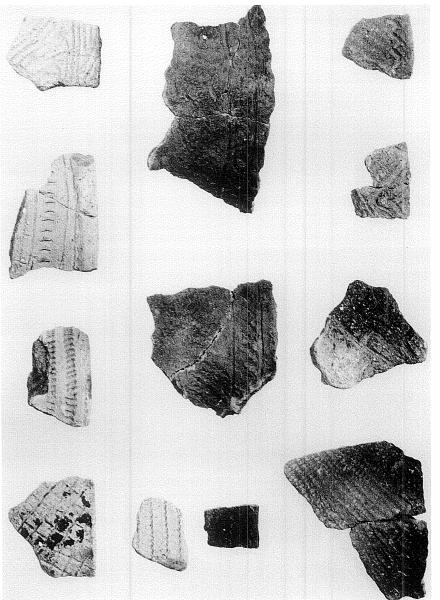
遺構内出土土器 (88~98) 図版18



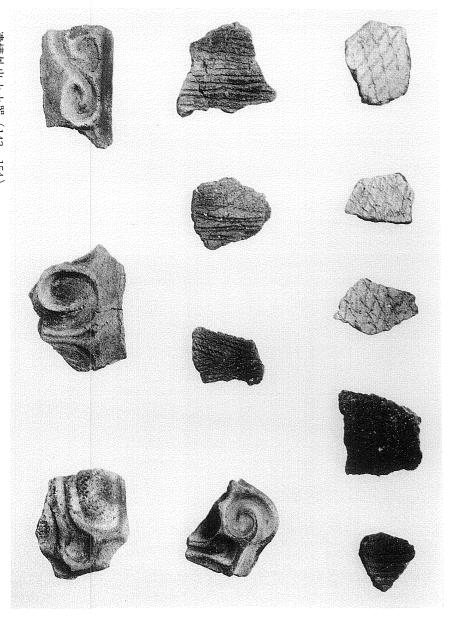
遺構外出土土器 (104~117)



遺構外出土土器 (118~130) 図版19



遺構外出土土器(131~142)



遺構外出土土器(143~154) **図版20**